

幼稚園・こども園・保育所における 子育ての支援の進め方に関する研究

—親と子が共に育つ支援の質的充実を図るための事例集作成を通して—

【研究の概要】

幼稚園等で、幼児に対する保育とともに重要な役目とされている子育ての支援は、保育の外注化やサービス化として進めるのではなく、園と保護者のパートナーシップを形成し、子どもの健やかな成長につなげることが大切である。この研究では、子育ての支援を「保護者の幼児期の教育に関する理解力の向上」という視点で見直し、質的に充実させていくための進め方について研究し、研究協力園での実践事例を通してその有効性を明らかにした上で、その成果を「親と子が共に育つ子育ての支援事例集」としてまとめた。

キーワード：子育ての支援、親と子が共に育つ、支援の質的充実、育成型支援

《研究協力園》

盛岡市立太田幼稚園

花巻市立花巻幼稚園

九戸村立幼稚園ひめほたるこども園

岩手大学教育学部附属幼稚園

花巻市立湯本保育園

《研究協力員》

花巻市教育委員会 福岡 喜久子

平成 28 年 3 月

岩手県立総合教育センター

教科領域教育担当

吉田 澄江

新沼 健

目 次

I	研究主題	1
II	研究主題設定の理由	1
III	研究の目的	1
IV	研究の目標	1
V	研究の見通し	1
VI	研究構想	
1	幼稚園・こども園・保育所における子育ての支援の進め方についての基本的な考え方	
(1)	幼稚園等における子育ての支援の分類について	2
(2)	育成型支援の必要性について	2
2	研究に取り入れる手立てについての基本的考え方	
(1)	育成型支援に含まれる要素	3
(2)	(1)を満たす実践事例の収集	4
3	研究構想図	6
VII	実践と結果の考察	
1	実践構想	
(1)	研究協力園における子育ての支援の実践	7
(2)	研究協力員による子育ての支援の企画と考察	7
2	検証計画	
(1)	保育者の意識変容の検証	7
(2)	保護者の意識変容の検証	8
3	研究協力園による実践事例	
(1)	盛岡市立太田幼稚園の実践事例	9
(2)	花巻市立花巻幼稚園の実践事例	15
(3)	九戸村立幼稚園ひめほたるこども園の実践事例	31
(4)	岩手大学教育学部附属幼稚園の実践事例	39
(5)	花巻市立湯本保育園の実践事例	61
4	実践結果の分析と考察	
(1)	盛岡市立太田幼稚園の実践から	70
(2)	花巻市立花巻幼稚園の実践から	70
(3)	九戸村立幼稚園ひめほたるこども園の実践から	71
(4)	岩手大学教育学部附属幼稚園の実践から	72
(5)	花巻市立湯本保育園の実践から	73
(6)	花巻市教育委員会の企画「ニコニコせんせい体験」についての研究協力員による考察	74
VIII	研究のまとめ	
1	研究の成果	75
2	今後の課題	76
IX	引用文献及び参考文献	76

I 研究主題

幼稚園・こども園・保育所における子育ての支援の進め方に関する研究
—親と子が共に育つ支援の質的充実を図るための事例集作成を通して—

II 研究主題設定の理由

平成26年に告示された『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』では、「子どもに対する学校としての教育及び児童福祉施設としての保育並びに保護者に対する子育ての支援について相互に有機的な連携を図られるよう」にすることが示されている。有機的な連携とは、日常の様々な機会を活用し保護者との相互理解を深めること、保育の活動に対する積極的な参加を促すことなどを通して、保護者の子育てを自ら実践する力を高めることである。家庭での養育が大きな割合を占める幼児期に、保護者と幼稚園・こども園・保育所（以下、「幼稚園等」とする）が幼児期の発達や教育について相互に理解を深め協働することで、幼児の自己肯定感や安定した情緒を育み、幼児期に育つべき主体性、すなわち生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を育成することができる。

しかし、各幼稚園等では、情報交換の機会や幼児との活動の機会は設けているものの、その目的が明確でなく、保護者に対して幼児期の教育の意義を十分伝えられていない現状がある。その要因として、「幼児教育は目先の結果のみを期待しているのではなく、『後伸びする力』を培うことを重視している」（中教審答申，2005）ことや、「幼児の内面に働き掛け、一人一人の持つ良さや可能性を見いだし、その芽を伸ばすことをねらいとするため、小学校以降の教育と比較して『見えない教育』と言われることもある」（同答申）といった幼児教育の本質にかかわることを各園が正しく理解すること、保育の中でそれを実現していくこと、そして発信していくことが十分にできていないことが挙げられる。そのために、幼児が遊びの中で主体的に試行錯誤することよりも、早く効率よく何かができるようになることを望む保護者が増えるなど、幼児期に育てるべき力を育てにくい状況が見られる。また、幼稚園等は他園に出向く機会が少なく、研修等の機会も限られているために、様々な支援の取組の情報が少なく、改善が進みにくい状況も見られる。

そこで、幼稚園等における子育ての支援の進め方について研究し、事例集を作成することを通して、県の幼稚園等教育の課題の解決を図ろうと考え、本研究主題を設定した。

III 研究の目的

幼稚園等における子育ての支援の基本的な方向性を示すことで、県内の幼稚園等の子育ての支援の充実を図り、幼児の生きる力の基礎の育成に資する。

IV 研究の目標

幼稚園等における子育ての支援の基本的な方向性を研究し、県内の子育ての支援の実践事例を保護者の幼児期の教育に関する理解力の向上という視点で収集・整理し、「幼稚園・こども園・保育所における親と子が共に育つ子育ての支援事例集」を作成・普及することで県内各園の子育ての支援の充実を図る。

V 研究の見通し

幼稚園・こども園・保育所における園児の保護者を対象とした子育ての支援において、保護者が子育てに意義を見出せるようになるために、保護者の幼児期の教育に関する理解力の向上という視点で

見直しを行い、研究協力園での実践によってその効果を明らかにし、実践事例集を作成・普及する。

VI 研究構想

1 幼稚園・こども園・保育所における子育ての支援の進め方についての基本的な考え方

(1) 幼稚園等における子育ての支援の分類について

本研究では幼稚園等における子育ての支援の分類を、蒲原基道氏(2006)による分類を参考に、【表1】のように2分類と捉えた。

【表1】幼稚園等における子育ての支援の分類

分類	内容	具体例
育成型支援	保護者が子育てに意義を感じ、前向きに取り組むようになるための精神的な支援	園での保育参加・保護者の学びの場の提供等
代替型支援	保護者の子育ての負担感を物理的に減らす支援	預かり保育・延長保育等

(2) 育成型支援の必要性について

ア 『幼稚園教育要領』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』・『保育所保育指針』の考え方から

幼稚園等においては、子どもに対する教育・保育とともに、保護者に対する子育ての支援を行うことも重要な役目とされている。

子育ての支援全体としては、預かり保育や延長保育のような代替型の支援も必要である。しかし、『幼稚園教育要領』によると、「家庭との緊密な連携を図るようにすること。その際、情報交換の機会を設けたりするなど、保護者が、幼稚園と共に幼児を育てるという意識が高まるようにすること。」とあり、『幼稚園教育要領解説』にも、同項について「教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動は、家庭の教育力を損なうものであってはならない。そのため、保護者との情報交換などを通じて、教育課程に係る教育時間の終了後に行う教育活動の趣旨や家庭における教育の重要性を保護者に十分に理解してもらい、保護者が、幼稚園と共に幼児を育てるという意識が高まるようにすることが大切である。」とあるように、子育てを代替する形の預かり保育であっても、保護者の幼児期の教育に対する理解を促すことを意識して行うことについて明記されている。

イ 現在の国の動向から

平成27年4月1日に始まった「子ども・子育て支援新制度」の目指すものは、①待機児童の解消、②少子化の中での幼児教育の確保、③質の高い幼児教育、④子育て支援の拡充である。このような内容であるにもかかわらず、世の中の目の多くは、①の待機児童の解消に向いている傾向があり、幼児を今よりも「預けやすくなる」ことが注目されている。つまり、育児を代替する機能としての子育ての支援への期待が保護者の間で高まっている。その背景は、雇用状況の問題、核家族化・家庭の孤立の問題、社会の価値観の多様化等が複雑に絡み合っていると考えられる。しかし、幼稚園等でもっとも大切にしたいことは、③質の高い幼児教育を展開すること、またその価値を保護者に理解してもらうことである。

また、「幼稚園における子育て支援は、『親と子が共に育つ』という観点から実施し、保護者の子育てに対する意欲を引き出し、その教育力を向上させるようにすることが大切である。つ

まり、保護者が、子育てに対する不安やストレスを解消し、その喜びや生きがいを見出すことができ、子どものよりよい育ちを実現するよう、子育て支援を実施する必要がある。」(子育て支援に関する研修プログラム作成協力者会議, 2008) とあるように、幼稚園等における子育ての支援は、単に保護者の子育てを代替するものではなく、保護者の幼児期の教育に対する理解力を育成するものであることが望ましい。

さらに、「子供の発達連続性を踏まえた幼児教育を充実するために、子供一人一人の多様性への配慮や学校と家庭、地域との連携強化の観点から、幼稚園における子育ての支援等について、具体的な留意事項の在り方等に関する検討を行う必要がある」(中教審論点整理, 2016) と示されており、よりよい幼児教育実現のために、子育ての支援をどのように進めていくことがよいかを考えていくことは、次期幼稚園教育要領改訂に向けても大きな課題の一つと言える。

ウ 保護者の状況とそれに関わる幼稚園等の現状から

『幼稚園教育要領解説』に「幼稚園教育が目指しているものは、幼児が一つ一つの活動を効率よく進めるようになることではなく、幼児が自ら周囲の環境に働きかけて、その幼児なりに試行錯誤を繰り返す、自ら発達に必要なものを獲得しようとする意欲や生活を営む態度、豊かな心を育むことである。」とあるが、幼児期から文字や数など生活と乖離した概念的な学習を求める保護者に対し、幼稚園等が幼児期の教育の意義を適切に伝えられていない状況がある。そして、保護者は、子育ての煩わしさからは逃れたい一方で、早く“いい子”に育てたいという思いは強くもっているという状況になっている。

子育ての支援が、このような親の都合のみに左右されるものではなく、幼児がよりよく育つため、つまり幼児が生きる力の基礎を育み、保護者が子育ての意義を感じられるものとなることが重要である。

幼児の生きる力の基礎を育むことにつながる支援とは、

- ・ 幼児との愛着関係が深まるような支援になっていること
- ・ 幼児期の発達を理解し、その発達に即した子育てを進める意欲が喚起できる支援になっていること
- ・ 幼児が本来もっている主体性、能動性を大事にしようとする態度が養われる支援になっていること

と捉える。

以上のことから、本研究における「子育ての支援」とは、「在園児の保護者に対する育成型の支援」とする。

2 研究に取り入れる手立てについての基本的考え方

(1) 育成型支援に含まれる要素

『幼稚園教育要領解説』, 那須信樹 (2014), 伊藤良高 (2014), 井桁容子 (2015) により、本研究における育成型支援を展開する上で必要な要素を次ページに【表2】のように4つに絞り込んだ。

【表 2】 育成型支援の展開のために必要な 4 つの要素

- | | |
|---|--|
| A | 園と保護者の信頼関係の構築 |
| B | 保護者の幼児期の教育に関する理解を深めるための園からの働きかけ
(学習・体験・相談の機会の保障, 伝達・説明) |
| C | 保護者の幼児への共感的関心, 子育ての喜びの実感 |
| D | 保育者等他者の幼児へのかかわりやまなざしによる保護者の発達の見方の学び
(モデリング) |

この 4 つの要素は育成型支援にとって不可欠なものであるが、園運営全体としての育成型支援の中で網羅されるべきものである。

この 4 つの要素を基に、保護者に対する子育ての支援の具体的な方策を構築していくこととした。

(2) **【表 2】**を満たす実践事例の収集

【表 2】の A～D の実現のための子育ての支援の在り方を、那須信樹 (2014) による 4 つの分類 (「情報発信型支援」「行事型支援」「相談・助言型支援」「居場所・交流型支援」) を参考とした子育ての支援の類型を作成し、**【表 3】**のようにまとめてみた。那須氏の分類は、未就園児や地域も視野に入れた子育ての支援を対象とした分類であるため、氏の分類を参考にして、在園児を対象とした子育ての支援となるように考えた。これに基づいた実践を各園に依頼し、検証することとした。

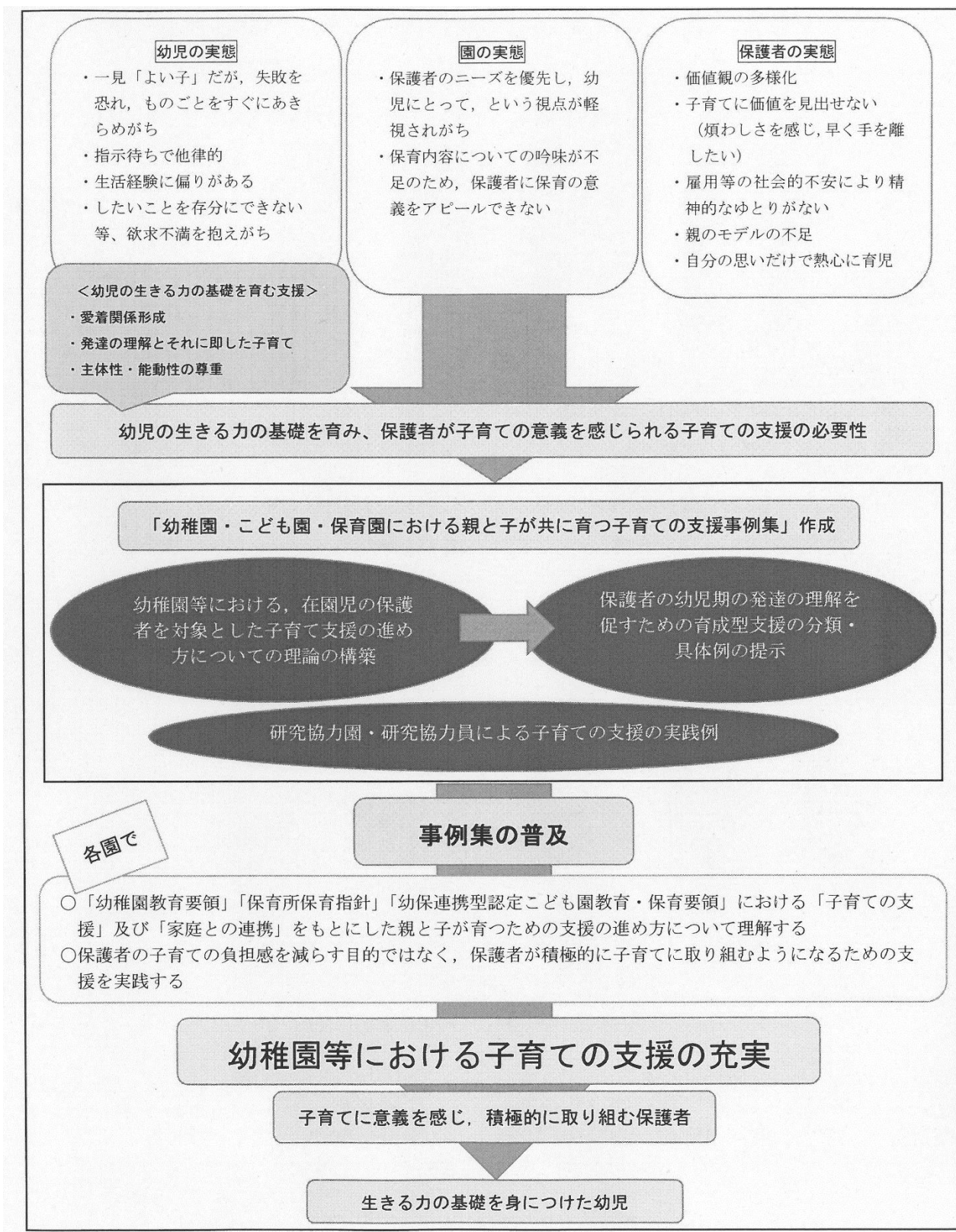
【表3】幼稚園等における在園児の保護者に対する育成型支援の類型

	ねらいと内容	保護者にとっての意義	支えとなる保育の質を保つための視点	園での留意点	実践例
情報発信型支援	<ul style="list-style-type: none"> 園生活や保育内容・幼児の学びや育ちを可視化する（要素A, B） 保育の意図や子育てに有益な情報を発信する（要素B, D） 	<ul style="list-style-type: none"> 園生活の様子を具体的にイメージできる 幼児の育ちを理解する一助となる 得た情報を基に自分の子育てや幼児へのかかわり方について軌道修正することができる 	<ul style="list-style-type: none"> その時期毎の発達観が園内で共有されている 幼児の姿の読み取り及び援助が適切である 	<ul style="list-style-type: none"> 事実の羅列だけでなく、幼児の経験内容や育ちの見通し、保育者の意図的なかかわりなど教育的な観点からの考察をわかりやすく添える 園からの一方通行ではなく、保護者の声を拾う等双方向的なものとなるように工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> 通信（園日より、学年日より、学級日より、保健日より等） ホームページ 連絡帳 掲示物 保護者会 子育て講演会等
行事・体験型支援	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の育ちの連続性と園と保護者の連携を意識化できる（要素A, C, D） 直接体験を通して、幼児への共感的関心を高める（要素C） 我が子と共に他の幼児を見ることで、幼児理解を促す（要素B） 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者のかかわりから、子育てのヒントを得る 他の幼児を見ることで幼児理解が深まる 我が子との共通体験を通し、親子の共感性が高まる 他の保護者のかかわりや考え方に触れる機会となる 	<ul style="list-style-type: none"> その時期の発達の捉えや行事・活動のねらいが適切である 保護者のモデルとなり得る一人一人に応じた適切な援助が行われている 	<ul style="list-style-type: none"> その時期毎に保護者や幼児に体験して欲しい内容を整理しておく 行事の前にその時期の幼児の育ちや、行事の趣旨を丁寧に伝える アフターフォローを大切に（事後に保護者と保育者でミーティングをして感想等を交流することで様々な見方に触れる機会とする） ミーティングをできなくても、感想等を記述で提出してもらい、通信で知らせることにより、見方を深めたり広めたりする 運動会や発表会など、それまでの活動の集大成として見てもらう場合、当日の出来栄だけでなく、活動の途中経過や取組の様子などを知らせ、幼児の育ちにとって意味ある経験となっていることを伝える 	<ul style="list-style-type: none"> 保育参加 保育参観 親子遠足 運動会 発表会等
相談・援助型支援	<ul style="list-style-type: none"> 保護者個人の相談・助言など悩みを解決したり、幼児理解を深めたりし、保護者の不安感を解消する（要素B, D） 園の職員との信頼関係をつくる（要素A） 	<ul style="list-style-type: none"> 子育ての不安を解消する 我が子を別の視点から見ることができ、理解が深まる 園の職員との信頼関係が深まる 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児一人一人の育ちを適切に見取り、援助の方向性を明らかにしている 	<ul style="list-style-type: none"> 相談に関しては特に信頼関係が基本となるので、日常的に気軽に話せる雰囲気や園全体で作る 話を聞くときには、まず共感的に受け止め、指示的にならず一緒に考える姿勢を大切にしている 個人情報の取り扱いに留意する 	<ul style="list-style-type: none"> 個別面談 家庭訪問 送迎時の会話 連絡帳 電話による相談等
居場所・交流型支援	<ul style="list-style-type: none"> 園内サークル等の活動を通して保護者同士の親睦を深める（要素B） 活動を通して保育に参加する（要素C） 保育参加後や保護者会時にグループでのディスカッションで考えや視野を広げる（要素B, D） 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の仲間作りの場となる 保護者同士の共感性が高まる 他の保護者の考えに触れ、保護者同士の学び合いが可能となる サークルの活動を保育に生かすことで、園と共に幼児を育てる実感を得る 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の幼児の姿の見取りとそれに対する保育者の適切な見解がある 幼児の見取り方が深まるような園内での取組がある 	<ul style="list-style-type: none"> サークル活動・茶話会等では保護者が主体性を発揮できる仕組みを構築する。 サークル活動等は、園児に還元できる内容のものを行うようにする グループでのディスカッションでは、その時期毎のテーマを設け、保育者はファシリテーター役をしながらも、結論を一つにまとめず、様々な保護者の自発的な語りを大切にしている 	<ul style="list-style-type: none"> 園内サークル 保護者会 保育参加後のミーティング 茶話会 談話会等

アルファベットは【表2】の育成型支援に含まれる要素A～Dを表す。

3 研究構想図

研究の全体構想については、【図1】のように考えた。



【図1】 研究構想図

Ⅶ 実践と結果の考察

1 実践構想

(1) 研究協力園における子育ての支援の実践

ア 盛岡市立太田幼稚園

- (ア) 保育参観・懇談会（行事・体験型支援）
- (イ) 送迎時の対応（相談・援助型支援）
- (ウ) 連絡帳（相談・援助型支援）

イ 花巻市立花巻幼稚園

- (ア) 園だより（情報発信型支援）
- (イ) 先生体験（行事・体験型支援）
- (ウ) 特別支援相談（相談・援助型支援）
- (エ) 茶話会（居場所・交流型支援）

ウ 九戸村立幼稚園ひめほたるこども園

- (ア) 掲示物（情報発信型支援）
- (イ) 子育て講演会（情報発信型支援）
- (ウ) 親子絵本貸出（行事・体験型支援）

エ 岩手大学教育学部附属幼稚園

- (ア) 園だより（情報発信型支援）
- (イ) 保護者会（情報発信型支援・居場所・交流型支援）
- (ウ) 連絡帳（相談・援助型支援）
- (エ) 保育参加・ミーティング（行事・体験型支援，居場所・交流型支援）
- (オ) 誕生会・談話会（居場所・交流型支援）
- (カ) クラブ活動（居場所・交流型支援）

オ 花巻市立湯本保育園

- (ア) 園だより（情報発信型支援）
- (イ) 先生体験（行事・体験型支援）
- (ウ) 保育参加（行事・体験型支援）

(2) 研究協力員による子育ての支援の企画と考察

研究協力員の所属する花巻市教育委員会では、就学前教育推進計画の中で、家庭における教育力の向上を目指した、乳幼児教育に対する理解の促進のための取組として、昨年度より市内の公立幼稚園・保育所において、保護者の保育体験である「ニコニコせんせい体験」に取り組んでいる。この取組の趣旨や昨年度の成果を知らせていただくとともに、今回の研究協力園である花巻市の公立幼稚園・保育所が、花巻市教育委員会から示された「ニコニコせんせい体験」を、それぞれの園が独自性を生かして取り組む様子を企画側の立場から考察してもらう。

2 検証計画

(1) 保育者の意識変容の検証

ア 子育ての支援を行う際の前年度までの意識と、今年度の意識の違いを記述または聞き取り検証する。

イ これまで行ってきた子育ての支援を「保護者の幼児教育に関する理解力の向上」という観点で見直しを図ったことによる手応えについて記述または聞き取りで検証する。

(2) 保護者の意識変容の検証

ア 子育ての支援実施後の感想等を記述，聞き取り，ビデオ録画等で検証する。

イ 子育ての支援実施後の変容について，保育者から聞き取りで検証する。

ウ 長期にわたる支援と変容については，記録による検証をする。

3 研究協力園による実践事例

(1) 盛岡市立太田幼稚園の実践事例

ア 保護者の子育てに対する不安感を安心感に変えるお弁当参観と懇談会の事例

【表3】行事・体験型支援

→【表2】要素A, B, C, D

(ア) 本実践における工夫 (6月10日 年中組 保護者17名参加)

① お弁当参観における工夫

a 参観のお知らせの事前配付

- ・視点を明示して昼食準備や昼食時の姿を実際に見てもらい、園生活について理解してもらおう。
- ・細かな流れも明示することで、参観の仕方をイメージして臨むことができるようにする。

【資料1】参観懇談会のお知らせ (年中組)

そら組お弁当参観懇談会のお知らせ
平成27年5月28日
盛岡市立太田幼稚園

新しい環境にも慣れ、戸外で伸び伸びと遊ぶ様子が見られているこの頃です。
さて、お弁当参観と懇談会を下記のように行います。お子さんの姿をご覧になりながら、日頃の生活のことなどをお話する機会にしたいと思っておりますので、ぜひご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

日時 6月10日(水) 11:00~

日程 11:00 保育室集合
挨拶、出席調べ
歌、手遊びなど

11:30 お弁当の準備

- ・トイレ、手洗い
- ・リュック、コップ、椅子を持ってくる
- ・お弁当を出す
- ・『おべんとうのうた』を歌う
- ・「いただきます」の挨拶をする

お弁当の片付け

- ・食べ終わった子から片付けをする
- ・歯みがきをする
- ・休息をする
- ・みんなで「ごちそうさま」をする

12:20 懇談会(ホール)
*子どもたちは保育室で遊んで待ちます。

13:00頃 懇談会終了後、親子で降園

持ち物 ♪お家の方もおにぎりとお弁当のコップをご持参下さい。

あらかじめイメージして参観できるように、活動の流れを具体的に明示

参観の視点をわかりやすく示す

☆準備や片付けを一人で行うことができるかな？

☆楽しく食べているかな？

お子さんの食べる様子を見ながら、お家の方も一緒に食べましょう。

食後は一緒に絵本を見て休息しましょう。

b 見せたい子どもの姿を明確にした参観時間の設定

- ・年少組・年中組で日を分け、クラス毎に行う。
- ・保護者には 11:00 に集合してもらい、活動後の身辺整理から、昼食の準備、昼食、昼食後の片付けと一連の幼児の様子を参観してもらう。
- ・保護者は、入園・進級した子どもたちが、どのように集団生活の中で食事をしているのか、自分の作ったお弁当の量や内容は我が子に合っているのか、他の子はどのようなお弁当を食べているのかなど、気になる事をたくさん抱えている。幼児が楽しく食べる姿を見せることで、その不安の解消を図ることとともに、他の親子と共に食事をすることで心理的距離が近くなり、保護者の学級への所属感を高める効果をねらっている。実施時の保護者の様子を【実践記録 1】に示す。

【実践記録 1】お弁当参観の様子と保護者の声

＜お弁当参観の様子＞

- ・片付け終え、学級全体が保育室に集まったところからの参観。幼児と一緒に手遊び等をし、和やかなムードになったところでお弁当の準備に取り掛かる。保護者はにこやかに見ている。準備ができたところで、保護者が我が子の隣に座り、会食する。
- ・一つのテーブルを囲み食事を共にすることで、保護者同士や、保護者と他の幼児と親しくかわり、会話が弾んでいる様子が見られた。
- ・量やメニューを気にしていた保護者も、子どもたちが楽しそうに食べている様子を見て、これでいいのだと安心していた。



＜保護者の声＞

- ・お弁当の量が確認できてよかった。
- ・お弁当の量、少ないかなと思っていたが「食べきった」という満足そうな様子が見られるので、しばらくはこのままでもいいと思う。
- ・おなかがすいていなかったのか思ったより食が進まなかったため、起床時刻や朝食時刻を早めようと思う。
- ・お弁当の蓋やゴムのお弁当ベルトが、4歳児には扱いにくい物を持たせていたと反省した。我が子が自分でできずに大人に頼る様子があったので、自分でできるものに替えたい。
- ・早く食べ終わる姿を見て、お弁当を少し大きくしようと思った。
- ・家庭では甘えてご飯を食べさせてもらったり、お弁当包みも「やって」と言ってきたりするが、園では自分なりに最後まで自分でやろうとする姿が見えた。
- ・他の子のお弁当を見て、我が家は茶色系のおかずが多いと感じ、彩りを意識するようになった。
- ・補助箸を使っていたが、他の子の多くが普通の箸を使っていたので我が子にも挑戦させようと思った。

② 懇談会における工夫

a ねらいを明確にした懇談会の設定

- ・日頃感じていること、不安に思っていることなどを懇談し、悩みを共有したり、同じような姿からこの時期の幼児の特徴について知ったりし、子どもの育ちの理解につなげる。
- ・保護者一人一人が自己紹介を兼ねて話をすることで、お互いを知るきっかけとするとともに、共に子育てをする仲間としての共感的な雰囲気を醸成する機会とする。

b 子育ての不安を解消し、よさや喜びの実感につなげる教師の働きかけ

- ・保護者の悩みに共感しながら、けんかの場面など一見マイナスに見える状況が育ちに必要な経験となっているといった意味づけをし、園でも一人一人の育ちを引き出せるよう丁寧に見ていること、家庭と共に子どもの成長を支えていきたいと考えていることを伝える。

【実践記録2】懇談会の様子と実際の話題

<懇談会の流れと様子>

- ① ホールに保護者、担任、園長が集まり、お互いが見えるようにサークル型にイスを並べて座る。当該クラスの幼児の保育は、他の職員が行う。
- ② 初めに担任から最近の幼児の様子を話し、その後保護者一人一人からお弁当参観の感想や、最近の我が子の様子、気になっていることなどをざっくばらんに話してもらう。最後に園長が幼児の育ちや幼稚園教育についてまとめの話をする。
 - ・お互いの話を聞くことにより、多くの、特に男児の保護者が、けんかをしているのではないかと心配しているのが自分だけではないと分かり、さらに、この時期にむしろ必要な経験であることを担任や園長から伝えられたことで、気持ちにゆとりをもってみていこうという構えができたようで、ほっとした表情を見せていた。
 - ・手が出てしまう子の保護者がそのことを知らないわけではなく、むしろ気にして悩んでいる様子を見て、自分の子が被害に遭っていると少々怒った雰囲気で参観のはじめに入ってきた保護者も、「そうだったのか」と当該保護者の大変な思いを共有して、一緒に育てていこうという気持ちが芽生えたようだった。
 - ・お互いの話しを聞きながら聞き、ときにはどろんこの衣服の洗濯が大変で着替えがなくなりパジャマを持たせた等、子どもの楽しいエピソードなども飛び出し、初めは緊張した面持ちの保護者もいたが、次第に打ち解けていく様子が見られた。

<実際の話題> (抜粋)

担任

- ・友達とのかかわりが楽しい、心地よいと感じる様子が多く見られるようになってきている。石けんでの泡作りや砂場の川作り、室内のお家ごっこなど、2、3人で固まって一緒に心地よさを感じている。鬼ごっこなども友達と一緒に走り回ることが楽しい様子。かかわりが出てきたことで、その分けんかもある。思いをまだうまく伝えられなくて、教師と一緒に伝えたり、相手の思いはこうだったんだなど知ったりする機会になっている。これからもけんかはあると思うが、その都度丁寧にかかわって人とかかわり方を学んでいけるようにしたいと考えている。
- ・お弁当は準備から合わせて40分くらいかけて食べている。お弁当包みがうまくなってきた。友達と楽しく会話しながら食べている。

保護者

- ・虫が嫌いだったが、友達が捕まえるのを見て興味をもつようになった。
- ・集団生活は今年初めて。家では兄2人と互角にけんかしているが、園の様子を見ていると、意外に人見知り。家では友達の名前がよく出てくるので、友達に関心があるのだと思う。もっともっと自分からかかわって仲良くしたいと思っている様子。その仕方を模索しているのだと思う。たくさんのことを経験して友達とかかわっていけるとよいなと思っている。
- ・毎日どろんこになって遊んできて、楽しいんだろうな、と思う。
- ・年少組さんが入園したことで、お兄さんの自覚が出てきて、家庭でも弟に対し、遊ぶときには『入れて』って言うんだよ』などと教えている。
- ・家ではけんかで兄に手を出しているが、園では言葉で伝えていた。使い分けている。
- ・いつも皆さんに迷惑を掛けている娘だが、今日は〇ちゃんのパパ、と子どもたちが覚えていてくれて、一緒に遊べてよかった。

園長


- ・友達と過ごすことが楽しくなってきて、自分を出せるようになってきている。そのけんかも起きるが、お互いに自分を主張することで相手のことが分かるようになる。年中組が一番けんかの多い年齢。きっと、家庭ではこうされてイヤだった、と自分に都合のよいことを言うと思うが、園では、先生方が丁寧に見ていて、お互いの思いを引き出すようにしている。言葉で教えたからわかるのではなく、いろんなことが起きながら子どもは育っていくし体験しながら学んでいく。

(イ) 本事例の考察

- ・保護者によっては、我が子の生まれて初めての参観日になる。参観の流れがつかめ、かつ柔らかなトーンのおたよりは、参観や懇談会に対しての不安感を減じ、参加意欲を高める。(要素A, B)
- ・普段自分が作っているお弁当が、果たして我が子の今の状況に合っているのかどうかは実際見て分かる部分が多い。その意味でこの時期のお弁当参観は、これでいいんだという安心感や自信を得たり、この点を改善しようという方向性が見えたりする貴重な機会となっている。(要素B, C)
- ・実際のお弁当を目の前にして他の保護者と情報交換することは今後のお弁当作りの参考になる。(B)
- ・朝食時間等生活リズムの見直しをしたり、扱いにくいお弁当用具を幼児が自力でできる物に変えたりと、実際の様子を見て改善に取り組もうとする保護者の姿があり、それが幼児にとってよい状況を生み出すことにつながっている。食生活の改善が幼児の生活に好影響を及ぼす。(要素B, C)
- ・親子一緒に他の親子とともに会食することで、親同士の心理的な距離が近くなり、何かあったときに声を掛けやすい状況が生まれると思われる。(要素B)
- ・参観後の懇談会では、心配だったことが自分だけでなく他の保護者も同じだった、というところで共感が生まれ、またその心配だと思っていた姿はこの時期の幼児に特徴的な姿で発達の証だという担任や園長からの説明により、幼児期の発達についての学びを共有し、安心して一緒に育てていこうという気持ちの芽生えにつながった。子どもの話だけから伝わる情報が主観的・断片的であるので、様々な不安をもちやすいが、実際に子どもたちの様子を見、それに担任や園長からの解説が加わることで、幼児の行動の意味を理解する機会となっている。(要素A, B, C)
- ・たくさん保護者の話を聞くことで、そんな見方もあるのかと子ども理解の幅が広がっている。(要素B)

※年長組は、お弁当参観ではなく、遊びにどのように向き合っているのか、また遊びの中で友達とどのようにかかわっているか等を中心に参観してもらっている。安定した情緒の下での園生活を基盤に、どのように年長児が自分の学びを広げ、深めていっているのかという一歩踏み込んだ視点で保護者に見てもらい、懇談する。(要素B)

【資料2】参観懇談会のお知らせ(年長組)




たいよう組参観懇談会のお知らせ

平成27年5月28日
盛岡市立太田幼稚園


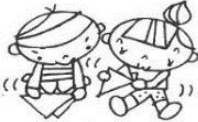
6月11日はたいよう組の参観・懇談会です。子どもさんと一緒に遊びながらどのようなことを楽しんでいるのか、友達とどのように関わっているかなどご覧ください。また、懇談では参観での感想、日頃感じていることや気になること、ご家庭での様子などを出し合い、情報交換していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。お泊り会についても話題にしたいと思っております。

ねらい

- 全身を使って遊ぶ楽しさを感じる。
- 興味を持ったことにじっくり取り組み、工夫したり試したりする。
- 友達と一緒に活動に取り組む楽しさを味わう。



日程

<p>8:30~○登園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・出席シールを貼る ・タオル、コップを出す <p>○好きな遊びに取り組む。</p> <p>*自分で遊びを決めて取り組んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家ごっこ ・店ごっこ ・鬼ごっこ ・砂遊び ・泡作り ・縄跳び <p style="text-align: right;">など</p> <p>10:30 ○片付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、手洗い <p>10:50 ○みんなで楽しむ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム、ゲーム、製作など <p>11:30 ○昼食(たいよう組保育室)</p> <p>12:20 ○降園準備</p> <p>12:30 ○親子で降園</p>	<p>*お子さんと一緒に来て参観して下さいでも結構です。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>9:45 ○お家の方登園</p> <p>○一緒に好きな遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *一緒に遊びながら、どんなことを感じたり楽しんだりしているのか、体験してみてください。 *「入れて」と子どもたちの遊びに積極的に参加してください。 <p>*みんなと力を合わせて片付けをしているでしょうか？ お子さんがどのように動いているかご覧ください。</p> <p>*一緒に楽しみましょう。</p> <p>11:30 ○懇談会(ホール)</p> <ul style="list-style-type: none"> *お家の方々はお腹がすくと思いますが、ご家庭で昼食をお願いします。 <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div> <p>12:30 ○親子で降園</p>
--	---

保育のねらいを明示

参観の視点をわかりやすく示す

一日の流れを明示

イ 個人差に配慮した送迎時の対応及び連絡帳活用の事例

(【表3】相談・援助型支援)

→【表2】要素A, B, C, D

(ア) 本実践における工夫

① 送迎時の日常的な直接対応

- ・本園では保護者が送り迎えをしているので毎日送迎時に顔を合わせることができ、人数も少ないので担任や園長と小さなことでも情報交換することができる。園での様子を伝えたり、家庭での様子や体調などを聞いたりと日常的に言葉を交わし、相談事がある場合にも日常の会話の延長線上での話、といったように話しやすい雰囲気を作るように心がけている【実践記録3】。

【実践記録3】登園が遅れがちな幼児への対応（5歳児）

登園がいつも9時過ぎになっている幼児は、登園が遅いため、他の幼児が遊び始めている遊びの中になかなか入れないでいる姿が目立つようになった。少し早く登園できたときには誉め、時計も意識させるようになってきたが、本人の意識というよりは家庭の意識に課題があると感じた。直接家庭に働きかけることが有効だと考え、金曜日の降園時に、保護者に登園が遅いことが友達との遊びに影響が出ていることを伝え、来週から頑張ってみよう励ました。翌月曜日から8時45分に登園するようになった。母親に励ましの声を掛けたことで家庭での生活リズムを意識して過ごせたのだろう、母親が「(幼児が)自分で早く起きたんです。」と伝えてきた。幼児もすぐ友達との遊びに入ることができ、早起きを母親に誉められたことも嬉しかったようで、その後も親子で早く登園しようと頑張る姿が見られた。

② より詳細な情報のやりとりのツールとしての連絡帳

- ・送迎時に話す時間は短いため、詳細に伝えたい場合は連絡帳を活用する【実践記録4】。
- ・周りの保護者の目を気にせず、双方とも思いを整理しながら伝えることができる。

【実践記録4】感染症が流行した時の保護者への対応（3歳児）

少し調子が悪い、微熱がある、発疹が出ているといった症状への保護者の対応の仕方が様々であった。余り気にせずに登園させる保護者、子どもが園に行きたがるからと熱があるのに連れてくる保護者、大事を取り過ぎて一週間休むと決めてしまう保護者などがいた。我が子を初めて集団生活に入れた保護者にとっては登園させてよいかどうかの判断はなかなか難しいことと捉え、調子が悪く遊ぶことができないようなときには欠席させた方がよいこと等を個別に伝えた。子どもの様子からの対応の判断の仕方を保護者自身が掴んでいく過程での適切な援助が大切であると感じた。

(イ) 本事例の考察

- ・日常的に起こる小さな問題は上記のような個別の対応で解決することが多いようである。日々の細かい支援の積み重ねが園と保護者の信頼関係を構築し、大きな問題の発生を防ぐことができると共に、親子の成長にもつながっている。(要素A, B)
- ・園だよりやクラスだよりではどの子にも共通の話題を取り上げることが多く、いずれも情報提供の役割を果たしているが、幼児期は幼児が発達に個人差があることはもちろん、保護者も生活の仕方、考え方等個人差が大きいため、個別に対応した方がよく伝わり、改善できることが多い。また、幼児の発達の理解等も、一般的なことを漠然と伝えるよりも、個々の幼児の具体的な姿に基づいて担任等がかかわったときの思いや願いとともに伝えていく方が、保護者の理解が深まっていくと思われる。連絡帳の活用は、そういった個別の対応をよりよく進めるための大きな役割を果たしている。(要素A, B, D)
- ・園からのアドバイスにより、子どもの姿に変容が見られると、当然ながら保護者もそれを喜びとし、更に前向きに子育てしていこうという意欲が育まれる。(要素C)

(2) 花巻市立花巻幼稚園の実践事例

ア 幼児期の教育への保護者の理解を深める計画的な園だよりの事例

(【表3】情報発信型支援)

→【表2】要素A, B, D

(ア) 本実践における工夫

① 園内での園だよりの意義や内容の共有

- ・毎月の行事のお知らせの役割とともに、園生活の教育的意義を発信することを確認して作成に当たる。園生活の中での具体的なわかりやすいエピソードを用い、教師のかかわりや環境の工夫の意味、それによる子どもたちの姿の変容について取り上げ、解説を加える等、園の教育を理解してもらえるよう工夫し、園と保護者が子育ての喜びを共感できるように努める。
- ・【資料3】に示す年間指導計画の共通理解を図り、保育記録を基に、保護者に発信したい具体例を提供する。

② 年間を見通した内容の吟味

【資料3】園だより年間計画

平成27年度 園だより年間計画		
1 毎月の行事 (職員会議で確認された行事を発信…発行日の前日には仕上げ、日時、内容を確認後、印刷…誤りや訂正を極力なくし、信頼関係を築いていく)		
2 各月のテーマに沿った教育的意義を発信 (わかりやすいエピソード…先生方のかかわりや環境の工夫、子ども達の変容の姿…を交えながら、園の教育を理解していただけるよう工夫し、親と職員が子育ての喜びを共感できるように努めていく)		
月	園だより	食育だより
4月	一人一人の子どもの育ちを受け止めることの大切さ(その子のよさ、緩やかな育ち、育ちの節目等)	食事は生活リズムから 基本は家庭…早起き・早寝・朝ごはん
5月	幼稚園教育は環境を通して行われる 今年度の教育目標・重点目標の解説	先生や友達と一緒に食べることの意味 集団生活で育つもの
6月	知的好奇心を刺激する環境(今年度の重点「人とかかわる環境」の工夫から)	手作り弁当と副食給食の意味 給食参観の意図
7月	一学期の成長	食べたことのない、苦手なものも一口は食べてみようとする心育を促す…食事に限らず、様々な体験へのつながりや意欲付け…園内研究主題『しなやかな心と体』へ
8月	重点目標『心と体が健康な子』から(今年度の重点「戸外で十分に体を動かす」一学期教育評価より運動会に向けて)	(園での子どもたちの様子から…夏休みに向けて家庭でできることを発信)
9月		収穫の喜び (自分たちで育てたものを食す感動) カレーパーティーにかかわって 焼き芋にかかわって
10月	重点目標『自立心をもって生活する子』から(「自分の気持ちをコントロールする力をもつ」一学期教育評価より二学期に育てたい力)	おにぎりパーティーにかかわって
11月	重点目標『感性の豊かな子』から(今年度の重点「絵本や物語等に親しむ」一学期教育評価より発表会に向けて)	
12月	保護者アンケート 二学期の成長	食事のマナーやしつけで育つこと (日本文化のよさ…冬休みに向けて…箸の持ち方や姿勢等)
1月	学校評価公表(保護者アンケート結果も含め)	
2月	総括目標『かながえる子』から 協同的学びを育む環境(「人とかかわる環境」の工夫から)	園長先生とのランチタイムから (幼稚園生活で育った力、育てたい力、小学校につなげる力)
3月	卒園、進級の喜び…心と体の成長を共感し合えるように	

資料4

- ・各月に発行する園だよりのおおまかなテーマを明記し、1年間の見通しをもつとともに、子どもの成長する具体的な姿とテーマをリンクさせて幼児期の教育について理解が深まるよう内容を吟味し発信する。



えんだより

第 18 号

花巻市立花巻幼稚園

平成 27 年 10 月 9 日

花巻幼稚園の教育

No.2

『一学期末評価』から

具体目標 1

心と体が健康な子

今年度の重点目標

戸外で十分に体を動かす

◀一学期の子どもたちの変容▶

◀教師の指導・配慮▶

満4歳・4歳児

○戸外で遊ぶことを楽しみに登園し、自ら戸外に出て遊ぶ子が殆どだった。太鼓橋やシングルジム、ケンパー等に繰り返し挑戦し、体を動かす楽しさを味わう姿が見られた。水の感触を喜び、積極的に砂遊びや色水遊びを楽しみ、発見や感動を繰り返していた。子どもも楽しんでするようになった。お天気に恵まれ、体操やプール遊びを進んで楽し開放感を味わっていた。子どもがみんなと一緒に弁当を食べることを喜びようになった。

子どもたちの姿を通して、経験内容の教育的意義を伝える

5歳児

○鬼ごっこやドッジボール、サッカーやリレー等、自分たちで誘い合いながら、繰り返し体を動かして遊ぶ楽しさを味わっていた。
○雲梯や鉄棒、縄跳びやプール遊び等、友だちの刺激を受けたり、きっかけになって自ら挑戦したりし、目標をもって取り組む楽しさを繰り返し味わっていた。

○信頼関係を築けるよう丁寧にかかわり、教師と一緒に戸外に出て、好きな遊びを見つけ楽しめるようにした。一人ひとりの興味関心に沿った環境の工夫を教師間で話し合って設定した。
○教師間で連携を取り合い、立つ位置やかかわり方を工夫しながら、教師自身が楽しそうに遊び込んだり、片付けたりする姿を見せた。
○課題活動の中で遊具や用具に触れる時間を設定し、みんなが楽しそうと興味をもてるきっかけ作りをした。
○戸外で食べたり、テーブル配置の工夫をしたりし、先生や気の合う友達と一緒に食べると楽しいと感じられる雰囲気作りを心掛けた。

教師のかかわりや環境の工夫の意味を伝える

○課題活動の中で体を動かす遊びを取り入れ、きっかけ作りをし、自由遊びの中でも、誘い合って遊び出してくる状況を作った。
○友だちの様子に気づくような声掛けや状況作りをし、自ら目標をもって取り組もうとしている姿を見守り、励ましたり認めたりして支えた。

『二学期は』

満4歳

◇興味をもったことを教師に支えられながら、**自分でやってみる楽しさ**が体験できるようにする
(滑り台・ブランコ・ケンパー等、小さな『出来た』を積み重ね、喜びにしていけるように)

4歳児

◇様々な遊びに興味関心をもち**友だちと一緒に様々な動きをやってみようとする気持ち**を育てる
(不安はあるけれど、まずは『やってみよう!』という心を育てていけるように)

5歳児

◇自分なりの目標をもったり、組のみんなとの目標に向かって**取り組んだりする中で、友だちとつながっていく喜びや一体感**を味わえるようにする
(友だちと一緒に喜んだり悔しがったり…達成感や充実感を共感し合う経験を積み重ね『互いによさを認め合い、励まし支え合う友だちの存在』を喜び、それが自信となって、次に向かう意欲にしていけるように)

このような要素が、運動会練習や、明日の運動会にはたくさん盛り込まれています。

毎日、夢中になって遊ぶ中でこのような経験を積み重ねて、心も体も成長しています。

行事と普段の保育の関連を示し、行事の参観の視点を与える

園だよりに対する保護者の声は次のようなものであった。

- ・先生方の指導がよくわかる。
- ・園の教育で大事にしていることが子どもの様子から伝わってくる。
- ・こういう保育をしているからこんな変容が見られたのだと理解できた。

(イ) 本事例の考察

単なる行事予定のお知らせではなく、行われている教育について、具体的なエピソードを通して園の教育目標や『幼稚園教育要領』の5領域等について多角的な側面からわかりやすく記されているため、保護者から「こういう保育をしているからこんな変容が見られたのだと理解できた」といった声が寄せられている。このことは、『幼稚園教育要領解説』にある「幼稚園教育が目指しているものは、幼児が一つ一つの活動を効率よく進めるようになることではなく、幼児が自ら周囲に働き掛けてその幼児なりに試行錯誤を繰り返し、自ら発達に必要なものを獲得しようとする意欲や生活を営む態度、豊かな心を育むことである。」という趣旨が正しく保護者に伝わっているということであり、それが幼児期にふさわしい子育てへとつながっていくであろう。(要素A, B, C)

イ 子どもの見方を深める「ニコニコせんせい体験」の事例

(【表3】行事・体験型支援)

→【表2】要素B, C, D

(ア) 本実践における工夫

① 保護者が参加しやすくするための工夫

- ・本園で12年前から取り組んでいる保育参加の一つである「絵本の読み聞かせ」(毎週木曜日)と、花巻市で進めている「ニコニコせんせい体験」を抱き合わせて実施【資料5】。降園前のひととき、先生になって読み聞かせの体験をする「絵本の読み聞かせ」のみに参加してもよいし、「ニコニコせんせい体験」として、絵本の読み聞かせも含め丸一日先生になって参加してもよい、というように、選択できる形にし、保護者の希望に柔軟に対応できるようにしている。
- ・保護者以外に祖父母なども参加可とし、家族の誰かが1年のうち1度は参加できるよう配慮している。

【資料5】「絵本の読み聞かせ」と「ニコニコせんせい体験」のお知らせ(抜粋)

『絵本の読み聞かせ』 & 『ニコニコせんせい体験』のお知らせ

本園では、12年前より保護者の方々の様々な保育参加の機会を作っています。
この『絵本の読み聞かせ』もそのひとつです。
いろいろな方々に様々な絵本を読んでいただくことで、子ども達はますます絵本やお話が大好きになっているようです。
また、保護者の方々に保育参加していただくことにより、子ども達の幼稚園での様子や幼稚園教育の実際についてご理解を深めていただく機会になっているようです。

昨年度から花巻市の取り組みとして『ニコニコせんせい体験』を実施しています。「子どもに対する相互理解」「園と保護者との信頼関係」を深めることを目的としています。
本園では、『絵本の読み聞かせ』をする日の朝から園に来ていただき、一日『ニコニコせんせい』になっていただきます。
保護者の方に幼稚園教諭体験をしていただく貴重な機会となっています。

子ども達が喜ぶますので奮ってご参加下さい。
お父さんやお母さん、おじいさんやおばあさんなど、お家の方なたでも結構です。
下記の用紙に記入し、8日(金)までに担任までご提出ください。
人数を把握した上で今後の計画を立て、希望者にお知らせします。

② 体験を充実させるための打合せ

- ・事前に打ち合わせの日を設け、その時期の学級の子どもたちの様子、育ってきていること、大事にしたいこと、その他気をつけていること等を伝え、動き方の確認をする。
- ・振り返りは、花巻市で発行しているアンケート用紙に記入する形で行う。

【実践記録5】「ニコニコせんせい体験」の様子

6月11日（木）（保護者2名参加，絵本の読み聞かせのみ保護者1名参加）

<保護者の様子>

朝から緊張気味で参加していた保護者がいたが，子どもたちが様々な用件でかかわってくるので，時間とともに子どもたちの中に自然に入れるようになってきていた。

<保護者から>

先生と子どものやりとりや子ども同士のかかわりを見て，こういうときにはこうしたらよいか，こういう言い方をすると子どもが納得して動けるんだということなど，自分の生活の中で活用できることをたくさん学んだ。



<園の職員の所感>

担任が毎日子どもの様子を伝えているが，実際の姿を見てもらうことで「これだったんですね！家に帰ったらいっぱい誉めてあげなきゃ！」と家では見られない姿に感動したり，成長を感じたりしてもらえた。

(イ) 本事例の考察

- 自分の子育てに不安を感じている保護者にとっては，たくさんの幼児との触れ合いを通し，子どもが一人一人違うこと，成長には個人差があることなどを感じる機会となっている。また，かかわり方にも正解があるわけではないことを体験し，正解がないからこそそのおもしろさを感じ取ってもらうことで気持ちにゆとりが生まれてくることにつながっている。（要素B，C，D）
- 園生活と家庭生活の循環を直接体験で感じ取ってもらうことで，家庭で断片的に見て評価してしまっていた我が子の行動に文脈を見出し，その行動の意味や子どもの思いの揺れ動きに添おうとする姿勢が培われていくことにつながっている。（要素C）

ウ 保護者との信頼関係を深め、保護者の不安を和らげる組織的な援助の事例

(【表3】相談・援助型支援)

→【表2】要素A, B, C, D

(ア) 本実践における工夫

① 毎日の情報共有の工夫

- ・どの子についても職員間では情報共有するようにしているが、特に支援の必要な子とその保護者については、副園長と担任、サポート教師で綿密に情報共有をするよう心がけている。
- ・副園長は、毎日の登降園の時間帯には園門や玄関に立ち、保護者と顔を合わせるようにしている。挨拶をしながら日常の様子をさりげなく伝えたりし、話しかけやすい雰囲気作りをしている。そこで得た情報を基に担任等と話し合い、援助の方向や、かかわり方について共通理解を図っている。

② 保護者と担任、サポート教師のつなぎ役

- ・上記の情報共有を基に、当該児の昨年度からの様子を知っている副園長がコーディネーターをしながら、保護者と今年度から担任になった教師がじっくり話す機会を作ったり、必要に応じてサポート教師とも話す場面を設けたりする。

【実践記録6】個別の支援の実際

「母親の不安な思いを受け止め、職員につなぎ、支える」

A児は、昨年度からの入園である。特別な支援を必要とする幼児であるが、「マンツーマンの支援員は付かないこと、集団の中で育てること」を説明した。母親はそれを了解した上で入園を希望したので、園として、どの子も全職員で連携を図りながら見守り育てていくよう努めるので、悩みや不安は小さなことでも伝えて欲しい旨を伝えた。

<今年度4月進級当初>

母親の表情等から、進級に伴い担任やサポート教師が替わることに対する不安を抱えていることを察し、母親・副園長・新たに担任になる職員の三者で面談をし、昨年同様、全職員で見守っていくことを伝えた。

新学期が始まり、副園長は毎日の送迎の際、できるだけ玄関等で母親と会話をするよう心がける。担任も降園時にはA児の園での様子を伝え、母親から家庭での様子を聞くよう努める。母親の微妙な表情の変化から不安や悩みを引き出し、それを受け止め、小さなことも職員間で伝え合い情報を共有し合う。また、職員間でもかかわりに関する不安や悩みを出し合い、日々のA児や母親に対するかかわり方を考えていった。

<6月>

最近のA児の不安定な姿を教師間で日々伝え合っていたので、母親の不安や悩みを引き出し、受け止めなければならないと思っていたところだった。そこで、降園を待っている間のわずかな時間を逃さず、話したくなる状況を作った。

母親

副園長

先生！うちのA、やはりパニックになっています。

幼稚園のことを聞くと泣き始めるんです。あんなに大好きだった幼稚園なのに……。好きな絵もじっくり描かなくなりました。泣いている顔の絵ばかり描きます。

そうなんですネ・・・お家ではどんな様子ですか？

それは心配ですよネ・・・

母親

絵を描きながら話してくれるんです。新しい先生が前の先生と違う言い方をすると、先生から伝えても「…はダメ」とか「…じゃないです」とか否定文でパニックになるんです。

そういえば、私がしっかり理解するまで、最後まで話すようになりましたね。

副園長

Aちゃんがそう話しているんですね。わかりました。先生方に伝えますね。Aちゃん、絵を描きながらお母さんに幼稚園での話をたくさんしてるんですね。お母さんがしっかり聞いてAちゃんの思いを受け止めてくれるからですね。

最初、副園長と話し始めたときの母親は堅い緊張した表情だったが、話しているうちに徐々に和らいだ表情になった。

そこで、その後担任と母親がゆっくり話す時間を設ける。

その後、副園長と担任・サポート教師で母親の不安や悩みを共有し、A児の姿と合わせて整理する。

<園の職員での共通確認>

○この頃のA児の姿から

- ・自らクラスの中に入るようになってきている
- ・教師や友達の会話に耳を傾け、表情や言葉で気持ちを表すようになってきている
- ・思い通りの返事が返ってこなかったり、嫌な音や言葉が聞こえたりすると気持ちがコントロールできなくなり、大声で泣くことが多くなっている。しかし、気持ちを落ち着かせる場を自分で見つけ、気持ちを切り替えて、自らクラスに戻ってくるようになってきている

→戸惑って泣くA児の姿をマイナス面と捉えるのではなく、今、壁を乗り越えようとしている成長の姿として母親に丁寧に伝えていくことが必要

<7月>

A児の嫌いな否定的な言葉へのかかわりの様子をサポート教師が伝える

<具体的なエピソードと教師のかかわりを母親に伝える>

5歳児が、A児が暑くてスカートを自分でまくり上げたのを見て「恥ずかしいよ!」と注意したことを、A児はサポート教師が注意したと受け止め、「恥ずかしいって言わないで!」とサポート教師に何度も訴える。サポート教師は、「私は言っていないよ。お姉さんが教えてくれたんだよ。」と話す。なかなか理解できない様子でさらに「恥ずかしいって言わないで!」と訴えるので、「Aちゃんは暑いからスカートをまくったんだよ。でもパンツが見えるから恥ずかしいよってお姉さんはやさしく教えてくれたんだよ。」と丁寧に伝える試みをした。サポート教師は母親に「私にも言われているような、悲しい気持ちになったのでしょうか。でもゆっくりお話しすると、涙を拭いて『パンツが見えると恥ずかしいの?』と尋ねてきました。Aちゃんなりに何か気づけたのかなと思いました。」と伝えた。

母親

こうして一生懸命、丁寧にかかわってくださっていることがよくわかりました。とても嬉しいです。

副園長

様々な先生方の、いろいろなかかわり方に対して、Aちゃんは一生懸命向き合っていましたね。思い通りの言葉が返ってこないで泣いたけれど、どうしたらいいか考えたんですね。こうして世界を広げていているんですね。

数日後、A児の描いた絵とつぶやきを構成した母親との手作り絵本「ぶるるんももちゃん（自分のこと）～だいすきようちえん～」をもらった。その後、何作も見せてもらう。

母親に「Aちゃんとお母さんの会話の様子や、Aちゃんの興味関心の向け方、思考の仕方等を知り、気持ちに寄り添えたような嬉しい気持ちになった」と伝えると母親は穏やかな笑顔になった。

< 9月 >

担任から、A児の母親が、運動会の時に笛や音楽の音が大きいとパニックになるので、耳栓を考えているという情報が入った。そこで、降園時に話しかける。

母親

え～？じゃあ、耳栓はなくていいんでしょうか。パニックになったら大変と、持ってこようと思っていたんです。

副園長

Aちゃん、初めは「やらない！」と言って遠くに座っていたのに、音楽が鳴り出したら自分からみんなの所に走ってきたんですよ。一緒にやりたいという気持ちが伝わってきて、先生方と喜んでました。

えっ!?自分から並んだんですか?

どうするのがAちゃんにいいのか、一緒に考えていきましょうね。

かけっこのとき、サポート先生の声掛けで自分から並んでいましたよ。自分の番になったら、耳に手を当てて「よい、ドン!」と言って笑顔でかけていきました。詳しくは担任の先生に聞いてみてくださいね。

そうなんですか!嬉しいです。担任の先生から詳しく聞きますね。ありがとうございました。

その後、担任と笑顔でゆったり話して帰る。

<別の日>

母親

先生、この頃また、すごいパニックで、手が付けられません。絵を描こうとして途中でやめちゃうんです。怒ったり泣いたりしている絵なんです。運動会の練習で、よっぽど疲れているんでしょうか。

そうなんですネ…うちの子だけじゃなく、みんな、なんですネ。なんかほっとしました。ありがとうございます。

副園長

運動会の練習は、勝ったり負けたり、喜んだり悔しがったりして、泣きたくなる子もいます。Aちゃんだけでなく、どの子もいろいろな思いをしていますね。

並んで歩いたり、自分の番を待ったりもします。みんなと一緒にしたいから、楽しいから気持ちをコントロールして頑張っているんですね。

楽しくて気持ちが興奮して疲れることもあります。頑張っているんだなあと受け止めてあげましょう。

このように毎朝、そして降園時、自ら副園長や担任と会話を交わすようになる。

<副園長所感>

母親は、今もみんなと少し違う行動をする我が子に戸惑ったり、落ち込んだりすることもあるが、自分の揺れ動く思いや考えを自ら率直に職員に話し、A児の成長を共に喜び合えるようになってきている。

職員間で毎日逃さず情報交換をし、それぞれの立場や役割で支え合いながらチームで保育を展開していることとしてきた成果である。

副園長という立場で、母親と担任やサポート教師をつなぐ役、そしてそれぞれを支える役になれるようこれからも努めたい。

(イ) 本事例の考察

- どんな子でも集団の中でその子らしく育っていくようにという考え方で、誠心誠意保護者に寄り添う園の姿勢が不安な保護者の心を和らげ、現状を肯定的に受け止めようとする思いを生み出させている。(要素A)
- 本園では日々の保育をチームで連携を取りながら進めているが、特別な支援を要する子に対しても、また保護者に対してもチームで向き合うという姿勢を貫いている。このことは、園の誰がかかわっても同じ方向性で対応してもらえるとといった安心感を保護者に与えるだけでなく、園の職員も自信と根拠をもって対応できることにつながっている。そのことが幼児の心の安定にもつながり、保護者の理解と協力を得やすくしていくといった相乗効果が見られる。(要素A, B, D)
- 副園長が日々機会を捉えて、保護者の方から話し掛けたいような状況を作っていた。そして、まずは保護者の不安な気持ちを受け止め、共感的に対応していったことで、保護者は受け止めてもらえるという安心感をもち、どんなことでも話せるようになっていったようである。(要素A, C)

エ 保護者の主体的な取組を促し、子育ての喜びの実感につなげる茶話会の事例

(【表3】居場所・交流型支援)

→【表2】要素A, B

(ア) 本実践における工夫

① 気軽に話ができる場の提供

- ・普段顔を合わせていても挨拶程度のやりとりしかできないでいる保護者同士が、日常の子育てに対する思いや疑問、悩み等を語り合い共有することで、子育ての意義を再確認することができる。また、様々な考え方に触れ、視野を広げることで子育てに前向きに取り組めるようになることをねらい、年3回設定する。
- ・第1回は、保護者同士が気軽におしゃべりすることで親しくなり、互いに相談したり助け合ったりできる関係作りにつながるよう留意して実施している。

② 参加してみたいメニューの用意

- ・第2回、第3回には、おしゃべりだけでなく、講話やワークショップなど、参加してみたい、参加してよかったと思えるようなメニューを用意し、さらに話題が膨らむような仕掛けをする。【実践記録7】

③ 保護者の主体的な取組の促し

- ・ねらいと期日等、骨組みとなる部分については園で年度当初に提案するが【資料6】、会のお知らせや細かい進め方等は保護者に委ね、保護者が主体的に取り組めるようにすることで、満足感や充実感が味わえるようにする【資料7】。
- ・当日参加できなかった保護者のために、話題になった事項についてクラス委員がまとめ、保護者に配付しているが、これもクラス毎の自主的な取組で、形式等もクラス委員がまとめやすい形で発行している【資料8】。

④ 園内での中間反省・評価

- ・年度の途中で実施内容等の評価を行うことで、年度後半の茶話会の方向性を探ったり、運営の仕方を改善したりすることができる。
- ・反省を生かし、年度内により保護者に有益な会にできるとともに、運営面でもクラス委員に進める際のアドバイスすることができる【資料9】。

【資料6】子育て茶話会の案内文書（園発行）

平成 27 年 4 月 27 日

保護者各位

花巻市立花巻幼稚園
園長 高橋 公洋

『子育て茶話会&給食参観・給食試食会』のご案内

幼稚園生活が始まり 2 週間ほど経ちました。お天気にも恵まれ、子ども達は広い園庭を駆け回ることが楽しくてたまらないようです。

さて、本園では、保護者間のつながりを深めていく場の一つとして『茶話会』を行っています。『保護者同士が親しくなることで、子育ての悩みや不安を話し合ったりし、互いに助け合い、支え合うことにつながる』『自分の子ども以外のお子さんの様子を見聞きし、子育ての一助になるお話を聞くことで、子育てを楽しく感じられる』その手助けになればと思っています。

今年度は特にも「食育」について、理解を深めたいと考えています。そこで、第 1 回目の『茶話会』の日に『給食参観・給食試食会』も併せて行うことと致しました。

下記の日程で開催したいと思いますので、お気軽にご参加下さい。

記

- 1 月日 下記予定表の通り
- 2 時間 『茶話会』 9 時 15 分～11 時半（準備等は 8 時半から始められます。）
※第 1 回『茶話会』後のみ、『給食参観』 11 時半～12 時 20 分
『給食試食会』 12 時 20 分～13 時 20 分（アンケート記入を含む。）
- 3 場所 風見鶏の部屋または遊戯室（クッキング等実技がある場合、まなび学園）

<予定表>

	組	月 日	内 容 (テーマ)
第一回	ゆり組	5 月 19 日 (火)	副園長及びクラス委員のリードのもと、情報共有を図り、互いを知り合う
	ばら組	5 月 22 日 (金)	
	つき組	5 月 15 日 (金)	クラス委員のリードのもと、親睦を図ると共に、今年度の組の動きに対しての要望等を語り合う (必要に応じて副園長、担任が入る)
	ほし組	5 月 29 日 (金)	
第二回	ゆり組	9 月 1 日 (火)	クラス委員のリードのもと、テーマを設けて親睦を図る (必要に応じて副園長、担任が入る)
	ばら組	9 月 3 日 (木)	
	つき・ほし 合同	9 月 16 日 (水)	講師を招いて、食育に関するお話を聞く (小学校の栄養教諭、栄養士など)
第三回	ゆり・ばら 合同	11 月 6 日 (金)	講話&ワークショップ…お手軽朝ごはんレシピ講習会
	つき・ほし 合同	11 月 13 日 (金)	講話&ワークショップ…手作りおやつ講習会

※ 第二回、第三回は、講師の都合により変更となる場合がありますので、毎月の園だよりでご確認下さい。

※ 第二回茶話会の初めに、昨年度好評だった、園長の「1 学期の子どもたちの園生活」のスライドショーがあります。

平成27年8月25日

ばらくみ保護者の各位

ばらくみ クラス委員
伊藤・鳥居・濱田

ばらくみ 第2回茶話会のご案内とお誘い

1か月の夏休み、皆様いかがお過ごしでしたか。元気な子ども達の声に気持ちがほっこりしますね。
さて、2回目の茶話会は、軽く自己紹介をしたり(途中入園の方もいるので)、夏休みの過ごし方やこれからの行事について話し合ったりしながら、たくさんおしゃべりをして交流を深めたいと思っています。
風見鶏の部屋でざっくばらんにお話できる茶話会は、今回で最後です(次回はクッキングを予定)。途中参加や小さいお子様連れの参加も歓迎です。皆様の参加をお待ちしています！

記

1. 日 時 9月3日(木) 9:15~11:00
2. 場 所 風見鶏の部屋(園門入って左の建物です)
3. 持ち物 筆記用具(メモ程度) ※飲み物はご持参ください
4. 内 容 ①1学期の園生活を振り返って(園長先生の講話とご自身撮影の写真上映会)
②自己紹介
③楽しく懇談
④副園長先生からのお話
(その後、希望者は)お昼ごはん&おしゃべり

※会場準備のため、出欠をお知らせください。下記へご記入の上、今週28日(金)までに担任まで提出をお願いします。

※茶話会が終わっても風見鶏の部屋は借りています。よかったらお弁当などを持参して引き続きお話していきましょう。

キリトリ線

茶話会(カッコ内に○を記入してください)

参加します() 欠席します()

園児名 _____ 参加する保護者名 _____

入園してみても心配事・気になること、茶話会でこんな話がしたい、欠席だけどメッセージ etc…
遠慮なくお書きください！(話題があると委員が助かります～(^^♪))

★第2回ばら組茶話会ご報告★

H27.9.7(A)

さる9月3日無事茶話会が終了しました。総勢18名の参加。おおい... 20人以上参加予定だったはず... というのは、皆さん体調不良のため!! ママ自身だったり、息子・娘だったり... 皆さん! この長雨は気を付けましょうね! 特に咳症状を良く耳にしますよ~! それでは、以下ご報告です。



園長講話

スライドショーをみなから園長先生のあつち、お忙しい中、園生活がよく分かる細かい説明入りのものを作って下さいました。私が心に残っているのは「共育」という言葉。親子一緒に成長してこそ喜びも増えそうですね。



夏 おつかれ様でした

今回歓談のテーマは『夏の住ごし方』。みなさん暑い夏をなんとかがり切り(ほっとしましたね。さて、どんな過ごしかただったかという...)

- ・学校のプール、家のプール、市民プール、お風呂!!
- ・図書館、キャンプ、BBQ、実家へ帰省、夏祭り
- ・宮野目の支援センターでスイカ割り(100人で2玉は少ない!!)
- ・兄・姉の友達の家で遊び場が我が家になっちゃった!!
- ・ママ1人で子ども3人を連れて動物園に行った!!
- ・あんまり暑い時間はテレビ漬けになりました...
- ・暑いから早起きして活動させた!!
- ・いとこや親せきに会えていい時間を過ごせた etc..

副園長先生より

ばら組の子ども、親さん方とともあったか~いと担任も言っていました。これから運動会練習が始まります。競争なので勝ち負けがあるわけで、子ども達は色んなものを抱えて帰るかも...。ぜひその温かさを伝えてあげてください。何かが気になることがあったら職員まで教えて下さいね。フォローしていきたいと思っています。

クラス委員的



ちえきら、ちえー♪ CHECK IT OUT

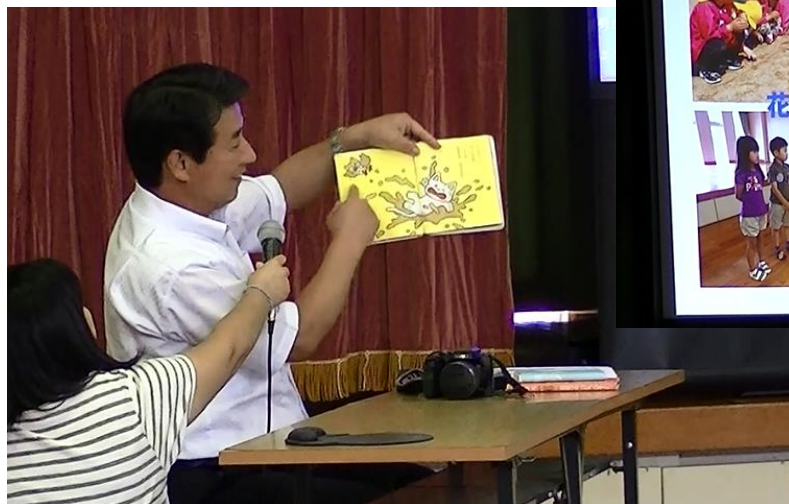
これから園生活で知っておいてほしいこと!!

- ・運動会 → 親はうな引き、祖父母は玉入れへの参加者募集!! 協力期待してます!!
→ 白を基調としたシャツを着用します(子ども)
→ 子どもへのサプライズで親がメダル作り
- ・秋遠足 → 今年に親の参加なしで、子どものみ予定
- ・11月頃から → クリスマスコンサート練習開始
研修部企画です。有志求みます!!
- ・発表会 → 兄弟学級毎に開催。モチちゃん、両日出演したり、1日のみだったり...
- ・衣替え → 園指定のニット帽への切り替えは、寒いと感じたら(笑)
ジャンプスーツ(スキーウェア)を着て登園
ブーツでなく長靴推奨(ソリの時みかみ)
- ・暖飯 → 冷たいご飯を温めるので、パッキン付きの容器はNG!! 湯が開かなくなる...
もっと詳しく聞きたい方は速速なく委員までどうぞ~♪

- ・募集していた広報委員は、残念ながら引き継ぎの申し出が聞こえませんでした。快く、1人で大丈夫ですよ、と言って下さった H 君にありがとうございます
- ・新しい連絡網が配られた人がいます。(配られていない人は以前と連絡先が変わっていないようです) 連絡をくれる人の連絡先を知りたい場合は、当人同士で交換して下さい。園の連絡網、欠しのLINEは別ものなので、連絡網はしかり次の人へよろしく!!
- ・老朽化した木のお家を新しく作ってくれる人を探しています。予算は3万円程度...。こちらは専ら局の T.さん (K.ちゃんママ) まで。

【実践記録7】第2回年長組茶話会の様子（9月16日）

- ① 園長が園の教育内容と1学期の様子についてスライドを交えながら紹介
- ② 園長が『生きる力』の土台づくり」と題し、講話



- ③ 小学校区に分かれての就学に向けての情報交換



通学路はどうやって覚えさせたらいいのかな？

上の子のときは、春休みに何回か親子で歩いてみたよ

※各グループには、園長・副園長・研修指導主事が入り、適宜助言をした。

平成27年度 茶話会反省・評価（中間）

H27.9.

項 目	反 省	評 価
回数・日程等 について	<p>今年度も各組年3回の計画である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回目は、5月になってからだったので、参加しやすい雰囲気があり、顔合わせにはよかった。 2回目は、ゆり組とばら組のみクラス毎。5歳児は学年合同とした。クラスの枠をはずして交流し合えるいい機会となった。 時間的には、9:15～11:00であったが、子どもの送迎に合わせて集まり、終了後も降園頃までいることが多く、室内でゆっくり井戸端をしていたい気持ちが出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 園側で設定する回数は3回でよいと思われるが、行事等との関連で日程を考慮していった方がよいと思われる。（各学年とも、懇親会的要素の会は主体的に開かれるようになってきているため。） 時期は、5月（クラス毎）、9月（5歳児は合同）、11月（どちらの学年も合同）
内容について	<ul style="list-style-type: none"> どの回も事前に学級の三役が集まり、副園長と共に話題の方向を出し合った。 ゆり組ばら組の1回目は自己紹介を兼ねながら、子育て等で抱えている不安や園に対する質問なども出され、副園長が答えながら安心できるように努めた。内容については、報告の手紙のとおり。（参加できない方々のために三役さんが率先して作成して下さった。） 5歳児1回目とゆり組ばら組の2回目のクラス毎の茶話会には担任に限られた時間ではあるが入り、最近の子どもたちの様子を伝え、参加した方々からの質問に応えた。わが子だけでなく、クラス皆の様子を聞くことにより、子育てにゆとりがもてたり、みんなで一緒に育てていこうという心のつながりを感じ合ったりすることが出来たのではないと思われる。 年長組の2回目茶話会は小学校学区に分かれたグループ討議形式としたが、各グループに園長、副園長、そして今回は教育センターの吉田澄江先生にも入っていただき、適切なアドバイスをいただけてよかったと感想があった。会話や質問が途切れず、日々の保護者間のよいつながりが感じられるとの感想が寄せられた。 今年度の3回目の茶話会はワークショップ形式で行う予定である。 ゆり組ばら組は、市教育委員会の栄養士さんによる「朝ごはん簡単レシピ」、5歳児は、保護者の伊藤朋子さんによる「手作りおやつのおすすめ（パン作りをとおして）」である。（会場は、まなび学園や交流会館クッキングルーム。簡単調理し、試食しながらお喋りタイム。） 	<ul style="list-style-type: none"> 内容以前に、保護者間のつながりがよいものになっているかを把握し、進め方や内容について検討していったのはよかった。 保護者の子育て等に関する意識や意欲が高まっていけるような会にしていくことが目的であることを共通理解していくために、1回目から、学級の三役にリードしてもらおうが、負担に感じないように副園長が適切に介入していったことがよかったと思われる。 回を重ねてきた段階で、茶話会から保護者主体の学びの場となるような場作りへ移行していけるように教師自身が新たな研修を積む必要があると思われる。（ワークショップなど） 外部講師をお招きしての企画は参加者の方々からも好評であり、継続していった方がよいと思われる。

(イ) 本事例の考察

- 基本的な方向は園が示しながらも、運営等を保護者に任せることで、保護者の主体性が尊重され、保護者のニーズに合わせた内容のものが実施されていた。メインテーマの他に、気軽なおしゃべりタイムも用意することで、改まった場では話題にしにくい日常の小さな事柄も声にすることができ、子育ての不安解消にもつながっている。（要素A， B）
- クラス委員が発行している茶話会報告の配付物は、義務づけているわけではないが、クラス委員が欠席の保護者にも情報提供をするために発行しているものである。都合で参加できなかった保護者も疎外感を感じず情報共有ができる。（要素B）

(3) 九戸村立幼稚園ひめほたるこども園の実践事例

ア 幼児の育ちのプロセスの見える化を図る掲示物の事例

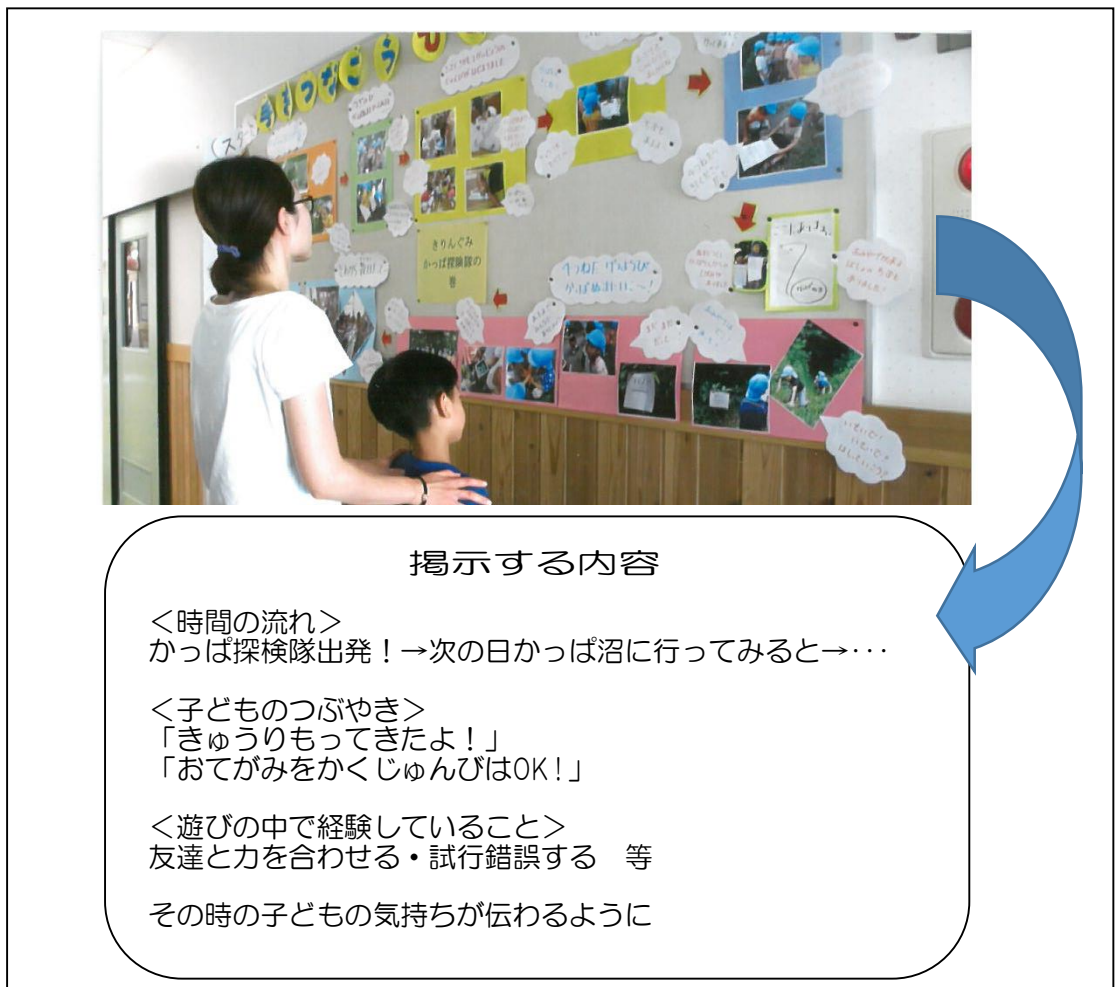
(【表3】情報発信型支援)

→【表2】要素A, B, C, D

(ア) 本実践における工夫

① 幼児の活動の経過が分かるコメント入り掲示

- ・ これまでは、発表会等の園行事の際、全員が平等に写っていることに考慮し、事後に集合写真のような形で掲示することが多かった。しかし、保育においては行事の当日の出来栄え等が大事なのではなく、当日に至るまでのプロセスに意味があり、その中で幼児は育っていくということを保護者に実感してもらうため、また行事以外でも普段の幼児の姿を共有し成長を喜び合える関係づくりの一助とするため、遊びの中での子どものつぶやきや変化を時系列で追っていき、コメント入りで掲示するようにした【図2】。



【図2】「手をつなごうひめほたるっこ掲示板」

② 保護者と保育者，保護者同士のコミュニケーションツールの役目

- ・ 普段の生活の中でも，幼児の様子については保護者に連絡帳や口頭で伝えてきていたが，画像を用いることでより理解を深めたり，成長を実感したりしてもらえるようにした【実践記録 8】。また掲示した写真が保護者と保育者・保護者同士をつなぎ，幼児の成長を共に喜び合える関係を形成するためのツールとなるようにと，日々の幼児の変化に合わせて掲示を更新していくようにした。

この取組に対する園の職員の所感は以下のとおりである。

- ・ これまで連絡帳や口頭でしか伝えてこなかった園での様子をコメント付きの写真で伝えることで，「このことだったんですね」とわかってもらえたり，写真を見ながら保護者と話したりする機会が増えた。普段あまり話すことのなかった父親とも話すきっかけになった。
- ・ 掲示板の前が，親子や親同士のコミュニケーションの場になっていて，和やかな雰囲気が生まれていた。
- ・ 廊下の掲示板をゆっくりみている余裕がなく慌ただしく送迎する家庭もあるので，玄関先に掲示板があつたらもっとゆっくり見てもらえるのではないかな。

【実践記録 8】 掲示板から広がる保育理解

「きりんぐみかっぱ探検隊の巻」

散歩で沼の脇を通ったときに，かっぱがいるかも！という年長組の子どもたちのつぶやきから始まった遊びを追って記録していった。かっぱに会うためにはどうしたらよいかと年長児達が話し合い，好物のキュウリを用意したり手紙を書いたり，かっぱへの思いやイメージを膨らませて沼にかかわっていく様子，派生して園内で楽しんだかっぱごっこなど，遊びを広げ，深めていく様子を時系列で掲示し，子どもが遊びの中で様々なことを学び成長する姿を可視化した。

この掲示により，保護者もかっぱ探検隊に共感し，子どもとともにこの遊びの続きがどうなっていくのかわくわくしながら毎日を過ごす様子が見られた。また，運動会では父親達がかっぱに扮し，障害物競走で相撲をとる場面に登場するなど，積極的に参加する姿が見られた。

(4) 本事例の考察

- ・ 掲示板をきっかけに保育者が保護者と話す機会が増え，これまであまり話す機会のなかった父親ともコミュニケーションがとれるようになり，信頼関係づくりにつながった。（要素A）
- ・ これまでも園の行事等の紹介方法の一つとして行っていた玄関掲示の意味を再検討し，普段なかなか紹介できないでいた日常的な保育の場面を継続的に掲示で知らせることにより，幼児が体験していることとその価値を可視化し保護者に伝えることができ，保護者の幼児理解が深まっている。（要素B）
- ・ 遊びの流れや幼児の思いの変容が見えるので，保護者も幼児の姿を体験の連続性の中で共感的に捉えることができるため，幼児にふさわしいかわりができる。園全体がかっぱ探検隊をベースに遊びが展開されていることを知った保護者が，運動会でかっぱに扮する等，その遊びをさらに楽しめるよう力を添えてくれたため，その後もより生き生きと遊びや生活ができるようになっていったと思われる。（要素C）
- ・ 結果よりもプロセスを重視し，その中での幼児の育ちを大切にするという園の保育のあり方について，保護者が理解を深められるようになっている。（要素D）

イ 発達特性と子育てのおもしろさを知る講演会の事例

(【表3】情報発信型支援)

→【表2】要素B

(ア) 本実践における工夫

① 幼児期の発達を具体的に伝達

- ・心、体、言葉の面から発達を考え、乳幼児期は人格の基礎をつくる時期だということを再認識してもらう。
- ・文字の読み書きに代表されるような、知識を詰め込むことが幼児期にふさわしい教育なのではなく、遊びを通して体験的に学ぶ時期であることを、具体的な例を通して伝える。

② 明日からの子育てに前向きになれるようなヒント

- ・「こうあらねばならぬ」といったことではなく、日々のよくある失敗なども例に挙げながら、子育ての苦勞に共感しつつ、期間限定の楽しみもあることを伝え、保護者同士が共感的にお互いの子育てを捉えられるようにする。

③ 講師と園による事前の打合せ

- ・保護者の実態から、どのような情報を与えることが有益かを検討し、講師と園とで打合せをし、講演内容を構成していく【実践記録9】。
- ・年度の早い時期の保育参観日に位置付け、できるだけ多くの保護者に聞いてもらい、園の保育について理解してもらえようよう配慮する。

<日 程>

8:30 親子で登園

好きな遊びを楽しむ

9:30 片付け

ミニ散歩(親子で園周辺を歩く)

10:30 講演会

11:20 昼食(親子で給食)

12:00 解散

【実践記録9】子育て講演会

平成27年6月24日（水）

「幼児期の子育てで大切にしたいこと」

講師 岩手県立総合教育センター 研修指導主事 吉田 澄江

- ・心、体、言葉の発達の具体例を挙げながら、人格形成の基礎を培う幼児期の大切さと、この時期限定の子育てのおもしろさを伝える。
- ・園に文字や数等、就学後学ぶ内容の早期指導を求める保護者がいたり、大人主体の生活リズムで生活する幼児がいたり、本来幼児期に育てるべきもの、幼児期にふさわしい生活等への理解がまちまちだったため、幼児期に育てたいことや幼児期の生活で大切にしたいことについて要点を絞って話をするよう園の職員と打合せをした。



<保護者の声>

- ・参観だけでなく、子育ての講演も聴くことができ充実した参観日でした。具体的にお話しされ参考になることがたくさんありました。子どもの話をしっかり聞いてあげたり一対一で絵本を読んであげたり…これから続けていこうと思います。
- ・実体験を踏まえてのお話だったので、とてもわかりやすく印象に残りました。子どもが成長するには、親が安心して戻れる居場所になることで、大きくなってからいろいろなことにチャレンジできるんだと分かりました。日々、小言が多くなってしまいがちですが、できるだけ笑顔で子どもの自己肯定感が高まるかわかりを心がけたいと思います。保育園で体験してきた事を自分の言葉で一生涯懸命話そうとする姿にしっかりと向き合っあげようと思いました。
- ・1つの運動を集中して行うより遊びながらいろいろな体験を通して頭も体も鍛えられていくことの方がよいということが分かりました。
- ・1歳から保育園に預け働いてきたことを子どもに対して申し訳ないと心苦しく思っていたのですが、お話を聞いて少し心がほぐれたように思います。子どもの話をよく聞いてあげようと思いました。またこのような機会があればいいなと思います。

<園の職員の所感>

- ・講演会后、朝の送りの様子が変わった。それまで子どもの話を途中で切り「うん、うん！分かった、わかった！」「じゃあね、行ってきます！」と顔も見ないで飛んでいく保護者が多かったのに対し、子どもの話を最後まで聞いてから「行ってきます。」と園を出て行くようになった。
- ・離れ際に「だっこ！」「グルグルして！」と言われるとそれにも応えてくれるようになった。ちょっとしたふれあいだが、その後は機嫌よく「行ってらっしゃい」が言える。登園がスムーズだとその日一日、親も子も気持ちよく過ごせるので、この変化は喜ばしい。
- ・参観日の講演会は、親の子育て観を変えるよい機会となる。早い時期に行ったことがより効果的だった。

(イ) 本事例の考察

- ・ 幼児期に育てたいことや幼児期の生活で大事にしたいことについて具体的な事例を基に要点を絞って話をしたため理解が深められ、講演会後は、登園時にそれまで忙しいからと我が子の話を途中で遮って仕事等に行ってしまった保護者が、最後まで話しを聞いてから「行ってきます」と園を出て行くようになるなど、幼児にとって保護者の好ましい変化が見られる。(要素B)
- ・ 事後の感想から、子育てに対して意欲を高め、前向きに取り組んでいこうとする保護者が多く見られる。(要素B)
- ・ 園の職員からは、幼児に対して共感的な見方をするように保護者の意識が変わったことで、幼児が精神的に満たされ、生き生きと園生活を送っているという事後の様子が報告され、幼児の姿の変容を目の当たりにした保護者が、子育てに対して喜びを見出せる状況になってきたと考えられる。(要素C)
- ・ これまでは2学期半ばに講演会等を行っていたが、保育参観、給食試食会と抱き合わせで1学期に行うことができたため、参加率もよく、親の意識を早い段階でよい方に変える機会となった。(要素B)

ウ 親子のかかわりを深める親子絵本貸出の事例

(【表3】行事・体験型支援及び居場所・交流型支援)

→【表2】要素B・C・D

(ア) 本実践における工夫

① 絵本の読み聞かせの意義を伝えるおたよりの配付

- ・5年前の開園当時から行われている絵本の読み聞かせがなぜ大切なのかを、改めてお便りを通して各家庭に知らせる【資料10】。

【資料10】読み聞かせの意義を伝える配付物(抜粋)

○絵本の読み聞かせについて

ひめほたるこども園の子ども達は、絵本大好きな子が多いですね。ほとんどの子が毎日、借りているようで感心しています。保護者会の実践目標にも「家族で本に親しもう。」が掲げられていますので今後も力を入れていきたいですね。

ここで読み聞かせの大切さについてちょっと触れたいと思います。



★絵本の読み聞かせの大切さ

絵本の読み聞かせは、親子の絆を強くするものだと思います。「お父さん、お母さんの温かい膝とやさしい声で愛情込めて読んであげる。」これに勝るものではありません。

近年、親子が一緒に過ごせる時間が短くなったといわれています。希薄になっていく親子の時間や絆を一気に取り戻してくれるのが絵本の読み聞かせです。忙しくて疲れているとつい今日は、やめようかなと思うこともあるかもしれませんがほんの少しの時間でいいので「一緒に絵本見ようね。」と子どもの心に向かって読んであげてくださいね。自分のために一生懸命読んでくれているお父さん、お母さんの姿が子どもにとって何よりも嬉しい大切なことでしっかりと心に残ると思います。そして、同じ時間を共有しながら共に考えた感動を分かち合ったりすることによってさらに心が育まれ「考える力」や「集中力」が養われると思います。

ということで・・・読み聞かせの大切さについて少しわかっていただけただけでしょうか？

中には、「字が読めるから一人で読んできたー。」という子がいますがそういう子は、字を読むことに集中しその本のおもしろさなど十分に感じ取れないと思います。自分で読むのもいいですがその前にまず、おうちの人が読んであげることをお勧めします。これからもいろいろな本に親しみ親子の絆を深めたり想像力を養ってほしいと思います。

※金曜日の親子貸出しデイのご協力も今後ともよろしくお願いします。

※家庭での絵本の読み聞かせの中でわが子の様子や発した言葉で印象に残ったことがあったら何かに書きとめておいてほしいです。とても興味があります。後日、絵本の読み聞かせについてのアンケート調査をしたいと思っていますのでその際にお知らせいただけます。

② 絵本の部屋のレイアウトの工夫

- ・これまでは、書棚に並べてある本から子どもが自分で選んで借り、保護者はそれを見守っていたが、季節毎のおすすめ絵本等をテーブルに置いて見やすくしたり、おすすめの言葉を添えたりすることで視覚に訴え、それをきっかけに親子のコミュニケーションが図られるようにレイアウトを工夫した。



【図3】絵本の部屋のレイアウトの工夫

③ 読み聞かせに関するアンケートの実施

- ・家庭での取組の実際や子どもの様子、読み聞かせをしたことでの子どもの育ちや変化等について振り返ってもらい、改めて絵本の読み聞かせの意義について保護者の意識化を図るとともに、園の今後の働きかけや取り組み方法の改善に反映させる。

<主な調査項目>

- ・何才から読み聞かせを始めましたか
- ・読み聞かせをはじめたきっかけは何ですか
- ・主に誰が読み聞かせをしていますか
- ・園の絵本を借りるとき、絵本は誰が選んでいますか
- ・読み聞かせはいつしていますか
- ・お子さんは絵本が好きですか
- ・読み聞かせをしたときのお子さんの様子やつぶやきを教えてください（記述）
- ・読み聞かせを通してどんなことが育っていると思いますか（記述）
- ・その他感じていること（記述）

読み聞かせに関する保護者アンケートでは、以下のような記述があった。

- ・読み聞かせをしていなかったが、保育園からの手紙で改めてまた読み聞かせを開始した。
（5歳児）
- ・同じ時間を共有しながら一緒に考えたり感動したりすることで心が育まれ、考える力や集中力が養われると思う。（5歳児）
- ・いつも寝る前に必ず読んでいる。忙しくてなかなか抱っこやスキンシップがとれない中で大切な親子のふれあいである。子どももそれで安心して眠ることができるようだ。内容に関しては、笑ったりジーッと真剣に見入ったりと楽しんでいるようだ。ふとした会話の中で「〇〇の本でさあ」とずっと前の本の内容を覚えていたりして、ちゃんと聞いているんだなと思

う。(4歳児)

- ・絵本の場面を自分と比較して「○○は～だけど、ぼくは～だね。」と言っていることがあって、内容を理解し自分に当てはめて考えていることがわかって感心した。(3歳児)
- ・母が1回だけ好きと言った絵本をよく借りてきてくれるようになり、その本をバッグから取り出すとき、すごく嬉しそうな顔をして持ってくる。(2歳児)

本取組後の保護者や幼児の変容について、園の職員に聞き取り調査を行ったところ、以下のような回答が得られた。

- ・これまで、たくさんある本の中から子どもが自分で選んで借りていたが、季節に合った本を見やすく置くことで、親子で手にとって「どれにする?」「これ、おもしろそうだね。」と言葉を交わしながら選ぶ姿が見られた。
- ・同じ本ばかり借りていた子もおすすめ絵本にも興味を示すようになった。
- ・絵本の部屋が憩いの場になり、親や祖父母が子どもや孫の話、世間話を楽しそうにする姿が見られ、親子だけでなく保護者同士のコミュニケーションの場として活用されている。
- ・絵本の読み聞かせを通して、楽しさを親子で共有することで親子のふれあいが深まり、子育ての楽しさを味わうことができているようだ。そのことが、子どもの気持ちの安定にもつながっていると感じる。

(4) 本事例の考察

- ・長年続けてきた絵本の貸出であるが、今年度開始するにあたり、親子での読み聞かせの意義についての確認のおたよりを配付したことで、保護者がより意識して読み聞かせようとするようになった。年長児になると、文字を読めるようになってきて、親も自分で読むよう促したりすることもあったと思われるが、保護者に読んでもらうことの意義を伝えたことで、保護者も読み聞かせのよさを実感できたようである。(要素B, D)
- ・親子で絵本を選ぶ場面でもできるだけ親子のコミュニケーションが図られるようにレイアウトを工夫したことで、親子の会話が増えるとともに、幼児の絵本に対する興味関心も高まったようである。(要素C)
- ・絵本の部屋が保護者や祖父母同士のコミュニケーションの場にもなり、その中で子育ての悩みや経験等を交流して共感し合うなど当初意図していなかった居場所・交流型支援にもなっている。(要素C)
- ・保護者が幼児とのよい時間を共有することが子育ての楽しさを実感することにつながり、それが幼児の心の安定にもつながっている。(要素C)

(4) 岩手大学教育学部附属幼稚園の実践事例

ア 保護者の知的好奇心を喚起する園だより

(【表3】情報発信型支援)

→【表2】要素B, D

(イ) 本実践における工夫


① 具体的なエピソードから、保育の意図を伝える

- ・行事予定や周知事項等は、教務が発行する「月のお知らせ」で行い、「えんだより」は副園長が自らの目で見、かかわった園児の姿をもとに考察し、子どもの育つ姿や大人の有り様についてわかりやすく伝える。【資料11】

【資料11】エピソードから育ちを伝える園だより（抜粋）（岩手大学教育学部附属幼稚園）

えんだより

岩手大学教育学部附属幼稚園 2014. 7. 18 No. 10



心の育ちに目を向けて

入園・進級から3か月余り。園内各所で、様々な遊びが繰り広げられるようになってきました。自分から環境にかかわって、やりたいと思うことを存分に楽しんでいる子どもたち。「へえ、こんなこと思いついたんだ!」「いいこと考えたねえ。」「まあ、これはすごい!」と、子どもたちが生み出す遊びの面白さに驚かされたり、感心させられたり、惹きつけられたりすることが多くなってきました。

アスレチックのタイヤがぶら下がっているロープのところから登ろうとして、「行っという気持ちが大切だな。」とつぶやいていたAちゃん。挑戦を繰り返し、登りきると、満面の笑みを浮かべて「がんばりました!」と一言。“私ってすごいでしょ”という自分への自信、“やればできるね”という自分への可能性が伝わってきました。

また、森のキッチンで、石鹸クリームをつくっていた年長児たち。「先生見て、このクリーム、きみどり色でしょ。あのね、色をつけようと思って、赤い花で作った色水を混ぜたら、きみどりになったんだよ!」「ふつう、白に赤だったら、ピンクになるでしょ!」「それが、きみどりになったの!」と、を少し興奮気味に教えてくれました。遊びを通して、図らずも仮説・実験で、大発見（アルカリ性の石鹸と反応して色が変化する）をした子どもたち。予想した色にならない不思議に、知的好奇心が刺激されたことでしょう。

このように、子どもたちは、環境とかかわる中で、心が揺り動かされたり、挑戦意欲を掻きたてられたり、知的好奇心を刺激されたりする中で、自分がやりたいと思うことを見つけ、それを心行くまで楽しみながら、“自分”つくってきました。

お子さんの成長を振り返ってみてください。自分への自信、ものごとに取り組む意欲、自分なりの工夫・挑戦、自分の感情の調整、友達への思い、細やかな感情表現、対象を捉える感性・表現力、自分なりに考える力などなど、さまざまな内面の育ちが感じられるはずです。

夏休みは、ゆっくりと自分らしい生活を取り戻すことができる期間です。4月からこれまでの生活の中で蓄えたものがしっかりと熟成されていく期間でもあるかと思います。ゆったりとした時間の流れの中で、4月から7月までの楽しかった園生活での経験を思い起こして、お子さんと一緒に再現してみるのもいいかもしれませんよ。

いい夏休みになりますように!

自分への自信を培っている具体例

知的好奇心を育んでいる具体例

経験による内面の育ち

② 保護者の学ぶ意欲を高める

- ・ 普段、子育てに悩みや不安を抱えていつつも、なかなか自分から本を手にとったり誰かに意見を求めたりできないでいる保護者に、子育てのヒントとなる著作物の一節を紹介するなど、保護者の子育てに関する視野を広げたり、もっと深く学ぼうと本を手にとったりするきっかけを作る【資料12】。

【資料12】 保護者の学ぶきっかけを作る園だより（抜粋）

早くできることがいいことか

人間が成長していくためには、どうしても一定の時間が必要なのではないのでしょうか。一歳の子が一歳の時に必要としている時間、二歳なら二歳なりの時間が確保されてこそ、子どもは安心して成長してゆける気がします。子どもは旺盛で柔軟な伸びる力を持っているので、もしお母さんが、早め早めになにかを教え、ほかの子より先に次の段階へ行くようにと追い立てれば、かなりのことを吸収し、どんどんいろんなことができるようになるでしょう。しかし、教えたことができるようになったことが、その子のその時期に当然育つべき他の部分一心の発達や生活のための力など一での未熟さを作り、人間全体としての育ちを悪くする危険があることを十分覚悟しなければなりません。

人の成長の過程で、なにかを得るために何かを失っていきます。たとえば字を読めるようになることで、長いおはなしを覚えたり、絵本の絵の細部に気付いたりすることは自然とできなくなっていくます。けれどもそれが人の身のうちからの成長に伴っていれば、得ることと失うことの両方に意味があるのです。

一本の木の若葉が伸びる時には、古い葉は自然に落ちていきます。けれども無理やり美しい若葉を早く出そうとして、ひっぱったり、強い肥料を余計に与えたりしたら、その木は生命体として激しい痛みを感じることでしょう。

ひぐちみちこ著 「子どもからの贈り物」より

著作物の紹介



「人の成長の過程で、なにかを得るために何かを失っていきます。」という言葉、身にしみます。何かになりきって遊ぶ、自分なりの言葉で世界を表現する、思いっきり泣いたり笑ったり、ありのままの自分を表現する、何とも味のあるこの時期にしか描けない絵を描く…などなど、“今だからこそ”の子どもの姿を大切にしたいと思います。

このような園だよりに対し、保護者からは以下のような声が寄せられた。

- ・ 子育て中で忘れかけているようなことを気付かせてくれる内容が多くあるので、ためになる。
- ・ 幼稚園の様子がよく分かるだけでなく、親として子どもとどうかかわればよいかなどとても勉強になる。
- ・ 親自身が何かにつづかっているとき、園だよりは何度も心を打たれた。親も様々な学びがあった。
- ・ コンスタントに発行されていて、子どもたちの様子がよく分かり、毎日安心して送り出している。

また、副園長は以下のようなことを心がけて発行している。

- ・できるだけ子どもの何気ないエピソードの中に潜んでいる、子どもにとっての体験の意味、遊びを通しての学びなどを伝え、子どもの見方、かかわり方を理解してもらえるように心がけている。
- ・読んでもらえるよう、また何かしら感じ取ってもらえるよう、絶えず工夫が必要と感じている。(エピソードに合わせて専門家のコメントを添えたり、写真を掲載したりするなどの工夫をしている)

(イ) 本事例の考察

- ・幼児の発達や幼児期の教育に関する深い理解とそれに基づいた実践が園児の幼児期にふさわしい育ちを支えているということが、吟味された紙面から各家庭に伝わっていき、子育ての意義を感じたり幼児期の教育に対する理解を深めたりすることにつながっている。それは、園と保護者の信頼関係の構築にも寄与している。(要素A, B, D)
- ・子育てに困難を感じたり、不安を抱いたりしている保護者はどの園でも多い。そして、そういった保護者ほど、周りに気軽にアドバイスを求めたりできずにいることが多い。そのようなときに、コンスタントに様々な視点から考えるヒントをくれる園だよりは、精神的な救いとなっていることが保護者の感想からうかがえる。(要素B, C)

イ 幼児理解を広げ深める参加型の保護者会の事例

(【表3】情報発信型支援及び居場所・交流型支援) → 【表2】要素B・C・D

(ア) 本実践における工夫

① 共通の話題となるテキストの活用

・1学期末には、園での様子をビデオやスライド等を使い、子どもたちの育ちを伝え、園生活の様子や園で経験していることの意味を知らせるようにしている。その上で、今回は一步踏み込んで、園側から一方的な情報提供に終始せず、資料の事例をたたき台に、保護者自身が自分で考えたりお互いに考えを交流したりできるように、話し合いのきっかけとなる資料(今回の場合は手記のような読み物)を活用し、幼児の育ちについて保護者自身が考えを深められるようにする【資料13】。(使用した資料:鳴門教育大学学校教育学部附属幼稚園子育て研究グループ(1992)『育つ』教育出版センター)

② 少人数グループでのクロストーク

・あらかじめ担任が意図したグループに分けておく。(男児女児の保護者を混合する、幼児に兄弟のいる保護者を配置する、積極的に話す保護者を配置する等)
・共通に読んだ資料についての率直な感想や自分の子育てに対する考え、日常的なエピソードなどを4、5人のグループで30分程度語り合う【実践記録10】。担任は適宜グループをまわり、必要に応じて子どもの様子を伝えたり、考え方のヒントになるようなアドバイスを行ったりする。

③ 実体験の機会の設定

・「ねことねずみ」を実際に動いて体験してみることで、幼児の活動の意味と価値を実感できるようにする【実践記録10】。

【資料13】保護者会資料(抜粋)

また母親は、「跳べなかったら、跳べている子の中でいやじゃないだろうか。ついて跳べなくて、いじけてまた涙ぐんでいるんじゃないのか。縄とびぐらい跳べなくて情けないな。」と、つい先回りして考えてしまいます。でも、手を貸すことを嫌っているようなので、どうしたものかな、と思いながらもそのままになっていました。

その答えを、幼稚園の保育参加の時、見たように思いました。
四人はいつものように仲良く遊んでいます。今日の遊び場は主に築山の辺りです。普通になら下へ滑るのに飽きた四人は、下から上へ駆け上がっていく遊びに切りかえました。まず、U君が、大股ではずみをつけて駆け上がっていきます。次にH君がずり落ちそうになりながらも、どうにかたどりつきます。T君はもう少しであえなくダウン。つづいて彼は、真ん中ぐらゐまでで脚の力がつきて背中を向けておしりで下へ。T君は、すぐもう一度挑戦して、どうにか成功。彼はと見ると、一人別の方へ走って行って、こぼれそうになる涙をけどられないようにぬぐっています。友だちの「おおい。」の一言に、こちらへ走ってきて挑戦しますが、またまた失敗。もう涙はあふれ落ちそうです。そのうちに待ちくたびれた上の友だちが、

「おおい、今度はスケーターで滑ろうぜ。」
と誘っています。スケーターで滑り降りるなんて、またできないだろうな、と思っ
て見ていると、それぞれスケーターを持ってきて築山に登っていきます。そのうち、
U君、H君は自信を持って滑り降りました。T君はどうしようかと迷っている様子
です。当の彼は、自分でこれは無理だと思ったのか、
「ほな、僕、審判してやるわ。誰が一番遠くまで降りれるか、競争な。」
と言いました。

「ほれ、いいなあ。やろう、やろう。」
と三人は遊びののってきた迷っていたT君も、思い切って駆け降りました。

「ここまで、十点な。がんばれよ。」
と、彼のはずんだ声が園庭に響きます。

お友だちと同時に同じことができなくても、彼なりに遊びに参加する方法を考え
ついたのです。また、お友だちもそんな彼を見下したり仲間からはずすのではなく、
喜んで彼の役割り分担を認めてくれました。「男の子なんだから。」「お友だちの○
○君ができるのだったら。」と、つい勝手なイメージを親のエゴで彼を見つめ、無

【実践記録 10】 2学期末の保護者会の流れ

9:15 <保護者と担任で、2学期に子どもたちが楽しんだ助け鬼「ねことねずみ」を体験>

- ・「ねことねずみ」をしながら担任が解説。「ずっと陣地にいると、ゲームが動かなくなって楽しくなくなる。こんなとき、どうしたらおもしろくなるかと子どもたちは考えを巡らせ、友達にアイデアを伝えようとする。そして、相談が始まり、ルールをよりおもしろく変えていく。このように遊びが様々に変化しながらも続いて行く…」等



9:20 <担任から2学期の子どもたちの育ちや様子についての報告>

- ・育ってきていることについて

自分への自信がついてきていること、友達とのつながりを感じられるようになってきていること、そういった育ちを基に、自分のよさとともに他者のよさを実感できるようになり、遊びが広がってきている。それとともに、思いの食い違い等から様々な葛藤体験もしている。マイナス感情も含め、感情体験を豊かにしている。現在根気よく取り組んでいる糸引きゴマについても、その中で経験していることがたくさんある（実演しながら）…といった内容を話す。

- ・資料「育つ」を読む

9:50 <各グループ毎にクロストーク>

- ・資料の中身への感想や、自分の今の子育ての中で思うこと等、それぞれに語り合い、共感し合ったり、新たな視点を得たりする。



10:20 <各グループからの発表>

- ・主に話題になったことについて発表し、全体で共有する。

10:50 <担任からまとめと連絡>

- ・話し合われたことの総括と、冬休みの暮らしについて

クロストークのグループ発表では、次のような保護者の声があった。

- ・資料に共感した。どうしても大人目線でこうしたらよいとか言ってしまいがちだが、言いたい気持ちをぐっとこらえて見守ることが大切だと感じた。
- ・親もこうやって子どもと一緒に成長していくものなんだと感じた。
- ・生まれたときには元気でいてくれさえすればいいと思っていたのに、だんだん親の欲目が出てきてしまっていることに気付いた。子どもがやりたいと思ったことを存分にできるように、余裕をもって見守りたい。

保護者会後の年中組2クラスの担任の所感は以下のとおりである。

- ・園での様々な幼児のトラブルについて、他の子が悪いという見方をしていた母親が、資料の事例を読んで、自分のことのようにだと振り返り、かかわりを変えようとする姿が見られた。資料が著名な研究者が書いたものではなく、一保護者の手記だったことで共感性が高まったと思われる。
- ・担任が保護者にぜひ伝えたいと思っているこの時期の幼児の育ちや経験内容、かかわりのポイントなどが、保護者同士のやりとりの中から自発的に出てきていた。同じ立場での学び合いなので、担任が伝えるより共感的に受け入れられるように思う。

(4) 本事例の考察

- ・保護者の声や担任の所感から、園からの一方的な情報提供ではなく、保護者が自ら考えたり、考えを交流したりすることにより、幼児理解が一層深まっていることがわかる。(要素B, C)
- ・共通の読み物資料を用いることで、担任の所感にある母親のように共感性が高まり、自分を振り返る機会となるとともに、一つの事例として客観的に見ることもでき、共感しつつも冷静に様々な考えを引き出すきっかけになる。同じような効果を求めて、読み物資料以外に教育ビデオ等の映像を用い、それを共通の話題にすることも考えられる。(要素B, D)
- ・グループでのクロストークは、子育て経験のある保護者や、男児の保護者、女児の保護者などを混合し、意図的にグループを編成することで、多様の視点からの話題が出され、話し合いが活性化する。(要素D)
- ・子どもの楽しんでいる「ねことねずみ」を実際に動いて体験してみることで、子どもの思いを実感として味わうとともに、担任から子どもの経験していることの意味を伝えられることで、より幼児理解が深められる。(要素B, C, D)

ウ 育ちを共有し信頼関係を構築する連絡帳の活用の事例

(【表3】相談・援助型支援)

→【表3】要素A, B, C, D

(ア) 本実践における工夫

① 家庭との信頼関係構築のツール

・事務的な連絡事項はできるだけ配付物等での確に伝え、連絡帳は保護者と担任との“子育て交換日記”的な役割を担わせ、保護者と担任が共に子どもの成長を喜び合い、一緒に子育てをするという意識を醸成し、信頼関係を構築するためのツールとする。以下の2点を工夫することで、保護者と担任のやりとりが互恵性のあるものとなるようにする。

a その子のよさや育ちの見えるエピソードの伝達

保護者は我が子のことが心配でその子のよさが見えなくなり、藁にもすがる思いで悩み事を綴ってくることもある。そうしたときに、園で見せているその子の育ってきている部分や、よさなどを具体的に伝えていくことで、保護者が我が子を見る新しい視点を増やしたり、安心して子育てに前向きに取り組んだりできるようになる【実践記録11】。

b 家庭での様子を綴ってもらう働きかけ

家庭での様子を綴ってもらえるように年度当初に呼びかけたり、連絡帳を書く際「お家ではいかがですか？」という一言を添えたりなど工夫することで、家庭での幼児の姿を把握でき、幼児を園と家庭生活の循環の中で捉えることができるようになる。それが一層担任も幼児理解を深めることにつながり、幼児にとってふさわしい援助を可能にする。

【実践記録11】家庭訪問で相談後の連絡帳でのやりとり

<保護者から>

先生のお言葉、本当に嬉しく思います。最近、朝泣いているAを見てみると、正直、私自身もどかしい気持ちになっていたのかもしれませんが。お友達は泣いていないのになあ…など思うこともあり、どうしたら泣かないで登園できるのかなと思い、車の中でAの好きなレスキューカーの話をし、気分が上がるようにしたりなどいろいろしてみました。園の玄関で泣いてしまい…私だから泣くのかなとも思い、主人に送ってもらったりもしてみました。けれど、先生のお話を聞いて、Aは今、毎日毎日小さいながら頑張っているんだなあと改めて気付くことができました。大人でも、環境の変化で戸惑うことや慣れるまで時間がかかることがあるくらいなので、私自身がAのペースをもっと理解してあげ、ゆっくり支えていけたらなあと思います。

<担任から>

家庭訪問ではありがとうございました。園ではクール(?)にしているA君の甘えんぼぶりを見ることができ、お母さんの率直な思いもお聞きできて嬉しかったです。

登園時のことはお家の方々にもいろいろと工夫いただいてありがたいです。最近園に来たときには以前より幼稚園に気持ちを向けているような感じがするなあと思っています。一人でお家の人と離れるのは勇気がいるようですが、私が手を出すと、すっと手をつないでくれるので、きっかけさえあれば大丈夫という気分まできているのかなと思います。お部屋では身支度が済むと本を読んだりA君とおしゃべりをしたり、お絵描きしたり…と好きなことをすぐにやり始めています。

先日降園時にちらっとお話ししましたが、とっってもくだけた感じに楽しんでいた場面もあったんですよ！奥の滑り台のところで、B君がおままごと道具で作ったお弁当を食べようと

私とごさを広げていると、A君、C君、D君、E君など、ちょうど滑り台でロケットのイメージで遊んでいた子たちも「ぼくも食べる～♪」と集まってきました。お弁当を開けるとものすごい勢いで食べ始める子どもたち。取り合いになるかな、と心配になるくらいの勢いだったのですが、その心配は無用で、5人は「ア～!!」と叫ぶようにしながら食べる動きを楽しんでいました。友達と「ア～、アア～!」と何度も叫び合い、声が重なっていること、もみくちゃになっていること、そういう状況がとっても楽しかったようです。A君の崩れた笑い（何と表現したらよいか難しいのですが）安心して、心から笑って、ちょっとおふざけモードも楽しんでいるような姿があって、とっても嬉しかったです。

こういう何気ないことで友達と心が重なるのが、友達と一緒にいる楽しさを感じることであるのかなと、A君を見て感じました。こういった経験が重なって、園で過ごす楽しさも日々増してきているのかなと思います。おうちでの様子はいかがですか？

(イ) 本事例の考察

- ・保護者の思いやこれまでにしてきたかかわり等について、まずは受け止め、それに対して感謝などの肯定的な思いを伝えることで、保護者は安心感を得ることができ、心を開いて相談してみようという思いが生まれる。（要素A，C）
- ・我が子のマイナス部分に目が行ってしまい、視野が狭くなりがちな保護者に対して、園で見られる当該幼児のよさや、温かなエピソードを伝えることで、我が子を別の視点から見きかけを与えられる。（要素B，D）
- ・上記のような幼児のよさやエピソードを伝える裏付けとなる保育者の幼児理解は、「園で先生がしっかり見ている」という信頼感を深め、今後も幼児のことで何でも相談してみようという思いをもつことにつながる。それが、保育者からの「お家ではどうですか」という問いかけにも応じやすい状況をつくり、幼児についての双方向的な情報交換とともに、育ちの共通理解に結びつく。（要素A）

エ 多様な視点から幼児理解を深め、広げる保育参加・ミーティングの事例

(【表3】情報発信型支援及び居場所・交流型支援)

→【表2】要素A, B, C, D

(ア) 本実践における工夫

① 少人数での保育参加

- ・各年齢4日間の保育参加期間を設け、各学級で保護者を均等に割り振る。1回の保育参加人数が各学級5～6人になるようにする。子どもたちの遊びのグループ1つに1人が付くような形で保育に当たることで、じっくり子どもとかわかっていることができる。
- ・保育後のミーティングは、年少組・年中組は学級毎に少人数で行うことで、話しやすくやりとりが活発にできるようにする。年長組は学年2クラス合同で行い、その時期の育ちを学年皆で共有できるようにする。

② 事前の丁寧な情報提供

- ・1ヶ月程度前に趣旨等を知らせ、保護者が心構えをもてるようにする【資料14】。
- ・保育参加開始前日に「保育参加のしおり」を配付し、当該時期の子どもたちの遊びの具体的な様子から育ちを知らせ、どんなかわかり方をして欲しいかイメージして臨めるようにする【資料15】。
- ・当日の朝に短時間で打合せをする。担任が1日の流れ及び前日までの様子を環境構成図等で伝え、保育の見通しをもてるようにする【資料16】。

【資料14】保育参加のお知らせ

平成27年8月21日

つばき組保護者各位

岩手大学教育学部附属幼稚園

保育参加のお知らせ

夏休みが明け、子どもたちは、少しずつ園生活のリズムを取り戻しているところですが、友達の様子をじっと見たり、同じようなことを真似してやってみたりしながら、少しずつ自分なりに動き出そうとしています。また、廃材を使って虫や武器を製作したり、桶をつないだり、水鉄砲を使っての水遊び、砂場での川作りや料理作り、サッカーや鬼ごっこの遊びなど、これまでに楽しんできた遊びを思い出しながら、自分のやりたいことに向かっていく姿もあちこちで見られます。自然への関心も高く、朝顔を使ったの色水づくりに夢中になる姿や自分たちが虫になりきって森の探検を楽しむ姿も見られます。そういった遊びを思う存分の中で、友達とのつながりや一緒にいる心地よさを思い出している子ども達です。

このような姿を大切にするとともに、これからの時期は、自分の思いを出しながら友達との遊びを楽しんだり、自分なりにこうしたいという思いをもちながらじっくりと興味をもったことに取り組んだり、戸外で体を存分に動かす心地よさを味わったりすることができるよう環境を整えたり、活動を投げかけたりしていきたいと思っております。

そこで、下記のように保育参加の日を設定し、保護者の皆さんと一緒に遊びの援助をしたり、活動を支えたりしながら、子どもの遊びの面白さを感じ取ったり、子どもの育ちや発達を理解を深めたりしていく機会にしたいと考えております。


1 日時

9月 8日(火)	8:45 ~ 11:00
9月 9日(水)	8:45 ~ 11:00
9月16日(水)	8:45 ~ 11:00
9月17日(木)	8:45 ~ 11:00

※ 保育参加の8日、9日、16日、17日の4日間の降園時刻は、**全員11:00**となります。よろしくお願ひします。

※ 9月10日(木)は、保育参加の予定でしたが、「記念講演会」と日曜日が重なってしまったため、日程が変更になりました。

そのため、**10日(木)降園時刻は13:40**となります。



2 一日の流れ

8:45~9:00	登園
※ 8:55~9:00の時間帯に、保育参加に当たっている保護者の方々と打ち合わせを行います。「としよのへや」にお集まりください。	
9:00~	遊び
10:10~10:30	片付け
10:30~11:00	みんなでの活動
11:00	降園

11:10~12:00 保護者の皆さんと担任とでミーティング
(各保育室で)

※ 活動の内容によっては、保育の流れが入れ替わることもあります。

3 保育参加の方法・内容

- 各クラス1日あたり5人の保護者の方に参加していただきます。下記のように割り振らせていただきましたので、よろしくお願ひいたします。
- 当日の朝に保育参加の保護者の皆さんと打ち合わせを行いますので、保育参加に当たっている保護者の皆さんは、8:55に「としよのへや」にお集まりください。

○ 登園から片付けまでは、遊びの援助をお願いいたします。子どもたちの仲間の一人として遊びに参加したり、モデルとなる動きをしたりしながら、子どもの遊びの様子を見ながら必要と思われる援助をお願いします。

○ 降園後、保育参加いただいた保護者の皆さんとその日の遊びの様子、子どもたちの様子などについて、交流し合いたいと思います。

※ お子さんたちは、おはなしの部屋でお預かりいたします。

保育参加一覧表

月8日(火)	9月9日(水)	9月16日(水)	9月17日(木)

機械的に割り振りさせていただきました。割り当たった日が都合の悪い場合は、保護者の方の上で都合のよい日を交換していただきたいと思います。日にちが変更になった場合は、担任までお知らせくださいようお願いいたします。

主旨や内容

【資料15】保育参加のしおり

年中組保育参加のしおり
平成26年9月7日
岩手大学教育学部附属幼稚園

明日から、保護者の皆さんに保育に参加していただく保育参加が始まります。幼稚園で子ども達とともに過ごしながら、どんなことが育ってきているのかを感じ取っていただけたらと思います。

その上で、子ども達の遊びがより楽しくなるために、保護者の皆さんにも、担任とともに保育者の一人として子ども達にかかわり、遊びが楽しくなるような援助をお願いしたいと思っております。

皆さんと一緒に子どもたちと関わり、その様子を交流する中で、子ども達の遊びの意味や育ちについて、共に考え合ったり、理解を深めたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

1 子どもたちの姿について
入園・進級から半年が過ぎた今、一人一人がその子らしさを発揮しながら、園生活を楽しむようになってきています。

数人の気の合った友達とのつながりの中で、自分なりの遊びをする楽しさや友達と一緒にいることを楽しんでいるこの頃ですが、偶然のきっかけから新たななかかわりが生まれ、いろいろな友達よさを知ったり、友達から刺激を受けて遊びの幅を広げていったりする姿も見られるなど、友達とかかわる中で自分の世界が広がってきているように思われます。

<4歳児の発達>
4歳児は、想像力が豊かに発達してきて、見立てやつもりの世界に浸って、ごっこ遊びを楽しむ年齢です。ごっこや牛乳パックの衝立などを用いて、自分たちの遊び場を作り、遊びに必要なものを持ち込んだり、必要に応じて作ったり、役割を決めたりしながら、遊びのイメージが形作られていきます。

<4歳児のごっこ遊び>
保育室でも園庭でも、お家ごっこ、基地ごっこ、戦いごっこ、お店ごっこなどが展開されていますが、4歳児のごっこ遊びは、お母さんが3人だったり、恐竜が料理を作っていたり、役も状況設定も柔軟に変化していきます。しかし、そこに不自然さを感じることもなく、遊びを楽しんでいます。自分なりにイメージを表す喜びや、自分のイメージと友達のイメージがつながり、ひとときでも一緒に遊ぶ感覚が持てるころにおもしろさを感じているように思います。

<もとのかわる中で>
子ども達は、粘土や紙類を使ったごっこ、武器、遊びに使う道具、身につけるもの、泥だご、草花を使ったごっこなど、いろいろなものを作りながら遊んでいます。作ること自体が遊びであり、あれこれのものとかかわりながら、イメージするものを作り上げていくおもしろさや喜びを味わっています。没頭してものとかかわる中で、ものの性質を知ったり、自分自身と向き合ったりする経験を重ねています。

<思いっきり体を動かして>
仮設砂場を撤去し、思いっきり走ることでできる環境を用意しました。体を思いっきり動かして遊ぶのにとともに心地よい季節になり、子ども達は友達と一緒に走ることや全力で走り抜ける気持ちよさを味わっています。また、固定道具も様々なイメージに見立てて遊ぶ中で、登ったり降りたり、友達の動きを真似したり、様々な動きを楽しんでいます。

2 保育参加にあたって
(1) 遊びの援助について
以上のような姿を踏まえ、子ども達の育ちを促していくために、次のような援助を心がけていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

- 一人一人のやっていることをまずは受け止め、それぞれが何を楽しんでいるのか探ってみましょう。
- 何人かの友達と場を共有して遊びが始まったら、一人一人のやっていることに共感したり、一人一人のイメージを引き出し、周りの友達に伝えたりして、遊びのイメージのつながり役をしてあげましょう。また、仲間の一人として遊びに加わり、なりきった動きや言葉を発しながら、つもりの世界がより楽しくなるようにしてみましょう。
- 自分なりにイメージしながら物づくりに取り組んでいた、木登りや鉄棒、雲梯など、自分のためあてを持ち挑戦したりしているときには、自分でやり遂げられるように、共感したり、励ましたりしていきましょう。どうしても難しそうところは手伝ったり、こうしたいというイメージが実現できるようにアイデアを提供したりしていきましょう。
- トラブルの場面では、まずは子ども達で解決していく様子を見守りましょう。子ども達だけでは解決できないようなときには、どちらが良いとか悪いとか仲裁してしまうのではなく、それぞれの思いを引き出したり、代弁したりしていきましょう。トラブルをマイナスと捉えずに、それぞれに思いがあることに気付く貴重な体験の場にしていきたいものです。

(2) みんなでやる活動での援助について
4日間、次のような活動を予定しております。保護者の皆さんにも、素材に触ったり体を動かしたりする活動と一緒にかかわっていただきたながら、活動を楽しんでいただきたいと思っております。

身体を動かして(つばき)	製作(さくら)
製作(つばき)	身体を動かして(さくら)
身体を動かして(つばき)	製作(さくら)
製作(つばき)	身体を動かして(さくら)

※お道具は、園にございます。汚れてもよい服装でいらしてください。写真やビデオでの撮影はご遠慮ください。子ども達と一緒にかかわっていただきたいと思っておりますので、小さいお子さんのご遠慮いただきたければ幸いです。

かかわり方をイメージできるようにする

幼児の育ちを理解し、臨めるようにする

【資料16】朝の打合せ資料

予想される遊びと、保育者の援助・配慮
平成27年9月8日(火)

本日の保育参加、よろしくお願いいたします。

★昨日までの様子では、子どもたちは下図のような遊びを楽しんでいます。本日も同じになるかは限りませんが、子どもたちの様子を見ながら子どもたちの遊びが楽しくなるように、状況に応じて適宜かかわっていただきたいと思ひます。

★子どもたちが楽しんでいることに共感しながらおうちの方も一緒に楽しみましょう！

製作

- ・武器やおしゃれアイテム、何かになるためのアイテム(恐竜や虫など)、おいしいものなどを作って楽しんでいます。作ったものを使ってごっこ遊びも楽しんでます。
- ・製作のアイデアなど一緒に考えたり、仲間の一人として同じものを作ってみたりしてみましょう。

ままごと・おひ屋さんごっこ

- ・お家を作って、粘土でごっこを作ったり、赤ちゃんのお世話をしたり、おいしいものを売ったり…
- ・お子さんと一緒に作りきって楽しんでみましょう。

森の探検

- ・虫探し、悪者退治、木登り…。森の中は楽しいことがいっぱい！
- ・お子さんのイメージを受け止めながら探検を楽しみましょう！

シャボン玉

- ・シャボン玉の美しさや、高く飛んでいく様子などを楽しんでます。どうすれば大きくなるかなど考えながら、工夫して遊ぶ姿も見られます。

さくら組 保育室

つばき組 保育室

ごちそう・色水づくり

サッカー

- ・ボールが複数個あってもOK！柔軟なルールの中で、一緒に思い切り体を動かして楽しみましょう。

色水づくり

- ・幼稚園には様々な草花があります。様々な色のものを作ったり、それをジュース等に見立てたりして楽しんでいます。

積み木

- ・基地や乗り物、おはけやしきなどを作って、楽しんでいます。様々な構成の仕方を工夫する様子も見られます。
- ・安全に気を付けながら使えるように配慮をお願いします。

固定道具での遊び

- ・道具を乗り物やお城などに見立てたりしながら遊んでいます。
- ・色々なことが出来るようになるのが嬉しくて、挑戦する姿も見られます。できた喜びを共有しながら、一緒に楽しみましょう。

かけっこ、鬼ごっこ

- ・思い切り体を動かす気持ちよさ、友達と動く楽しさなどを味わっています。

ごちそうづくり

- ・砂や土、水、草花など、園の自然を使って、様々なごちそうを作って楽しんでいます。飾り方にこだわる姿も！
- ・型やボールなどを使って、ケーキなどを作ってみても楽しいですよ！

砂場での遊び

- ・山を作ったり、穴を掘ったり、水を入れたり…。子どもたちは、川や海、温泉などに見立てて遊んだりしています。かっぱい掘ったり積んだり。ダイナミックに遊んでいます。
- ・お家の方も、子どもに帰ったつもりで、思いっきり楽しんでみてはいかがでしょう！

固定道具

滑り台・アスレチック
ジャングルジムターザンロープ等

砂場

どこでどんな遊びが展開されていたかを知らせるとともに、どんなかかわりをすればよいか見通しを持てるようにする

③ 幼児理解を深め広げるミーティング

- ・降園後、保育参加者の子どもは他の職員が保育し、12時をめぐりに保護者と担任とでミーティングを行う。具体的な場面からこの時期の幼児の育ちについて話しが深まっていくように、押さえないポイントについては担任団で打合せをし【資料17】、基本は保護者から出てきた話題についてみんなで考えたり育ちの様子を共有したりする【実践記録12】。

【資料17】ミーティングで伝えたいポイント（担任打ち合わせ用資料）

伝えたいポイント

○様々な遊びの中で、総合的に様々な経験を重ねている。

○その経験が、この後の学びや生きていく上で必要な力の基盤、土台になっていく。

- ・イメージの中で遊ぶ・・・想像力
- ・必要なものを製作する・・・手先を動かす、考える、道具や材料の使い方や特徴を知る
- ・積み木などで場を構成する・・・形などの特徴、空間認知、考える、想像する
- ・様々な身体を動かす・・・基本的な動きの経験、走る、跳ぶ、登る、下りる、くぐる、バランス…
何かをトレーニング的に特化して鍛えるのではなく、様々な動きを総合的に経験していくことが、運動能力の高まりにつながる（データあり）

○心を動かして遊ぶ経験

- ・心に残る体験。自分のものになる体験となる。さらには、「やってみたい」「もっと、もっと」と次への意欲にも。

○人（友達）とかかわって遊ぶ楽しさを味わっている。

- ・一緒にいるとなんだか楽しい！偶然の出会いもある。
- ・自分以外の友達は、自分とは違う考えをもっている存在と感じる（トラブルの場面なども）
- ・相手の気持ちや状況を感じて行動しようとする
- ・一方で「自分」も大事にしたいところ。
（“友達と一緒に”が優先で、“自分のやりたいこと”が二の次になってしまう…
→本当の遊びの充実になりにくいところもある）

○運動会にかかわる経験も、総合的に。

- ・体を動かすことも、イメージの中で楽しむ姿（ワカメやドロップを食べる、お魚歩きかに歩き…）
- ・体を動かすだけでなく、身体表現、造形的表現など、様々な表現する経験も重ねていく。まさに“総合的”

○おうちの方も環境の一部。お家の方の存在が賑わいを呼んで、遊びたい意欲に。

【実践記録 12】 年中組ミーティングの実際（抜粋）

保護者 A

年少組の時に比べて、体の動きが機敏になってきましたね！海のイメージで遊んでいて、平均台の渡り方も工夫していました。

保護者 B

〇〇ちゃんはちょっと内気な感じ？平均台をなかなか渡らなくて。でも、後ろに並んでいた男子、早く行けと言わず待っていてくれて。

保護者 C

先生の声かけが参考になりました！△△ちゃんが人の絵を描いていて、顔を茶色で描いていたので「茶色？」と言ってしまいました。そしたら△△ちゃん、絵を隠すようにしたんです。髪が赤、目がピンクだったのですが、その絵を見た先生が「素敵！ファッションショーに出てくる人みたい」と声をかけたら△△ちゃんが嬉しそうにしました。普段、どうしても「目は黒でしょ」とか言ってしまいがちなので…反省しました。

担任

運動的な遊びに興味関心をもって欲しいと考え、お魚のイメージで楽しみながら体の動きを引き出せるような環境を用意しました。昨日までは平均台はすぐに遊べるように設定しておいたのですが、今朝わざと片付けておいたら、今日は昨日までよりも長いコースを自分達で作っていました！

新しいことにすぐ一歩踏み出せる子と、納得してから動く子、それぞれの個性がありますよね。よく見ていただいてありがとうございます。

④ 幼児理解を共有する事後のクラスだより

- ・年中組は4日間に分けて保育参加をしているので、各保育参加日が出てきた話題でぜひ共有したいこと等は事後にクラスだよりを発行し、学級全体の保護者に伝えるようにする【資料18】【資料19】。

【資料18】ミーティングでの話題を共有する事後のクラスだより 1



クラスだより

さくら

No. 8
H27.9.25

岩手大学教育学部
附属幼稚園

保育参加 ありがとうございます

4日間に渡り、保育参加を行いました。子どもたちはおうちの方々ともすぐに“仲間”になって、一緒に遊んだり様々な活動をしたりしていましたが、どちらの表情を見ても、とっても楽しそうだなあ、幸せそうだなあと感じました。おうちの方が楽しく、夢中になって遊んだり、真剣に取り組んだりする姿がよい刺激となり、子どもたちの遊びの意欲になっているなあと感じる場面もたくさんありました。園での生活、子どもたちの姿を実際に肌で感じていただけたことと思います。

また保育後のミーティングでは、子どもたちの姿から感じられたことを土台に、子どもたちの遊びや発想の面白さ、成長しているなあと感じたこと、日頃感じていることや悩みなど、様々なことが話題となりました。今ある子どもの姿をどのように感じ、受け止めていくかという大事なことを、様々な見方、考え方に触れながら話すことができ、担任にとってもはっとさせられることが多々ありました。おうちのみなさんにとっても有意義な時間だったと感じていただければ幸いです。

☆遊びやクラスでの活動の様子を、
ミーティングで話題になったことを交えてご紹介しましょう

森のキッチンでの色水作り

ミントやバジル等のハーブの葉をすり鉢を使って、すりつぶすと、とってもいい色と香りの色水ができます。ある子が始めたその色水づくり。色水そのものの素敵さはもちろんですが、「すり鉢を使う」という新しいやり方や、友達やおうちの方が楽しそうにやっている姿など様々な魅力が重なって、次々と色々な子に「やってみたい」と伝播していったようでした。これまであまりやったことがない子も、足を止めてじっと見ていたところをおうちの方に誘ってもらって始められたということもあったようです。

「どうやってやるの?」と聞くと、「こっちにこの葉っぱはあるよ。」「ミントを〇枚、バジルを〇枚合わせるとこうなるよ。」と自分なりの調合の仕方を教えてくれる姿もあったようです。

また、自分のお母さんが来たら絶対これを一緒にやりたいという思いをもって、保育参加の日を楽しみにしていて、葉っぱだけではなく木の実や花なども使って色水作りを楽しんでいたようでした。

様々な素材を生かして遊ぶ姿に…

「自分達の幼稚園のことを知り尽くしているんだなあ。」「子どもなりにいろんなことを考えているんだなあ。」と感心しました。



色水を作りながら…

子どもたちは遊びのことを話しているだけではなく、「世間話」のようなことも遊びの中でいっぱいしているんですね。やっぱり「下ネタ」は大好きで。誰かが話すと一緒になって大笑いしていて、この時が一番盛り上がり上がっていたかも…(笑) その姿を見ているのもとっても楽しかったです。つばき組に転園してきたお友達のことも話題になっていて、そういうこともわかっているんだなあと思いました。「同じ名前だから、早織先生の子もなんじゃね?」ということになり、また「ぶひゃひゃっ」と大笑いしていました。子どもの世界って面白いですよ。

* 言い回しなど多少変わっているところもあるかと思いますが、ご了承ください。



クラスだより

つばき



No.10

H27. 9. 30

岩手大学教育学部

附属幼稚園

保育参加ありがとうございました

4日間の保育参加ありがとうございました。お家の方には、お魚とサメになったの鬼ごっこや平均台、トンネル、ハードルなどの体を動かすコースにかかわってもらい、ホチキスを使ったブドウの製作やローラーを使ったぬたくりでの海の製作活動を一緒に盛り上げて頂きました。子どもたちは、いつもとは違った特別な環境に嬉しさいっぱいで、どの日も張り切っていました。それぞれの日の活動をみんなで楽しんだり、お家の人やお友達のお家の方と一緒に元気いっぱい身体を動かして遊んだりすることができました。多くのお家の方とかわって、一緒に遊びを面白がったり、それぞれの成長の様子を見つめたりして頂き、とても貴重な体験となりました。

保育後のミーティングでは、お家の方々から心温まるエピソードをお話頂き、担任として、子ども達の成長を見直すいい機会になりました。一部ですが、子ども達の育ちや遊びの姿で、共通して話題になったことがありましたのでお伝えします。

鬼ごっこをしていて、タッチされたかされないかの言い合いになった。一緒に遊んでいた子が、「どうしたの?」と聞いて、間をとりもって解決しようとしていた。それを素直に受け入れている姿も見られた。子ども同士で考えているんだなぁと感じた。

降園準備の時に、隣に座っている子が水筒を忘れてることに気付いて、小さな声で「OOくん、水筒忘れてるよ。」と耳に囁いて教えてあげていた。それを見ていたOOちゃんも、近くにいたOOくんに、同じように、「OOくん、水筒忘れてるよ。」と教えてあげていた。

子どもが楽しんでいる探検遊び。どんなふうになっているのか興味があったが、実際に遊んでいる様子を見て、楽しさを感じることができた。園の環境にある木などを恐竜にしたり、そこには存在しないものを敵に見立てたりしながら、自分達のイメージの中で楽しんでいることが分かった。それぞれ子ども達の話していることがつながっていることが面白いと思った。

一人で箱を持って動いていたOOちゃん。なんとなく目が合って声を掛けられ一緒に動き出した。何をしようか決まっていなかったのでは…と思っていたが、ただ一人でいて寂しくいたのではなく、『花を摘んで宝の箱に入れてプレゼントしたい』という思いを持っていた。友達と一緒になくても、やりたいことがあって動いていることがあるんだと思った。

片付けの時に、製作コーナーに置いてあったものを「これ誰のかな?」と周りの子に聞くと、一緒に遊んでいた子ではない子が「これOOくんのだと思っよ。」と答えていた。それぞれ別な場所で、違う遊びをしていますが、お互いに誰がどんな遊びをしているか、感じ取りながら動いていることがすごいと思った。

友達とぶつかり合ったりしながら、友達とのかかわりを学んでいます。少しずつ、周りの状況を察して、間を取り持つ子や優しく声を掛けてくれる子が出てきて関係をつなげてくれています。

想像力が豊かに発達し、見立てやつもりの世界に浸って、ごっこ遊びを楽しむのが4歳児の姿です。自分なりにイメージを表す喜びや、自分のイメージと友達とのイメージがつながり、一緒に感覚を持ちながら面白さを感じているように思います。

自分がやりたいと思うことを心ゆくまで楽しんだり、夢中になって遊び、満足感を味わったりする体験が大切です。

子どもたちは、周りの状況をよく捉えています。誰が遊んでいる場所、誰が使っているものという区分がつくということは発達上重要です。

3歳児のクラスも、基本的に同様の手順で進める。そのミーティングで【実践記録13】のような保護者の気づきや学びが生まれた。

【実践記録13】3歳児ミーティングでの話題（抜粋）

<言葉の育ち>

保護者A：語彙が増えてきた。友達が言っていることを取り込んでいる。「シャインマスカット」と言っていてびっくり。家では親がまだわからないだろうと勝手に判断して、「緑のブドウ」と言っていたが。

保護者B：我が家では祖父母もいて、キャンベル、シャインマスカットなど普通に使っているので子どもも取り込んでいると思う。

担 任：それぞれの家庭で獲得してきた言葉が混じり合って豊かになっていく。その中で、嬉しい言葉、悲しい気持ちになる言葉などを感じ取り、上手に取捨選択していけるように保育者など大人の価値も伝えながら過ごしている。

<一人で遊ぶこと>

保護者C：うちの子は一人で遊んでいて、それが悪いとは思わないが、まだ人とのかかわりまでは行かないのかなと感じた。

担 任：形の上では一人でいても、周りでどんなことが起こっているか、みんなが何をしているかアンテナを張っていて、誰かが笑うと一緒に笑ったりと人とのかかわりに関心が高まっている姿が見える。形にこだわらなくても大丈夫。

<トラブルの対応>

保護者D：自分の子の髪を引っ張った子がいて、でもちょうど昨日聞いた講演会で、子ども同士で解決することが大事という話を聴いたので、あえて見守ってみた。そうしたら、程なく子ども同士で解決し、何事もなかったように一緒に遊び始めていた。きっと次に同じようなトラブルがあったときに、経験を基に自分達でよりよく解決していけるようになるのだと思う。大人が入って、謝らせるといった形式上の対応をとらなくてよかったと感じた。

保護者E：うちは一人っ子で、今までトラブルの場面に親自身が遭遇したことがなかったが、今日そういった場面に出合い、どうしてよいか分からなかったときに、Fちゃんのお母さんが上手に対応していて感心した。

保護者F：うちのGとHちゃんは2歳の頃から一緒になることが多くて、1つのものをよく取り合っていた。今日も砂場でいつものように一つの山を巡って取り合いになったが、山をもう一つ作ってやったら、それで解決することができた。それを見て成長したな、と。Hちゃんのお母さんとこれまでもトラブルを含めてお互いに見守ってきていて、今日はどちらの子も成長している姿を見ることができて嬉しかった。

担 任：3歳は人とかかわる経験も少なく、まだまだ自分の思いを通すことが先行する時期。でも、ぶつかり合うからこそ、自分と同じように相手も思いをもっているんだなと気付くことができる。かっとなついているときには受け入れられなくても、少し落ち着いてくると相手の思いも見えてきて、子どもなりのいろいろな方法で気持ちを通わせていくようになる。ただ「ごめんなさい」ではなく、そう思えるようになるまでのプロセスを大事にしたい。どう行動するか、最後に決めるのは子どもたち。

5歳児のクラスは、クラスを越えて遊びが広がる状況にあるため、ミーティングを2クラス合同で行い、この時期の育ちについて確認した。そこで【実践記録14】のような保護者の気づきや学びが生まれた。

【実践記録14】5歳児ミーティングでの話題（抜粋）

<自己課題に取り組む意識の育ち>

保護者A：女の子より男の子の方が慎重な感じがあったが、男の子は女の子が登っているのを見て、まねてできるようになっていった。

担 任：年中の時にアスレチックの横から登るという自己課題に取り組んでいた子達。諦めないことが肝心と、自分なりに頑張って達成感を味わってきている。また、誰かができるようになると触発されてやってみようと思う気持ちが出てきている。それは、これまでの関わり合いで仲間意識が育ってきているからこそだと思う。

<「憧れ」のモデルの存在>

保護者B：我が子ではなく、よそのお子さんの成長ぶりに感動した。去年の保育参加では大人を頼りに遊んでいたが、今日は友達を頼りにしていた。一緒にままごとをしたが、草でもこれは包丁で切りやすい、切りにくい、と体験で学んでいる。チューリップの咲き終わった芯の所を切って「お花みたいでしょ」と。子どもが切らなければ気付かなかった。我が子も、家で上の子に教えていること（みじん切り、笹がき）を園で再現していた。家で体験できないことを幼稚園でやって満足しているんだなあと感じた。小さい組の子が横目で「いいなあ、包丁」と憧れて見ている。片付けの時には、小さい組に頼まれたものを洗ってきれいにしている。

担 任：大きい組になった自信もあるし、前の大きい組の姿を見て学んでいる。よい伝統のようなもの。包丁を使い始めたのも、唐突に入れたのではなく、タケノコをお料理に使うために必要があって取り入れた。「すごく危ないものだけど、丁寧に使おうね」ということで。はじめは切ること自体が楽しかったが、手慣れてきて、今はお料理をイメージしてそれに合わせて使いこなしている。

<状況や相手に応じる姿>

保護者C：転がしドッジボールをずっとやっていると飽きるのかなと思っていたら、人が減ったら白い小さい円、増えてきたら黄色い大きい円に移動すると楽しくできると考えながら動いていた。片付けの時も、重いものは2人で運ぶなど、協力し合う姿が見られた。

保護者D：お寿司屋をやっていた子、やり方を大人には言葉で説明し、はじめて仲間に入った子には、具体物を使って教えていた。相手に合わせている。セロハンテープの貼り方、縦に使った方が節約になるし、海苔巻きを切ったときに外れないということ、「そういうふうによればできるって、今まで何回もやってたからわかるもん」と。

担 任：相手に合わせて待つ姿なども見られる。一緒に楽しく遊びたいから。今までには見られない姿。・・・お家の方の話を聞いて、我が子もよその子も分け隔てなく、一緒に育ててくださっていると感じた。そういったお家の方の姿が、優しい子ども達を育てているのだと思う。

(4) 本事例の考察

- ・ 少人数で保育参加することで、一人が1グループを担当するような形になり、保護者が保育者としての自覚をもって保育に参加できる。その中で必要に応じて仲間になったり援助者になったりして保育にあたることで、幼児を多様な角度から見ることができている。(要素C)
- ・ 1ヶ月前から当日朝までの段階を踏んだ丁寧な情報提供を行い、保育のねらいを捉え、見通しをもち安心して参加できるようにすることで、参加する保護者が子どもたちの様子をイメージでき、「このグループにかかわってみよう」と主体的・目的的に保育参加することができる。(要素A, B)
- ・ 上記のようなプロセスを経た保護者の主体的・目的的な参加が、保護者自身のより多くの気づきや学びを生み出すことにつながっていると感じる。【実践記録13】<トラブルの対応について>の保護者Cは、得た知識を基に、意識的に見守る対応を試みたところ、幼児が自分達なりに解決する姿を目の当たりにし、「謝らせる、といった形式上の対応をとらなくてよかった」と振り返っている。幼児期について興味関心がもてるような働きかけが園からあり、それを基に実際に自分がかかわってみて手応えを得ていることが分かる。(要素B, C)
- ・ 担任を交えての事後のミーティングでは、お互いの見方が正しいかどうかではなく、感じたままを話し、聞き合うことで、子どもを多様な視点から見る大切さとともにおもしろさも感じられるようになったようだった。また、保育中に目にした保育者の幼児へのかかわり方を見て、自分のかかわりを振り返ったり(【実践記録13】の保護者Cの発言)、他の保護者のかかわり方から学んだり(【実践記録13】の保護者E)と、子どもへのかかわり方についてのモデリングが図られる。(要素C, D)
- ・ 年少組、年中組と、こういった形の保育参加やミーティングを経てくることで、【実践記録14】の保護者等のように、時には保育者を越えるような幼児の育ちの見取りができるようになってくる。このように、幼児を取り巻く大人が幼稚園教育要領に記されている「幼児期にふさわしい生活」の具体を認識し、できるだけそれを保障しようと意識していくことが幼児のよりよい育ちを促していくことにつながる。(要素B, C, D)
- ・ ミーティングの終わりにどのクラスの保護者も柔らかく穏やかな表情で子どもとともに帰宅していく姿からも、幼児期の子育てのおもしろさを発見した喜びと、安心してこれからも子育てに取り組んでいこうという前向きな思いが醸成されていたと思われる。(要素C)
- ・ 伝えたいポイントについては、保護者が目にした具体的な場面の幼児の姿と関連付けながらコンパクトに伝えると理解が深まる。保護者が話したことに対してポイントを絞って意義づけをしていき、担任の話が一方的にならないよう配慮することで、保護者同士のやりとりが活発になり、保護者同士も共感的な理解が深まるとと思われる。(要素B, C)
- ・ 保護者が目にした様々な場面について、必ずしも担任が全てを見ているわけではない。これまでの子どもの姿からその場面の意味を読み取り、育ちの理解につなげていくためには、日頃から担任を含めた保育者全員が幼児の育ちを見取る確かな目を養うこと、幼児期についての理解を深めたり、保育のあり方を研究したりするといった専門的な学びを深める努力をし続けていくことが大切である。(要素A, B)

オ 子どもの成長や子育てを振り返る機会となる誕生会・談話会の事例

(【表3】居場所・交流型支援)

→【表2】要素A, B, C, D

(ア) 本実践における工夫

① 子どもの成長を実感する誕生会

- ・毎月、その月の誕生児を園全体で祝う。誕生児の保護者も参加し、誕生児と一緒に全園児や職員から祝ってもらおうという、年に一度の節目の機会を設けることで、我が子の成長を実感できる。
- ・誕生児に向けて、保護者にあらかじめカードを渡してメッセージを書いてもらい、クラスでの誕生パーティーの時に紹介して渡す。誕生児も、改めて保護者の愛情を感じる機会となる。

② これまでの子育てを振り返る機会となる談話会

- ・誕生会後に、誕生児の保護者と園長・副園長で談話会を行う。園長や他の学年の保護者と一緒に話をする貴重な機会。誕生会同様、年に一度我が子の誕生月にあることで、我が子の育ちと併せてこれまでの子育てを振り返る機会となる【実践記録15】。

【実践記録15】談話会での話題(抜粋)

<年長児保護者>

- ・3, 4, 5歳児が並んで座っている様子をステージ前から見たら、2年前はこんなだったんだ、と振り返り、5歳児の成長を感じた。それに比して親の自分はどうかんだろう…。
- ・年少・中時代は母にくっついて離れなかったが、今は、具合が悪くても行きたいというくらい幼稚園が好きになった。
- ・友達とうまくかかわれるか心配していたが、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようになってきた。
- ・好きな遊びは?とか将来なりたいものは?とか答えが一つではないことを聞かれるのが苦手な子だったが、年長組皆で行ったこども科学館でのプラネタリウムに心惹かれたようで、将来宇宙にかかわる仕事をしたい、と自ら選び取ることができたことに感動。本にもあまり興味を示さない子だったが、星の本は読んでみたいと手に取るようになった。園の働きかけによる刺激って大きいなと感じた。
- ・友達関係が深まってきたことで、単純な遊びも、いい意味でライバルのようにして、友達と工夫して面白くしていると感じる。

<副園長>

- ・園での体験が興味関心の幅を広げたり、成長のきっかけになったりしているといった話が出たが、こういった共通の体験を友達と共有して遊びを作っていくのも年長組ならではの姿である。そして、そうやって友達と遊ぶ姿に、人間関係の温かさも感じられる。

<年中児保護者>

- ・この夏休みは下の子が生まれたばかりだったので、友達と一緒に体を動かしたい息子にとってはそれがかなわない状況だったが、姉に教えてもらってひらがな、カタカナを一気に覚え、友達に手紙を書いた。友達と遊ぶ楽しさを園に入って知った様子。これからも人とかかわりの点で成長して欲しい。
- ・製作が好きになり、園の材料を持ち帰ってきて作ったりしている。
- ・さんさ踊りは印象的な体験になった様子。パレードが終わっても、至る所で踊っている。お店の中を移動するときも、家の中でトイレに行くときも。来年も楽しみたい。

<副園長>

- ・年中児は想像の世界の住人。ごっこの世界を楽しむ姿がたくさん見られる。また、製作するということは、自分の想像の世界を形にしていく作業。こうなりたい、こうしたい、という意欲を高めていくのが幼児教育。覚えたい、と思ったら教え込まなくても文字を1日で覚えてしまうように。

<年少児保護者>

- ・今日この場で話をするために、昨日改めて我が子について振り返ってみた。この会が子育てを振り返るよい機会となっている。
- ・自分で何でもやろうとするようになった。自立してきている。
- ・人とかかわりの中で、ぶつかることがあった。わがままなのだろうかと悩んだりした。
- ・入園当初は登園を渋ったり、初めてのことに一步踏み出せずかなり慎重なところがあったりして心配した。ぎゅっと抱きしめてから登園していた。保育参加で見たときには心から楽しそうにしている安心した。
- ・夏休みに、母と離れていどこ達と寝ることに挑戦した。昼間は強がって頑張っていたが、夜になると一人で床にいたものの肩をふるわせて泣いていて、最終的には母と寝たが、一連の出来事から成長を感じ、嬉しくもあり寂しくもあった。

<副園長>

- ・トラブルがあると悩んでしまいがちであるが、3歳の子どもたちを見ていると、皆それぞれ勝手に遊んでいるように見えながら、他の子の様子を見ているし聞いていて、意識できている。この時期は、「仲良く」とか自分を抑えて周りに合わせることに重きを置くのではなく、まず一人一人が自分を出せることを大切にしていきたい。自分を出して、相手とぶつかって「あれ？」相手が泣いている、悪かったかな、と自分で気付いていくことが大切。余り心配せず、見守っていくことを大事にしたい。
- ・入園当初は初めての集団に入り、緊張していたと思うが、友達とのつながりが感じられるようになってくると、慎重だった子も〇くんみたいにしてみたい、といったように新しいことに挑戦する勇気が出てくる。今、自分から積極的に人やものごとに働きかける様子が見られる。

<園長>

- ・「成長」がキーワードの談話会だった。自分の娘が3、4、5歳の時に、自分（園長）の誕生日にプレゼントとして自分の絵を描いてもらった。年を経る毎に、絵自体はさほど上手になっている訳ではないが、描きたいこと、表現したいことがすごく変わってきている。同じ小さな画面の中に、表現したいことをたくさん盛り込みたい、5歳の時には文字までもという思いが伝わってくる。そういった表現したい思いを何かの形で出せるような仕掛けをするとよいのではと思う。また、園での作品等も写真に収めて保存することをおすすめしたい。5年後、10年後に宝物になる。
- ・「ぎゅっと抱きしめる」ということも話があった。親は緊急避難基地。抱きしめることで安心して再び新たなことに向かっている。ぎゅっと、も小さいうちだけ。大きくなったらできなくなってくる。

この談話会については、保護者から次のような声があった。

- ・談話会は最も楽しみにしていることの一つである。子育ての1年を振り返ることができ、園長先生、副園長先生、そして他のお母様方のお話を聞くのもとても充実した時間である。
- ・談話会で、他学年の保護者の方、園長先生、副園長先生と話す機会があり、悩みに対する考え方など大変勉強になった。誕生会以外でもテーマを決め、少人数で話し合える機会があったら嬉しい。

また、副園長の考察（成果と課題）は以下のとおりである。

- ・談話会という機会があることで、改めて我が子の育ちや自分の子育てについて振り返る機会になり、意義を感じている保護者の方が多いのではないかと思う。
- ・多様な保護者の子育ての仕方、考え方に触れる機会になっている。多様な意見に触れ、自分を

見つめ直したり、他者の子育ての喜びや悩みに触れて共感したり、ヒントを得たりするなどして、改めて子育ての意義を感じたり意欲が湧いたりする機会となっている。

- ・園長・副園長，そして他の学年の保護者を前に緊張することもあるようだ。できるだけ緊張せず，話しやすい雰囲気をつくるよう心がけているが，もっと保護者同士でレスポンスし合う状況が生まれると，より話し合いが深まるのではないか。

(イ) 本事例の考察

- ・誕生会では，我が子と一緒にみんなの前に出て祝ってもらうことで，我が子の成長とともに，祝ってくれている子どもたち3歳，4歳，5歳と各年齢の発達段階を見ることができ，来年はこんなふう to 育っていくんだなあとか，去年はこんな姿だったなあなどと，幼児の発達する様子を実際に見て理解する機会になっている。（要素B，C）
- ・誕生児の保護者，園長，副園長と子どもの様子を語り合う中で，子育ての不安や悩みを共有したり子育ての仲間がいる安心感を得たりし，子どもを肯定的に捉え，子育てに対し前向きな気持ちをもてるようになっている。（要素A，B，D）
- ・特に年少組の保護者にとっては，年中・長児の保護者の話から，1年後，2年後の育ちの姿をイメージすることができ，これからの子育ての方向を考えるよいきっかけとなっている。また，友達同士のトラブル等の悩みについても，その姿をどう捉えればよいかのアドバイスを副園長からもらう等，これから我が子が集団生活を続けていく上での親としての構えを築く一助となっている。（要素B，D）
- ・保護者の感想にもあるように，年に一度我が子の誕生月に談話会があることで，我が子の育ちと合わせてこれまでの子育てを振り返る機会となる。談話会の中で我が子の話しをしなければ思うと，必然的にこれまでの子育てを思い返すことになり，他者の前で話すことに少し緊張感もあるようだが，意義深いことだと捉えている保護者が多い。（要素B）

カ 保護者同士が交流し、つながる場としてのクラブ活動の事例

(【表2】居場所・交流型支援)

→【表3】要素B, C, D

(ア) 本実践における工夫

① 保育時間中を利用し保護者が自主的に活動


・本園にはコーラス・人形劇・絵本・絵画・さんさ踊りの5つのクラブがある。どのクラブもほぼ週1回、保育時間中に活動を行っている。小さな子を連れていてもできる活動で、登園したらそのまま活動場所でクラブ活動を行い、その後降園時刻に合わせて活動を終了するという流れなので、無理なく参加できる。各クラブで年度初めに参加者を募集する【資料20】。

【資料20】クラブ活動部員募集の配付物

平成27年4月24日

岩手大学教育学部附属幼稚園
保護者各位

岩手大学教育学部附属幼稚園
PTA コーラスクラブ



コーラスクラブ部員募集のご案内


ご入園、ご進級おめでとうございます。

コーラスクラブでは、年2回のお誕生会での発表と、ヴィラ加賀野への訪問発表に向けた練習を中心に活動しています。お誕生会では、子供たちに喜んでもらえるような曲を、楽器や小道具を交えながら楽しく歌っています。一緒に歌ったり踊ったりしてくれる子供たちの姿を近くで見ることができ、やりがいもあります。

私たちと一緒に、素敵な「うたのプレゼント」をつくってみませんか？

小さいお子様がいらしても、一緒にできる活動です。見学の方、入部とはいかなくても、お手伝いなら・・・という方も大歓迎です。

どうぞお気軽にいらしてください。お待ちしております。



♪ 活動日 : 月曜日 登園～お迎えの時間まで


♪ 活動場所 : 加賀野児童センター

活動日と場所の詳細は、幼稚園玄関にあるホワイトボードをご覧ください

----- き り と り -----

コーラスクラブ入部申込書

----- 組 -----



お子様氏名.....
ご本人氏名.....

※担任の先生かコーラス部員へ提出をお願いします。

② 活動の成果を保育に還元

- ・それぞれのクラブが、誕生会での発表や、作品の展示、さんさパレードの園児指導と参加等活動の成果を園の保育に還元している。

クラブ活動に参加した保護者の声に以下のようなものがあった。

- ・親も人のつながりで安心する。園を通して皆の親の目で子どもたちを見てもらえる、そういうつながりがもてる機会であり有意義である。
- ・自分自身が充実し、親の頑張る姿を見せられた。
- ・「やればできる」と自信になった。子どもの笑顔にやりがいを感じた。
- ・学級を越えて仲良くなり、クラブ活動以外にもいろいろ助け合ったりできるのがよい。

(4) 本事例の考察

- ・希望する保護者が主体的に取り組む活動なので、一人一人が生き生きと活動している。誕生会での人形劇クラブの発表では、おおかみの登場に年少児が泣いてしまうといったハプニングもあったが、それも含めて子どもたちの反応がとてもよく、演じる保護者も観る園児も一体となって劇を楽しんでいる様子が伝わってくる。(要素C)
- ・活動の成果を保育に還元し園児の喜ぶ顔を見ることで、保護者はまた頑張りたいと意欲が湧くようである。幼児も自分の母親が活動していることを喜んだり、家庭で話題にしたりと、園での共通体験が親子のコミュニケーションの一助にもなっている。(要素C)
- ・活動の成果を保育に還元することが、園の教育に保護者も参加しているという意識を醸成し、園の教育への関心が高まる。(要素B)
- ・クラブ活動の中で、子育てにかかわる情報を共有したり、先輩の母親からアドバイスを受けたりすることで、子育てに対しての多様な見方を得ることができる。(要素D)
- ・クラブで他の保護者と親しく活動する中で、互いに支え合ったり助け合ったりする関係が育まれていく。(要素C)

(5) 花巻市立湯本保育園の実践事例

ア 保護者の声を生かした園だよりの事例

(【表3】情報発信型支援)

→【表2】要素B, D

(ア) 本実践における工夫

① 保護者の感想等を生かした紙面作り

・行事等の事後の園だよりでは、園の職員内での振り返りに留めず、保護者の感想からその行事や幼児の姿を通して学んだこと等を伝えることで、園から保護者への一方通行の発信ではなく、同じ親としての目の高さで見方を共有したり、考え方を広げたりすることができるよう工夫する【資料21】。

② 写真を生かした紙面作り

・保育参加等、園内での様子を写真と共に伝えることで、言葉が多くななくても内容がよくわかる【資料22】。

【資料21】保護者の声を生かした園だより（表面）

おたんじょうび おめでとう!!

7月 園だより

平成27年6月25日 花巻市立湯本保育園

梅雨の季節になりました。不安定な天候ですが、子ども達が大好きなカエル達はびよんびよん跳ねて大喜びでしょうね。

子ども達は、晴れた日は裸足になって、水・砂・泥のサラサラ、パタパタ、ドロドロなど色々な感触を味わい五感を刺激しながら、外でたくさん遊んでいますよ。

さて、先月の大型バスに乗って出かけた親子遠足「盛岡市動物公園」では、色々な動物達を見たり、うさぎやひよこの赤ちゃんに触れたりして大喜びの子ども達でした。大好きなお家の方と一緒に食べたおいしいお弁当も、格別だったことでしょう。天候にも恵まれ、ケガや事故もなく楽しい遠足となりました。お忙しいところ、ご参加頂きありがとうございます。

これからの時期は、感染症などの流行が心配されます。花巻市内では、ノロウイルスが発生した施設もあり、保育園でも手洗いうがい、消毒の徹底など心がけていきたいと思っています。ご家庭でも、十分お気をつけてお過ごしください。

ニコニコせんせい体験 & 個別面談 ～ありがとうございました!!～

ニコニコ先生体験&個別面談には18名、個別面談に5名の保護者の皆様にご参加頂きました。体験の様子やアンケートでの感想やご意見などご紹介いたします!

***体験の様子**

- ・今回初めて2人のお父さんの参加がありました。大きな体で子ども達のあられる元気パワーを受け止めて下さり、大きい砂山作ったり、小麦粉粘土あそびでは力強くこねて見せてくれたりとダイナミックに、また優しく話しかけてお世話してくれたり等、たくさん触れ合い関わって頂きました。

***アンケートでの感想やご意見**

- ・子ども達の園での様子や、友達との関わり、園での過ごし方が自分の目で確かめられ非常に良かった。自分自身楽しかった。
- ・子ども達へ『教える』のではなく『考えさせる』、『やってあげる』ではなく『体験させる』ことを学びました。

※その他の体験の様子、感想などまだまだあります!裏面につづく・・・!

*10月にも開催しますので、今回参加できなかった保護者の方、再度参加したい方もどうぞご希望ください。近くなりましたらご案内いたします。

＜お願い＞

***汗ふきタオルについて**

- ・汗ふき用のフェイスタオルをご用意ください。使ったら持ち帰りますので、次の日にはまだ、清潔なタオルを持たせて下さいますようお願いいたします。()
- (フェイスタオルの真ん中に、 かけひもをつけて下さい。)

***ハンカチ、おしぼりについて**

- ・手洗い時や汗ふきなどにも使うハンカチ、食事で口や手をふくおしぼりは、毎日清潔な物を持たせて下さいますようお願いいたします。

***着替えの補充について**

- ・汚れた衣類を持ち帰った際は、次の日にはその分の着替えの補充をして頂きますよう、お願いします。

◎7月より 園務 トより

パート①

となります。 よろしく願いいたします。

保護者の声

【資料 22】写真を生かした園だより（裏面：記述内容については 65 頁に再掲）

☆ ニコニコせせい体験 & 個別面談 ～ 体験の様子と感想（つづき！）



それ！いいしょ！！



「読つたらしいはないちもんめ！」



やさしくとんがら...



「おいしいお飯事をいただきます！」



「よく噛んでちもりたべよう！」



「ゆっほー！」

***体験の様子**

- ・お父さん方の他、昨年に引き続き、多数のお母さん方に参加して頂きました！
細かい気配りや、丁寧なかわり、やさしい言葉かけ・・・さすが！のお母さん方でした。
- ・写真でも紹介しておりますが、外遊びでの砂山作り、水・砂・泥あそび、ジャンглジム登り、室内では「はないちもんめ」でふれ合い遊び、製作遊びのお手伝い、着替えのお手伝い、一緒に昼食、午睡での添い寝、絵本や紙芝居の読み聞かせ・・・等など、半日 or 一日たくさん子ども達とふれ合い、関わりながら体験して頂きました。
お父さん、お母さん、そして子ども達もみんなニコニコ笑顔で楽しく過ごすことが出来ました。
- ・昨年の保育アンケートでの、「一日体験してみたい」というご要望、ご意見を取り入れさせて頂き、今回一日体験を希望された方は5名もいらっしゃいました。9時～16時まで大活躍して頂きましたよ！大変、お疲れさまでした！

***アンケートでの感想やご意見**

- ・保育室でどのような遊びをしているか、また、どんな子がいるのか、色々と詳しく遊ぶことができたことも楽しかったです。子どもがすることを時間がかかるとしても待って下さいということ、色々なことを教えて頂きました。
- ・先生方大変さが、改めて感じました。今年は給食がとても役に立ちました。野菜をもっと工夫して、家でも出していきたいと思いました。
- ・園での子どもの様子が見れたり、一緒にふれ合い楽しかったです。園でがんばっている分、家では甘えなくなるのを改めて感じ、多少のことは心を広くし、おおめにみたり、受けとめようと思います。
- ・子ども達と一緒に裸足で外で遊んだことが楽しかったです。友達のかかわり方を見て、集団生活で我慢している事が沢山あるようなので、家で色々と話を聞いてあげたいなと思いました。
- ・一度見てみただけだったリズム体操、体をのびしたりまったり、カメのポーズではみどりさんはすごく素敵でした。きりん組には私1人だったんで、びっくりするくらいみんな寄ってきてくれました。今回は半日だったので来年は一日を希望したいと思います。
- ・子どもに“自分でする”ように促す先生の子ども達への接し方など言い方を真似てみようと思いました。



「何か、いるかな？」



紙芝居の読み聞かせ・・・みんな静かに聞いているね



紙芝居の読み聞かせ・・・みんな静かに聞いているね



紙芝居の読み聞かせ・・・みんな静かに聞いているね



紙芝居の読み聞かせ・・・みんな静かに聞いているね



紙芝居の読み聞かせ・・・みんな静かに聞いているね



紙芝居の読み聞かせ・・・みんな静かに聞いているね

(4) 本事例の考察

- ・一方通行になりがちな園だよりの中に、保護者の声をできるだけ盛り込み、園の保育内容についての理解を保護者の言葉を通して発信している。保護者の声として発信すると、他の保護者も同じ土俵に立ち、共感的に受けとめてもらえると思われる。（要素B、D）
- ・写真にコメントを付け効果的に用いることで、【資料 22】の場合には、まだ保育参加していない保護者が、次回はぜひやってみたくないと意欲を喚起できる。（要素B）

ア 子ども理解を深める「ニコニコせんせい体験」・個別面談の事例

(【表3】行事・体験型支援)

→【表2】要素A, B, C, D

(ア) 本実践における工夫

① 保育園の日常生活の体験

・昨年度は、誕生会と抱き合わせで「ニコニコせんせい体験」を行っていたが、特別な行事の日であるために、セレモニーに少し出番があるだけで、保護者が主体的に参加する状況を作りにくく、専ら参観となり受け身になってしまうという反省を基に、日常の保育に参加できるような形に改めた。参加についても、一定期間内で保護者の都合のよい日を選んでもらい、参加の仕方も半日または一日から選ぶことができるようにした【資料23】。

【資料23】ニコニコせんせい体験と個別面談のお知らせ

ニコニコせんせい体験と個別面談のお知らせ

花巻市では、「元気な子ども」「やさしい子ども」「考える子ども」の育成をめざし、「ニコニコチャレンジ」の取り組みや「ニコニコガイド」の発行(子育てに関する情報提供)など様々な取り組みを行っています。昨年度から花巻市の新たな取り組みとして、「ニコニコせんせい体験」がスタートし、湯本保育園では、毎月の誕生会に実施して、お子さんの誕生月に保護者の皆様に参加して頂きました。「とても楽しかった」「保育園での子どもの様子がよくわかった」「関わり方など子育ての参考にもなった」等々、たくさんの嬉しい感想が寄せられました。お忙しい中、参加して頂き、本当にありがとうございました。

さて今年度は、昨年度のアンケート等のご意見も参考にし、下記のように計画しましたので、ご案内いたします。

記

目的 ・子どもに対する相互理解を深める。
 ・保育園と保護者との信頼関係を深める。
 実施期間 6月8日(月)～19日(金)の希望日 ※土曜日は除く
 対象 希望する保護者
 日程

半日の場合	一日の場合
9:00 *オリエンテーション	9:00 *オリエンテーション
9:15 自由あそび又は、クラス活動 *子ども達とふれ合い遊んだり、お世話したりなど、保育のお手伝いをお願いします。	9:15 自由あそび又は、クラス活動 *子ども達とふれ合い遊んだり、お世話したりなど、保育のお手伝いをお願いします。
11:15 排泄、手洗い、食事準備* 昼食 *片づけ、清掃、布団敷き等	11:15 排泄、手洗い、食事準備* 昼食 *片づけ、清掃、布団敷き等
12:45 *個別面談	13:00 午睡 *絵本の読み聞かせをしたり、添い寝をするなど。
13:00 * 終了	14:00 * 休憩 * 個別面談(15分程度)
	15:00 起床 * 布団上げ、着替えの手伝い等 排泄、手洗い、おやつ準備*
	15:30 おやつ * 片づけ
	15:50 帰りの会
	16:00 順次降園 * 終了

- ・保育園の生活やお子さんの様子等を知っていただく機会ですので是非ご参加ください。
- ・参加の場合は給食費(実費)として、半日参加で160円、一日参加で240円がかかります。
- ・参加希望の保護者の方は、別紙の「参加申し込み書」に記入の上、担任又は事務室の方へご提出をお願いいたします。調整後参加希望の保護者の皆様に、改めて日程についてご確認いたします。ご不明な点は保育園にお問い合わせください。
- ・個別面談のみ希望される方は、担任までご相談ください。
- ・この期間に都合悪く参加できない方もいらっしゃると思いますので、今回の参加状況をみながら、10月頃に別期間(13～16日)を設定する予定です。(その旨は、申し込み書に欄を設けましたので、ご記入ください。)

② 「ニコニコせんせい体験」と同日の個別面談の実施

- ・昨年度は、個別面談を単独で期間を決めて実施していたが、今年度は「ニコニコせんせい体験」と同じ日に設定した。保護者の予定の調整にも配慮した。

③ 面談に向けた保護者対応の基本についての学習会の実施

- ・研修指導主事による保護者対応の基本や、カウンセリングマインドを大切にされた対話の仕方等について学ぶ。

事後の保護者アンケートでは以下のような回答があった。

- ・子ども達へ「教える」のではなく「考えさせる」、「やってあげる」のではなく「体験させる」ことを学んだ。
- ・今年は給食がとても役立った。野菜をもっと工夫して、家でも出していきたいと思った。
- ・園で頑張っている分、家では甘えたくなるのを改めて感じ、多少のことは心を広くし、大目に見て、受け止めよう思う。
- ・今回は半日だったので、来年は一日を希望しようと思う。
- ・子どもに“自分でする”ように促す先生の子ども達への接し方など、言い方をまねてみようと思う。
- ・家ではどうしても親がやってしまうところがあり、自分でできること、お手伝いは最後まで任せることが大切だと感じた。
- ・子どもの話し方や友達への接し方は、家庭での生活がかかわってくるのかなと思うことがあった。自分ももっとしっかりしていかなければと思う。
- ・周りの同年代の子の様子を見て、何でもやってあげるのではなく、自分で自分のことをやるのを見守り、促していくことの重要性を感じた。
- ・この体験は、普段の保育園での過ごし方が分かるのでよいと思う。保護者と保育園との相互理解を深めるよい機会だと思った。

また、園の職員の所感は以下の通りである。

- ・保育園に関心をもっていただく機会になった。
- ・日常の保育を見ていただいたことで、日々の生活と子どもの様子を知ってもらい、安心につながったようだ。傍観ではなく、一緒に遊び、楽しさを味わってもらうことができた。また他児とのかかわりを通して、3歳児の育ちを理解した様子があった。
- ・他児の様子から、自分が我が子に手をかけ過ぎだったと気付く機会になっていた。
- ・参観よりも参加（体験）の方が保護者にとって幼児や保育を理解しやすいのではと感じた。
- ・家庭とは別の姿を見ることで、我が子の成長を感じる機会になっていた。
- ・対応の仕方が参考になった、という声が多く聞かれた。
- ・保育参加（「ニコニコせんせい体験」）と個別面談を同じ日にしたことで、子どもの具体的な姿を話題にでき、育ちを共通確認することができた。
- ・カウンセリングを生かした保護者対応の研修をして、保育者側から一方的に伝えることよりも、保護者の声を聞くことを意識したところ、「子育てが初めてでわからないんです」といった思いや悩みを素直に話す姿が多く見られ、保育者も保護者もお互いに心を開いて話し合うことができた。
- ・0、1歳児は泣いて親から離れなくなる姿もあるので、対象を2歳児以上にしてもよいのではないか。

(イ) 本事例の考察

- ・昨年度の反省を生かし、保護者が主体的に保育にかかわることができる内容に変更したことが、保護者の声や、園の職員の声から、保護者の幼児理解を図る上で有効だったことがわかる。
(要素B, C, D)
- ・子どもの発達や成長を見通して待ったり、声を掛けたりするといった保育士のかかわり方を目の当たりにし、園の保育に対しての信頼感を一層強めることになったと思われる。(要素A)
- ・「子ども達へ『教える』のではなく『考えさせる』、『やってあげる』ではなく『体験させる』ことを学んだ」という保護者の声が出てきた背景には、園としての保育のあり方を職員が共有し、それを実践できていることが挙げられる。(要素B, D)
- ・個別面談を「ニコニコせんせい体験」と同日にしたことで、具体的な幼児の姿を話題にし、その姿から幼児期の発達について共通理解したり、これからの保育や子育ての見通しをもつことができたりと有意義な内容で進めることができている。(要素A, B, C)
- ・保護者への対応の仕方について事前に学んだことで、保護者の素直な気持ちを引き出すことができる。(要素A)

ウ 園と共に子育てをする意識を高める園行事「ちびっこ夏祭り」の事例

(【表3】行事・体験型支援)

→【表2】要素A, B, C, D

(ア) 本実践における工夫

① 園行事の保育参加への位置付け

- ・昨年度までは参観として行っていた「ちびっこ夏祭り」を参加型行事に変更した。「ニコニコせんせい体験」同様、参観だけよりも、幼児と共に活動することで保護者が幼児へのかかわり方を学んだり、幼児の発達の様子を感じ取ったりできる。今年度は「ちびっこ夏祭り」のねらいを以下のようにした。

<園児にとってのねらい>

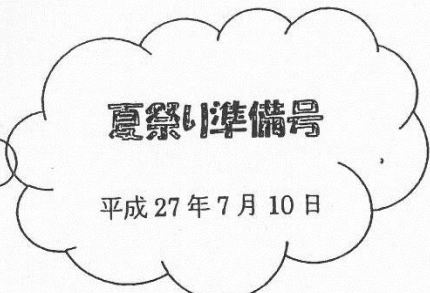
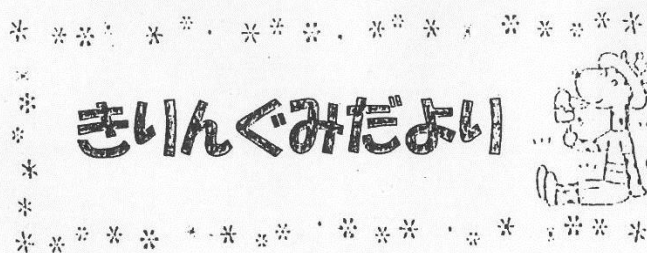
- ・保育者や友達と一緒に夏祭りに向けての準備をしたり、お店のやりとりを楽しんだりする。
- ・自分達でやり切った満足感を味わう。

<保護者にとってのねらい>

- ・保護者も夏祭りを進める一員となり、園児や他の保護者との交流を深める。

② プロセスを知らせるクラスだよりの発行

- ・「ちびっこ夏祭り」に向けて、幼児がどのような思いでどのような活動してきたか等、プロセスを知らせるクラスだよりを発行し、保護者が幼児の思いに共感しながら当日を迎えられるようにする【資料24】。



子どもたちが楽しみにしている“ちびっこ夏祭り”まであと一週間となりました。子どもたちは、夏祭りに向けて様々な準備をしています。

どんなお店屋さんにしようかな？と考え、きりん組が決めたお店は…

『手裏剣グッズ屋さん』 『ハブラシ Copp 屋さん』です。

共に、折り紙を使った品物です。朝の自由遊びに「折り紙がしたい!!」と、本を見ながらいろいろな折り方を楽しむ、きりん組ならではの店決定でした。お店が決まってからは、さらにやる気満々で、黙々と手裏剣やハブラシ Copp を折り続ける子が続出!!

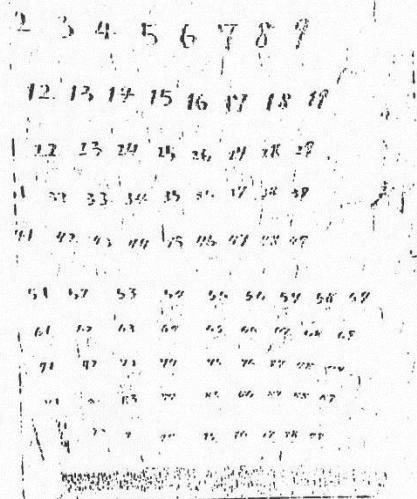
ひよこ組からきりん組まで全員の品物を作るために“目指せ！手裏剣 100 個”“目指せ！ハブラシ Copp 50 個”を合言葉に取り組みました。すると、あっという間に目標個数達成！「100 個出来たよ〜！」と大喜びでした。「みんなで作るとあっという間だね！」と、友だちと協力することの心地よさを感じた子もいたようです。

お店の看板作り、歌や盆踊りの練習…と、夏祭りが近づくにつれ、子どもたちは意欲的になり、張り切っているいろいろなことに取り組んでいます。

当日は、親子でお店屋さんになりきって品物を買ったり、わにわにパニックゲームでワニを動かしたりします。これまで、準備を重ねてきている子どもたちは、当日も張り切ること間違いなしです！！

子どもたちの気持ちを大切に一緒に盛り上げていきましょう！！詳しい内容については、当日お話しします。

よろしくお祈りします！！



※お店屋さんに変身するため、子どもたちは保育園の豆しぼりを頭に巻きますので、お家の方も当日、豆しぼりをご用意ください。(ご家庭にない場合は、お知らせください。)


③ 行事当日の園と保護者・園児打合せ「作戦タイム」の実施

- 子どもたちが企画して進めている夏祭りでのお店屋さんにとのようにかかわり、援助していったらよいかを打合せる親子一緒の「作戦タイム」を実施した。約30分の時間の中で、これまでの子どもの様子や思い、行事の意図を改めて担任が知らせたり、園児と共に仕事内容や役割分担を確認したりした。また、保護者同士が交流したりする時間も設けてミニ懇談会を兼ねた【資料25】。

【資料25】「作戦タイム」資料（抜粋）

みんなで楽しもう！

ちびっこなつまつり大作戦



平成27年7月17日
花巻市立湯本保育園
きりん組・ばんだ組

本日は、ちびっこなつまつりにおいで下さり、ありがとうございます。

今回のちびっこなつまつりは、おうちの皆さんにもお店屋さんになって頂き、お子さんと一緒に盛り上げて頂きたいと思い、企画いたしました。どうぞ、ご協力をお願いします。

各クラスのねらい

きりん組・・・子ども達が主体となり、お店のやりとりを楽しんだり、やりきった満足感が味わえるようにする。（おうちの方と一緒に行う事で、意欲がさらに増すのでは？）

ばんだ組・・・「どれにしますか？」「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」など、知っていることばのやりとりをしながら、お店屋さんになってみる。
（おうちの方と一緒に行う事で、安心して、楽しく、ごっこ遊びができるのでは？）

お店のお仕事（して頂きたい事）

子ども・・・スタンプ押し・呼び込み・品物の補充・品物を渡す

保護者・・・スタンプの確認

子どもの様子に応じた声掛け

例 やりたい事がかち合い、トラブルになるかも・・・

どうしていいかわからず、もじもじ・・・

やりとりが上手！感心！・・・ほめる声掛け

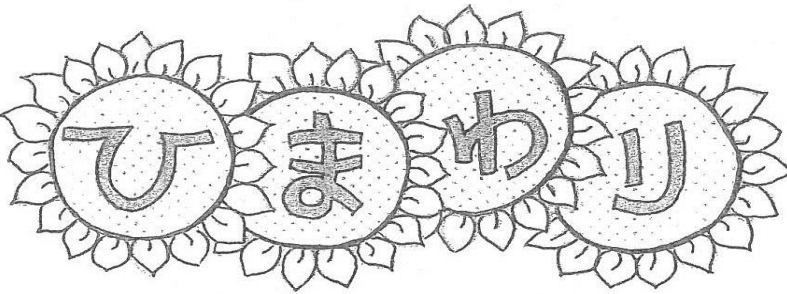
ちびっこ夏まつり係分担表

お店	職員	1グループ	2グループ
しゅりけん (きりん組)			
わたあめ (きりん組)			
わにわにばにっく (きりん組)			
じゃんけんぽん (きりん組)			
はぶらしこっぶ (きりん組)			
あいすくりーむ (ばんだ組)			

1グループ（10：20～10：50）
2グループ（10：50～11：20）の2交代で、お店屋さんをします。

「作戦タイム」の工夫をしたことで、保護者からは【資料26】のような反応が見られた。

【資料26】保護者会報（抜粋）

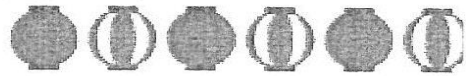


平成27年8月24日
湯本保育園
保護者会報 第2号

8月19日(水)、第2回保護者会役員会が開催されました。主な内容は親子遠足とちびっこ夏祭りの反省、および、9月26日(土)に行われる親子運動会についてです。その主な内容をご報告致します。

ちびっこ夏祭りについて 意見・感想

日程：7月17日(金)



★ きりん組・ぱんだ組はお店の売り子に挑戦したが

→親子で一緒に売り子ができ子供達同士の関わりを見たり、お友達ともふれあう事ができ、とても楽しかった。

→お客さんの呼び込みも大きな声を出して頑張っていた。

★ ワニワニパニックのワニガリアルで怖がっていた。

★ とても楽しかったようで、今でも夏祭りで買い物した品物を大事に取っている。

⇒ 先生方の工夫と配慮によりとても楽しいちびっこ夏祭りになりました。先生方に感謝です！！

園の職員の所感は以下のとおりである。

- ・参加型行事にしたことで園と保護者の一体感があつた。子ども達も保護者と一緒に活動することで意欲がかき立てられ、張り切っていた。
- ・いつもは大人しい母親が明るい表情をしていて嬉しかった。
- ・充実感を味わい、次の行事の親子運動会に意欲を見せる保護者の姿が見られた。
- ・父親の参加が増え、園行事の中で父親同士の交流も見られるようになった。
- ・作戦タイムで自己紹介をしたことが、保護者同士仲良くなるきっかけとなっていた。
- ・一緒にお店屋さんをしたことで、保護者同士のコミュニケーションがとれるようになっていた。
- ・保護者に協力してもらったことで、子ども達のしたいことが実現できた。親子一緒に作戦タイムもよい雰囲気で進められ、有効だった。
- ・子ども主体で活動を進め、保育者と保護者はそれを支える形がかかわった。子ども達は楽しさを十分味わい、達成感も大きかった。
- ・園の意図を汲んで活動する保護者の姿から、クラスだよりや作戦タイムで活動の意味や大切にしたいこと、これまでの経過や子どもたちの思いを保護者に知らせることは大切だと実感した。
- ・兄弟がいて、お店巡りとお店屋さんの両立が難しいときには保育者が協力した。そのようなやりとりの中で、保育者と保護者の信頼関係がより深まったように感じた。

- ・子ども達の中に、お店屋さんごっこで製作活動をした経験を生かし、普段の遊びの中でも遊びに必要なものを自分達で作ろうとする姿が見られる。
- ・未満児用の休憩室を設けたが、個々で休憩する姿が多かった。未満児だけで楽しめるコーナーを設けたら保護者同士がかかわりをもてたかも知れない。
- ・保護者用の名札があれば、どの園児の保護者かわかりやすかったと思う。

イ 本事例の考察

- ・昨年度までの反省を生かし、参加型の園行事として夏祭りを位置付けたことで、保護者が園児と共に活動し、幼児期について共感的に理解することができる。（要素B, C, D）
- ・プロセスの分かるクラスだよりや「作戦タイム」が幼児のこれまでの姿の意味を知り、子どもの思いを実現しようとする保護者の活動につながっている。また、保護者同士のつながりも生み出している。（要素A, B, C, D）
- ・保護者会報の内容や父親の参加の増加など、保護者同士が同じ経験を土台としてコミュニケーションがとれるようになり、園行事に積極的にかかわるようになることで、共に子育てしていこうという意識が醸成されてきている。（要素C）
- ・保育の意図が保護者の協力により実現し、楽しく充実した活動を経験できたことが幼児の普段の遊びに生かされ、幼児の育ちにつながっている。それが一層、園への信頼感を増すことにつながる。（要素A, C）

4 実践結果の分析と考察

各園の実践結果について「保育者の意識変容や手応え」と「保護者の意識変容」の視点から分析し、考察を加える。

(1) 盛岡市立太田幼稚園の実践から

ア 保育者の意識変容や手応え

お弁当参観等の目的を明確にした参観にすることで、お弁当の進み具合を見て朝食を取る時刻を早める等の生活リズムを見直す保護者が出てくるなど、参観後の保護者意識の変化がよく見えたようである。幼児の年齢が低いほど食の生活への影響が大きいことを保育者、保護者の両者とも実感できたことから、意識的に働きかける大切さを感じる機会となった。

少人数であることを生かした個別の対応を大切に、日常的に保護者に声を掛けていくことで、園長や担任との信頼関係が築かれた。このことで、幼児についての心配事も、不安が大きくなる前に解消できていた。懇談会も、アットホームな雰囲気ですべて話すことができているのは、普段からのコミュニケーションの成果だと感じていた。

イ 保護者の意識変容

普段から園長や担任とコミュニケーションがとれているので、安心して小さな悩みも相談できるようになった。我が子からの情報だけで、他の幼児の行動を判断したり、誤解したりしていた部分も、信頼関係ができていた園長や担任からの説明で事実とその背後にある思い等を知ることができ、懇談会では学級全体が共感的な雰囲気になった。

ウ 考察

幼児と同じように、幼児をもつ保護者も一人一人個人差があることをふまえ、個別の対応を重要視して取り組んできたことで、園長や担任に悩みを気軽に相談でき、また保護者同士も共感的で温かい関係が築かれていっている。懇談会では「たくさんどろんこになって遊びを満喫して欲しい」と考えている保護者が多く、幼児期に大切にしたいことについて理解を得られていると感じた。園全体として、幼児も保護者も幼稚園に来るのを楽しんでいる状況が見られたので、幼児も気持ちが安定し、幼児期にふさわしい生活を送ることができていると思われる。

(2) 花巻市立花巻幼稚園の実践から

ア 保育者の意識変容や手応え

園の教育目標実現のために、保育のあり方や教育課程について職員全体で共通理解し、職員がチームとなって保育していこうという意識を高め合ってきたことが、園だよりの反応や、個別対応の事例の保護者の変容から手応えとして感じられ、より一層その大切さを実感していた。

茶話会では内容以前に保護者間のつながりがよいものになっているかを把握し、その後進め方や内容について検討していったのがよかったと感じている。また、保護者主体ではあるが、適時、副園長等が入って進めていくことで、スムーズに、また会の趣旨から逸れずに進められた。今後、更に保護者にとって有益な学びの場とするために、教師自身が保護者支援のための研修をしていく必要があると考えている。

イ 保護者の意識変容

園の教育の方向が、園だよりや茶話会、先生体験（保育参加）の折の教師の対応等から伝わってくるので、幼児教育の意義について多くの保護者の理解が進んでいる。また、チーム保育体制できめ細かにかかわっていることで、職員全体に一人一人を大切にしてもらっている実感が得られている。先生体験では、担任や副園長から聞く幼児の姿を実際に見て「このことだったのか」

という気付きにもつながっていた。

ウ 考察

幼稚園教育要領に基づいた園の教育の方針を職員全体で共通理解し、園だよりで具体的な事例も挙げながらわかりやすく発信していること、また教育方針に掲げていることを幼児一人一人に還元できるように、保育後はもちろん、保育中にも常に情報交換しながら保育に当たっていることが、保護者の信頼を得る大きな要因となっている。集団の中であって一人一人を大切にしたい保育を行うためには、保育者一人一人の気付きを生かした職員間でのコミュニケーションは欠かせない。

保護者が主体的に取り組んでいる茶話会も、安心して園に通わせられるという心理的安定の上に意欲的に進められているものと思われる。そして、それを支えているのは、園運営を含めた幼児期の教育について絶えず学び続けようとする職員の姿勢であると考えられる。

(3) 九戸村立幼稚園ひめぼたのこども園の実践から

ア 保育者の意識変容や手応え

子どもの姿が変化すれば保護者も理解できるだろうと考えて、これまでも幼稚園教育要領を基に、幼児期に大切にしたいこと（例えばじっくり遊び込む時間と場を保障すること、早く何かができるようになることよりも試行錯誤を十分させること等）について、保育の中で幼児に向けて働きかけを行ってきただけで、早期教育を望む保護者等もいて、親に向けた何らかの発信が必要だと感じ、子育て講演会や掲示板の活用による幼児の学びの可視化、読み聞かせの意義の伝達等を行って来た。そのことにより保護者の幼児期への理解が深まり、幼児期にふさわしい生活ができるようになったことで、改めて保護者への発信が大切であることを実感していた。

特に、遊びのプロセスを可視化する掲示板の活用では、連絡帳や口頭で伝えていたことの具体が分かり、保護者の幼児理解が深まったという手応えがあった。

また、掲示板や絵本の部屋が、普段あまり話すことのなかった父親と職員が話すきっかけになるなど、当初予想していなかった親子や保護者同士、また保護者と職員のコミュニケーションの場にもなり、幼児理解が深まると共にそこに集まった人同士の共感性も高まった。今後、さらに子どもの成長を共に喜び合える関係づくりに生かしたいと考えている。

イ 保護者の意識変容

講演会では、具体的な事例を聞いたことで、親自身がこれでいいんだと自信と希望をもち、楽しみながら子育てしていこうという意識が高まった。また幼児期の発達特性も理解したことで、登園時にまずは子どもの話を最後まで聞いてから送り出す等、幼児期にふさわしい対応をしようと意識するようになった。絵本の読み聞かせの意義の発信や、アンケートによる振り返りの機会を設けることで、保護者がその意義を改めて自覚し、読み聞かせに積極的に取り組むようになった。また、子どもたちが試行錯誤するプロセスが見える掲示板の活用により、幼児に対しての共感的な理解が深まり、幼児期のおもしろさを実感できるようになった。

ウ 考察

当園では、幼児をよりよく育てようとこれまでも充実した幼児期の教育を行ってきただけで、それを十分理解できないでいる保護者もいたために、幼児期の遊び等の価値を認められず、そのしわ寄せが幼児の生活にきていた。その解消のために、保護者の知識理解を高める働き掛けとして講演会や絵本の読み聞かせに関するおたよりの発行を試みたところ、年度の早い時期から保護者の意識が変化し、じっくり子どもの言葉を待ったり、やめていた読み聞かせを再開したりと、

子どもにとってよい状況が作られるようになっていった。このように、幼児期の教育の発信の範囲を園児から園児を含んだ保護者にまで意識的に広げることで、保護者の幼児教育に対する正しい理解が進み、結果的に幼児がよりよく育つ状況を作っていくことになる。

また、掲示板の活用で日常の保育の中での子どもの姿を継続的に捉え、可視化していくことで、例えば「園でただ遊んでいる。もっと字を覚えたり計算したりしてくれたらよいのに」という見方だった保護者が、幼児の経験していることが見えてきて、「かっぱからの手紙を一生懸命読もうとしている」「かっぱの期待に応えるために、友達と知恵を出し合い、知っている文字を駆使して手紙を書こうとしている」というように遊びの中に内包されている一視点としての文字を獲得していくプロセスに思いを寄せるなど、幼児期の遊びの意義に気付いていくことになった。子どもたちが試行錯誤し、心を動かして遊びを進めていく軌跡が見えてきたことで、運動会もかっぱ探検隊のイメージで行うことになったときに、保護者がかっぱに扮して障害走に登場するなど、保護者全体が幼児の遊びに対して共感的理解を深めていくことになった。

掲示板や絵本の部屋など、幼児教育の意義を発信するために職員が内容を吟味しながら作ったものが保護者の興味関心を引き出す場となり、そこに保護者が自然に集まり交流するようになった。園の中にこのような自然なコミュニケーションが生まれる居心地のよい空間ができたことは、保護者間に互助的な雰囲気を生み出し、ちょっとしたことを相談し合ったり共感し合ったりできる関係づくりにも役立つと思われる。

(4) 岩手大学教育学部附属幼稚園の実践から

ア 保育者の意識変容や手応え

常に幼児の自分づくりという視点から保育を考え、その意義を保護者へ発信する際により効果的な方法をと模索してきた。園だよりも保育参加でも、誕生会や保護者会等、保護者が集まるような機会でもできるだけ日常の具体的な姿を取り上げ、その中での体験の意味を丁寧に伝えるよう心がけていた。教師側も、保護者の見方や話題の中から個々の幼児の成長に気付かされたり、新たな幼児の姿の見取りの視点を得たりと学ぶことがたくさんあった。学んだことを保育に生かし、さらに幼児の育ちにつなげていきたいと考えている。

保育参加では、年齢が上がっていくにつれ、同じ保育参加でも保護者がアシスタントティーチャーとして存在している意味が少しずつ違ってきていることにも気付くことができている。年齢が低いほど、「私のお母さん」としての存在が大きいのが、年中ではミニ先生としての色合いが濃くなり、年長に至っては先生としての存在の他に、新たな考えをもつ仲間になったり、多様ななかかわり（反応）をしてくれる他者になったりと、自己の世界を広げる新たな環境としての存在の意味合いが出てきている。これは、年長では学級の枠を外して学年合同でかかわったりミーティングしたりしていることの意味付けにもなっている。また、談話会やクラブ活動を通し、異年齢の幼児を持つ保護者の交流も図られ、より多様な視点から子育てを考えたり、幼児の育ちを見通したりすることを可能にしていることから、今後もよりよい在り方を模索しながら継続していきたいと考えている。

保護者会の持ち方に関して、保護者の参加しやすさを考慮し、これまで降園後に行ってきたが、保育中に行うことにしたことで、多くの保護者から参加しやすいという声が聞かれた。また、園からの一方的な伝達ではなく、保護者と保育者が共に学び合う場という視点での保護者が主体的に参加できる様々な工夫は家庭と園の協働で子育てするという意識が高まることにつながっている。

保護者のニーズに寄り添い声を聞きながらも、幼児期の教育の理解が更に深められるよう絶えず工夫をし、発信していきたいと考えている。

イ 保護者の意識変容

保育参加等、様々な園からの働きかけにより、ときには保育者の見取りを越えた深い視点で子どもを見つめる保護者が現れたり、子どもの育ちにつながるかかわりを自然体で行っている保護者の姿がみられたりと、園も保護者も共に手を携えての幼児期の教育についての理解が進んできている。

ミーティング、談話会、クラブ活動といった、保護者同士が交流する機会が多くあるため、お互いに相談したり、助け合ったり、考えを広げたりすることができ、皆で子育てを楽しもうという土壌が作られている。

ウ 考察

幼児教育の研究先進園として、子育ての支援に関しても保護者の幼児期の教育への理解力の向上という視点で以前から意欲的に取り組んでいる。これまでのよい部分は継承しつつ、時代と共に変わっていく保護者の実態やニーズに合わせて常によりよく改善しようと試みている。そして、保護者に対し一方的に啓蒙するのではなく、保護者の気付きから自分達も学ぼうとしていることが、結果的に園と保護者が共に手を取り合い幼児を育てていこうという土壌を作っていくことにつながっている。連絡帳の活用、保護者会、保育参加のミーティング等、園と保護者両方にとって互惠性のあるものとなっている。

様々な働きかけを行う際も、幼児の自分づくりを支えることにつながっているかという視点を基に、十分検討した上で行っている。その緻密さがあるため、保育参加では年齢毎の保護者の存在の意味が違っていることへの気付き等が促され、さらなる改善への足がかりとなっている。一つ一つの取組が質の高いものとなるよう改善を重ねているため、保護者の幼児期の教育への理解が深まっている。

(5) 花巻市立湯本保育園の実践から

ア 保育者の意識変容や手応え

「ニコニコせんせい体験」は昨年度から実施しているが、保護者の様子や昨年度の反省から、参観ではなく参加型に変えたことが結果的に保護者の学びの深まりや園と保護者の相互理解につながっていったと感じている。保育者自身も、一緒に保育する保護者に保育の意図を伝えるために、日常何気なくしていたかかわりでも、改めてどんな意味があるのか考えたり、言葉掛けを吟味したり、幼児の姿をよりよく理解することに努めようとしたりと、自分の保育を振り返るよい機会となっていた。また、この新たな取組を園だよりで保護者の声と共に伝えたことで、まだ参加していない保護者のやってみたいという意欲を喚起できた。

個別面談は、実際の姿からその意味を保護者と共に考えるということができ、保護者はもちろん、保育者自身の学びにもつながった。園内研で学んだカウンセリングマインドを生かして保護者の思いを引き出すことができ、保護者との関係も深まった。

「ちびっこ夏祭り」についても、保護者参加型にしたことで、これまでの子どもの育ちを見極め、的確に伝えること、この行事の各年齢のねらいを明確にすることなど、日常の保育のあり方が問われることになったので、より自覚的によりよい保育を目指すこととなった。

このように、行事の在り方を大きく変えることは勇気があることではあるが、よりよいものを求めて意見を出し合い試行錯誤することで、職員の結束が強くなった。また、工夫した分達成感

も大きく、更によりよいものを目指したいという思いも生まれ、園の職員の資質向上につながった。

イ 保護者の意識変容

「ニコニコせんせい体験」が参加型になったことで保護者が主体的に保育にかかわることができた。幼児と共に活動することで、幼児が味わっている楽しさを共有したり、同じ年齢の幼児でも思いも発達も個々様々であること等、実感を伴って理解したりすることができ、普段の我が子へのかかわり方について振り返る機会となった。保育の意図が十分伝えられたため、手を出しすぎるのではなく待つことなど、意味を考えながらかかわることができ、日常に生かそうとするようになった。

個別面談では、具体的な姿を語り合えたことで、これからの子育ての方向が見えると共に、保育者にたくさん話を聞いてもらい、本音で思いを語ることもでき、信頼関係が構築できたので普段から気軽に相談できるようになった。

「ちびっこ夏祭り」も、これまでの流れや保育の意図を伝えられ、幼児と一緒に作戦タイムで話し合ったことで、一緒に盛り上げ楽しみたいという思いが醸成され、次の行事への参加の意欲を高めていった。園の行事が参加型になり保護者自身が体験して楽しめるようになったこともあり、父親の参加が増えた。そして、行事の中で父親同士の交流も生まれてきてきている。

ウ 考察

「ニコニコせんせい体験」や「ちびっこ夏祭り」をよりよいものにしていこうという意識で話し合い、参加型に変えたことで、保護者が幼児期のおもしろさを実感し子育てへの意欲が高まったと思われる。また、園での生活を目の当たりにすることで幼児の姿をその子の一連の文脈で捉えられるようになり、共感的に理解してかかわれるようになったりするなど、保護者と幼児両方にとってよい状況が生まれた。

このような保護者の幼児期の教育への理解を深めるための行事の持ち方は、単に形態だけを参加型にしたことで改善されるものではない。幼児の発達する姿を適切に読み取った上で保育のねらいを明確にし、それに向けて保育を構想するといった保育の基本を着実に行うことが、保護者に向けての発信の基となっている。保育の意図と子どもたちが作り上げていくプロセスをわかりやすく示しながら、共に育てる意識を醸成していくことの大切さがこの実践から分かる。

父親の参加が増えたが、参加型だと自分も活動を楽しめる上に子どもを介して他の保護者とも自然にやりとりできるところもあるため、参観に比べて参加しやすいからかもしれない。次回の園行事に向け意気込む役員の姿からも、園と一体になって子どもの育ちを支えようという意識の高まりが感じられる。

個別面談前に、職員が保護者に対してのカウンセリングマインドを大切にした対応について研修したことで、保護者に対してまずは傾聴する姿勢でかかわることができた。その結果本音も引き出すことができ、それに寄り添うことで信頼関係の構築につながった。職員も、研修で学んだことが自信となり、様々な悩みを相談されても焦らず気持ちにゆとりをもって話を聞くことができたようである。

常に実態を的確に把握し、よりよいものへ変化させていこうとする意識を持ち続けていくことを園全体で無理なく自然にできているところが、子育て支援の改善に向けたよい循環を生んでいる。

(6) 花巻市教育委員会の企画「ニコニコせんせい体験」についての研究協力員による考察

ア 保育者の意識変容や手応え

保護者を保育の中に受け入れることで、改めて自分の保育を見直したり、園全体として保育のあり方について、また保護者への対応の仕方について検討したりする様子が見られた。2年続けてきたことで、保育の質が向上している。園としての保護者への向き合い方も、幼児を中心としつつ、より保護者の思いに添ったものとなってきている。

イ 保護者の意識変容

昨年度に引き続き2回目の参加の保護者もいて、幼児の成長に喜びを感じたという感想があった。仕事や自分中心の生活を優先する保護者も多い中、園の保育者と一緒に保育体験をすることで、その楽しさや価値を感じ、子育てや教育に主体的に向き合おうとする保護者が増えてきている。保護者は子育てについて様々な不安を抱える中、園の保育者が自分に寄り添って子育てを共に考えてくれることを心強く思っているようである。

今年度は昨年度見られなかった父親の参加、両親での参加も見られた。昨年度に比べ、子育てに役立ったという声が多かった。

ウ 考察

保護者を受け入れることは、園における保育を見直すことであり、保護者に保育を理解し認めもらうための外部への発信でもある。また園毎の取組は、園の運営の主体性を育むものである。この取組に積極的な園は、保育の質の向上が見られ、それは生き生きとした幼児の姿につながっていると感じる。

また、各園で昨年の反省を生かし、参加しやすい環境を作る工夫があったことから、昨年度よりも保護者から本事業そのものや日程等についての不満の声は少なかった。

本事業は公立園全てで実施、法人立園では園の判断で実施している。本事業については市の広報等で周知しているため、昨年度末に実施した年長児保護者アンケートでは、本事業を実施していない園の保護者から「やってみたかった」という回答も数件寄せられ、本事業に対する関心の高さが窺えた。この2年間で園の保育も保護者の意識も相互に作用しプラスに変容してきているので、本事業が更によりよいものとなるよう工夫を重ね、継続していきたい。

Ⅷ 研究のまとめ

本研究は、幼稚園等における子育ての支援の基本的な方向性を示し、それに基づいた事例集を作成することで、保護者の幼児期の教育に関する理解力の向上に役立てるものである。以下、研究の成果と課題について述べる。

1 研究の成果

- (1) 幼稚園・こども園・保育所における親と子が共に育つための子育ての支援に関する基本構想について

主題にかかわる文献等を基に、育成型支援に含まれる要素を明らかにし、育成型支援を分類整理した。支援の類型毎にねらいや保育との関連を示し、支援の行う上での基本的な考え方をまとめることができた。

- (2) 基本構想に基づく実践事例の収集及び分析と考察

基本的な考え方に基づいて、各園での実践事例を収集し分類した。一事例毎に、育成型支援に含まれる要素について洗い出し、分析と考察を行った。

- (3) 親と子が共に育つための子育ての支援事例集の作成

幼稚園・こども園・保育所における親と子が共に育つための子育ての支援についての基本的な考

え方と、各研究協力園での実践事例から、「親と子が共に育つ子育ての支援事例集」を作成した。

(4) 各園での子育ての支援の実践結果とその分析と考察について

この分析と考察では、各園の特色を生かした取組に対する分析と考察を行った。類型別に様々な支援があるが、それらを総合した園全体の取組として、保育者がどのような手応えを感じたのか、保護者がどのような変容を見せたのかについて分析を行い、子育ての支援の効果を明らかにすることができたとともに、保育の質の向上が有効な子育ての支援にもつながっていることが明らかになった。

2 今後の課題

本研究では、「見えない教育」と言われている幼児教育の本来の在り方の重要性を保護者が理解し、子育てに意欲をもって取り組むことで、子どもの主体性を育むことを目的とした子育ての支援の事例集を作成した。このような子育ての支援を展開していくための支えとなる保育の質の充実については、今後も追究していく必要がある。

また、研究協力園のその後の保育及び幼児と保護者の変化についての検証が必要である。

<おわりに>

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました研究協力園の先生方、園児とその保護者のみなさんに心からお礼を申し上げます。また、研究協力員としてご協力いただきました先生に感謝申し上げます。

IX 引用文献及び参考文献

【引用文献】

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2014），『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館，p 12

文部科学省（2008），『幼稚園教育要領』，フレーベル館，p 16

文部科学省（2008），『幼稚園教育要領解説』，フレーベル館，p 26，p 236

【参考文献】

井桁容子（2015），「親が育つとき」，『幼児教育じほう 6月号』，全国国公立幼稚園・こども園園長会

伊藤良高（2014），『教育と福祉の課題』，晃洋書房

大豆生田啓友（2014），「新制度時代の保育の場における子育て支援の展望と課題」，『発達 140』，ミネルヴァ書房

大豆生田啓友・太田光洋・森上史朗編（2014），『よくわかる子育て支援・家庭支援論』，ミネルヴァ書房

蒲原基道・小田豊・神長美津子・篠原孝子編著（2006），『幼稚園・保育所・認定こども園から広げる子育て支援ネットワーク』，東洋館出版社

那須信樹（2014），「幼稚園における日常的な保育実践の可視化による『子育て支援』の実際～在園児保護者との日常的な連携を中心に～」，『保育の実践と研究 18-4』，スペース新社保育研究室

【引用 Web ページ】

子育て支援に関する研修プログラム作成協力者会議（2008），『幼稚園における子育て支援に関する研修について－研修プログラム作成のために－』，文部科学省

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2009/03/1

6/1258023_1.pdf

中央教育審議会（2005），『子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について（答申）』

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013102.htm

中央教育審議会（2015），『中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会教育課程企画特別部会における論点整理』

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm